

Toden house : 都電沿線の地域産業クラスターによる地域交流の試み

國本, 士史 / KUNIMOTO, Akihito

(発行年 / Year)

2012-03-24

(学位授与年月日 / Date of Granted)

2012-03-24

(学位名 / Degree Name)

修士(工学)

(学位授与機関 / Degree Grantor)

法政大学 (Hosei University)

2011 年度 修士設計



TODEN HOUSE

～ 都電沿線の地域産業クラスタによる地域交流の試み ～

法政大学大学院 工学研究科
建設工学専攻 キャリア3年コース
渡邊眞理研究室

09R5401 國本土史

主査 渡邊眞理教授
副査 陣内秀信教授
副査 大江新教授



TODEN HOUSE

～ 都電沿線の地域産業クラスタによる地域交流の試み ～

01. はじめに p.004

02. 計画の背景 p.005

02-1 市街地開発における局部性

02-2 都電沿線地域の生活・産業の変化

02-3 国際社会の成熟・多様化におけるニーズ

02-4 都電沿線の伝統的工芸による産業クラスターの可能性

03. 計画の目的 p.017

03-1 小規模で段階的な街並の構築

03-2 交通インフラでつながる職・研・住・遊の複合建築

04. 計画地とプログラム p.021

04-1 梶原停留所そば

04-2 都電雑司ヶ谷停留所そば

04-3 計画施設のプログラム

05. 建築計画 p.030

05-1 KAJIWARA HOUSE

05-2 ZOSHIGAYA HOUSE

06. おわりに p.061

参考文献リスト

01. はじめに

かつてのモーレツな成長を終えた日本では、この50年来で人口構成や産業構造が大きく変化した。

都市の構造においても老朽・陳腐化、空洞化、既存不適格などの問題が指摘され始めて久しくそれらは都市を構成するまちに多

くの社会的な影響を与え、今後の豊かな成熟化社会の実現に対して身動きの取れない複雑な状況を多々生み出している。

本計画を通して、これらの現象が特に顕著であると考えられるまちを包含した都電荒川線沿線に着目し伝統的な地域産業を核と

した、地域的なネットワークを強化するような公共的な場所づくりを通して確かな地域アイデンティティをもった豊かな街並づ

くりに向けて、わずかながらも活路を見出したい。

02. 計画の背景

02-1 市街地開発における局所性

02-2 都電沿線地域の生活・産業の変化

02-3 国際社会の成熟・多様化におけるニーズ

02-4 都電沿線の伝統的工芸による産業クラスターの可能性

江戸以前からの都市の近郊農村としての歴史を持つ都電荒川線の沿線地域では、その大半が東京都で指定されている木造密集重点整備地域に含まれている。また、高度成長期の急速な宅地開発を跨いだ複雑な地割りの継承・密集した住居によるまちの更新の困難さ、東京の外へスプロールした若い世代の都心回帰へのミスマッチ・それらの親世代をはじめとする単身世帯の急激な増加、少子はもとより超高齢化社会も目前となった地域のつながりの希薄化などの問題が、この地域では顕著に見受けられる。

また近年の都電沿線地域では、延焼遮断帯や総合的なインフラの円滑化を図るための拠点的な再開発が数多くなされているが、あくまでも部分的な開発に留まり、旧来の住民とともに地域のアイデンティティともいえる界隈の生活を消し去っている。このような拠点的な開発による時間的・空間的なまちの空白・断片化は地域社会の生活環境への大きなインパクトに加え、最終的には地場の産業に影響を与えている。

* 都電沿線地域の産業が顕著な地域は、大別すると商業地域であるまちと住工混在の準工業地域であるまちに分ける事が出来る。前者は池袋や大塚を有する豊島区、巣鴨や王子を有する北区、町屋や三ノ輪を有する荒川区である。また後者は比較的大きな企業の流通施設や研究所が集まる北区の沿線のまち、町工場をはじめとする中小・零細企業が集まる北区から荒川区にかけての沿線のまちである。ここでは本計画で扱う都電沿線の地場産業行く末、その性質や現状が最も強く現れると考えられる北区と荒川区について取り扱う。

02-1. 市街地開発における局所性

02-1-1. まちの断片化

近年、生産人口の世代交代、ライフステージの変化による住居の住み替え、街や建物の老朽化などを背景に大きな規模でのいわゆる再開発の動きが活発である。これらは防災・物流・交通・情報インフラなどの円滑化に公に益するものでもあるが、それらの改良をする一方で、その場所その場所に存在した地域に固有な生活風景に大きなインパクトを与える事は否めない。特に拠点型のものとなると計画や土地取得に際し半ば必然的に時間的・空間的な空白をまちの中に生み出す事になる。こうして線引きをされたまちの中に、その土地との脈絡の無い外部の存在が、まちの中に挿入されていけば、既存の人やまちの関係性も断片化していく結果、その場所だけのアイデンティティともいえる地域性が次第に失われていく事と考えられる。



図1. 長期に放置されるまち中の空白



図2. 閉鎖断面化する家屋



図3. 閉鎖断面化する家屋

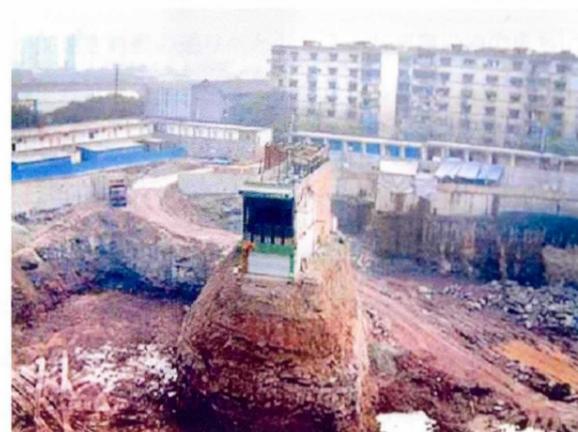


図4. 取り残される地権者



図5. 圧力を受ける家屋



図6 圧力を受ける家屋



図7. 車道により分断される界限



図8. かつて都電が分断した界限



図9. 閉鎖断面化する家屋

02-1-2. 都電のまちと拠点型開発

都電沿線のまちに関わる場所では、雑司ヶ谷・東池袋・町屋・日暮里・三ノ輪・南千住の地域などの開発がある。

既に開発が終わった所では、駅前を中心に街の表通りからスプロールするような、日々の生活に便利な拠点型の街づくりを行っている。そして特に豊島区・荒川区では近年の高層マンションによるものか比較的若年の生産年齢人口が増加してきている。しかし、そのうち地元住民に縁が無い様な人たちのライフスタイルは一概には言及できないが概ね以下のような場合が多いことと考えられる。

- ・交通の利便性を活かし、どこか他の街で生産行為をする
- ・日々の生活品は最寄りの駅付近の表通りで事足りる
- ・休みの日や夜遅いときには昔ながらの沿線の商店街に不便を覚える
- ・余暇も別の場所や街の施設で過ごす事が多い

こういったライフスタイルは果たして豊かな街並みを醸し出す地域性の向上に対して真に有効であろうか。



図 10. 沿線の都市計画道路整備

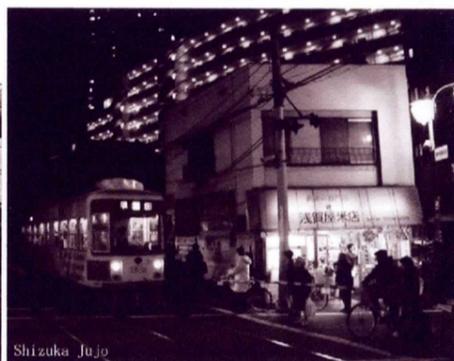


図 11. 地元に基づく商店



図 12. 地元に基づく商店

これらの人は経済的・地理的な理由からそこに居を置いているだけであって、決して自分の住むまちに根ざしているとは言えないだろう。かつて自動車が路面電車に取って代わった時に、まちの分断が加速され裏の通りへと引っ込んだ都電沿線のまちにはそれほど人が回帰してきている実感は無く、いわば人と街との交流が希薄になりつつある。

「向こう三間両隣り」の関係が人々に無意識に作用する様な都電沿線の下町的な地域において、また北区・荒川区などの住工混在地域では特に住・職・商の結びつきが強い為に、資本、流通ルート、その他経営体力が圧倒的な存在が下町地域の表通りに出現する際には、土地に脈絡の無い住民、商店や企業などによって時間の経過とともに地域の地理・歴史・文化的な背景が忘れ去られてしまいかねない。このように人やものの日常的な接点が高い密度で分散してまちを構築している都電沿線の下町的な地域には、あまりに多くのものをコンパクトにまとめ過ぎる拠点型の開発手法自体があまり適していないのではないだろうか。近年のこの地域における再開発の様子は戦後の混沌とした地域に清潔さや利便性を求めた結果、だんだんとその地域の面影が失われつつあることとどこか似ているかもしれない。



図 13. 南千住地域の開発



図 14. 町屋地域の開発



図 15. 日暮里地域の開発



図 16. 大塚地域の開発



図 17. 北千住地域の開発



図 18. 北千住地域の開発



図 18. 北池袋地域の開発



図 19. 北池袋地域の開発



図 20. 東池袋地域の開発



図 21. 東池袋地域の開発

02-2. 都電沿線地域の生活・産業の変化

02-2-1. 都電沿線地域と北豊島郡

かつて東京中に張り巡らされていた東京市電の交通網は唯一都電荒川線を残すのみとなっている。この都電沿線の地域は東京府時代の北豊島郡という江戸～東京を支えた近郊農村地帯であった。さらに戦中の軍用地・工場用地としての河川域の埋立てが進み、北区・荒川区は都内有数の工業地帯として発展する。そして高度成長期における急速な宅地開発、家内制工業的下請け企業のさらなる増加、工業取水による地盤沈下による河川氾濫の危険とともに細かく複雑な地割りの継承によるいわゆる密集地としての問題を抱えてきた。それに対し、画一的な堤防の整備や延焼遮断帯の整備が進められ、防災や都市インフラの面では大きな効果を得ているが、まちの中のエッジを新しく作り替えている為か、こと街並や生活風景の形成という面では必ずしもプラスに変化していない。



図 22. 東京府北豊島郡 1892 年

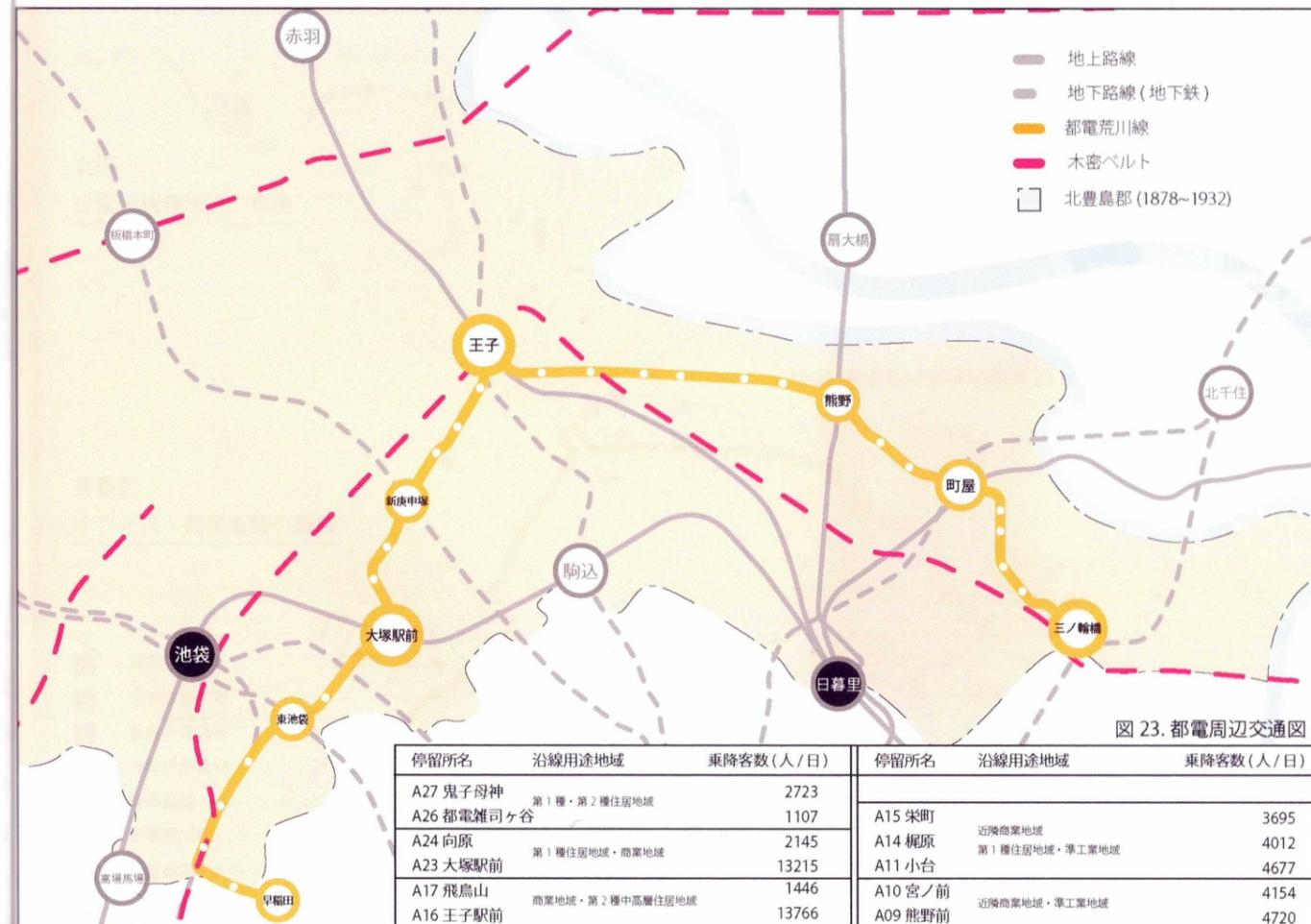


図 23. 都電周辺交通図

下図は都電が走る新宿区の一部、豊島区、北区と荒川区の4つの地域における人々の日々の生活に係る建物の用途利用をまとめたものである。豊島区はその地理と街の発展の歴史上、池袋地域が否応無しに中心とな近年では特に集合住宅がその周辺へとスプロールしている。北区では戦後より軍需工場などの跡地を中心に大規模な集合住宅がつくられ、主にそれらが現在の機工街や印刷産業、企業研究施設の集約地としてのまちを支えていると考えられる。また特に北区の東部と荒川区では専用住居、住商併用建物や住工併用建物が表の通りにも裏の通りにもまばらに点在しており、ここからも下町地域たる所が見てとれる。いずれにしても下図を一見して分かることは、近郊農村時代を彷彿とさせる細かな建物がいまだに目立つことである。またそこにはいわゆる木密ベルトが通っており、その大半が住居に挟まれて存在していることである。防災上、多くの危険をはらんではいないが、その分地域的なむすびつきが他地域に比べて強いものであろうことが考えられる。

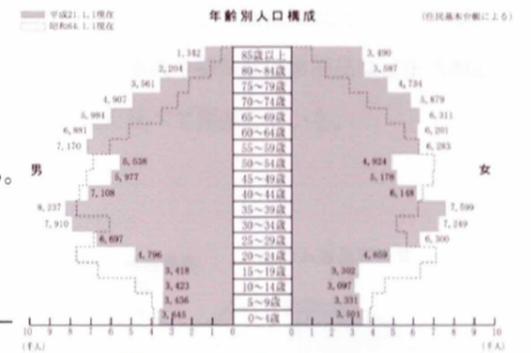


図 24. H.23 荒川区の人口統計

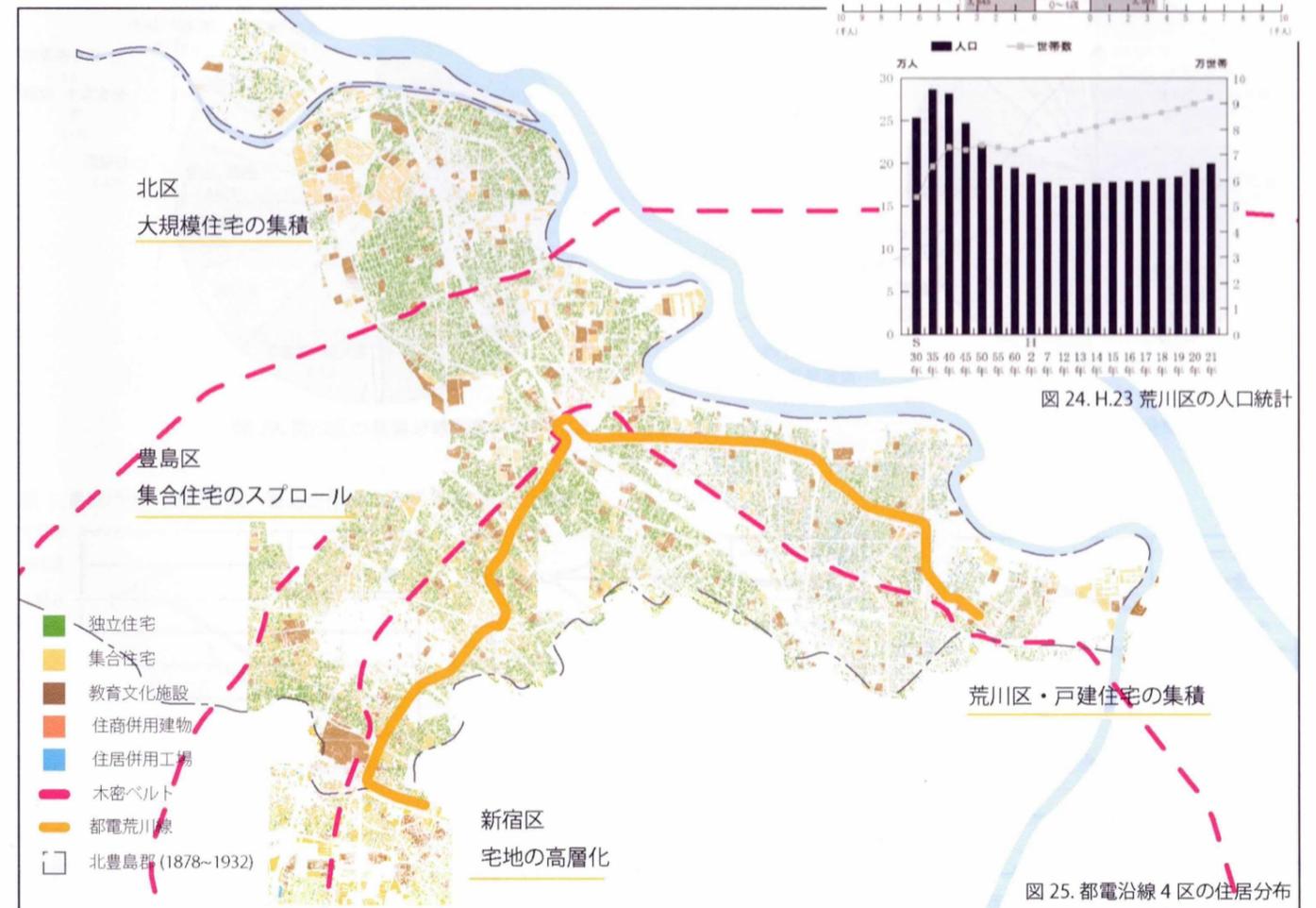
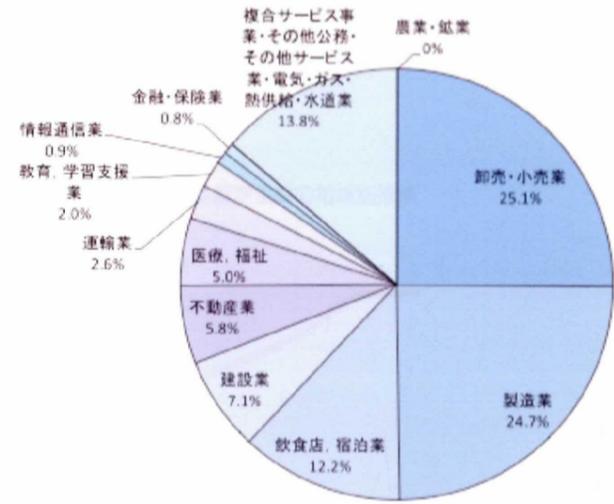
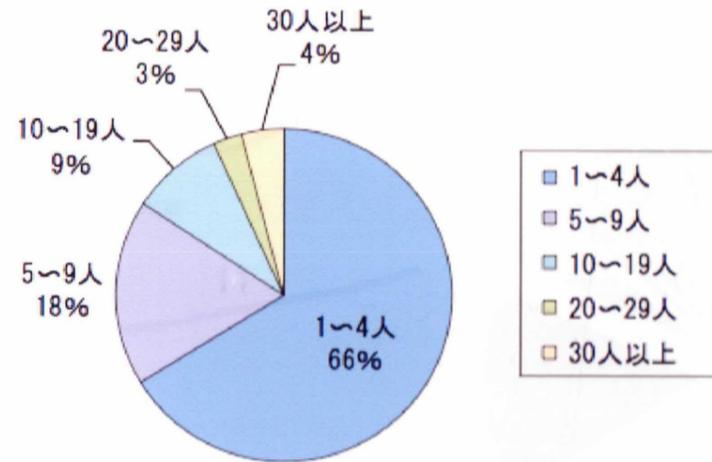
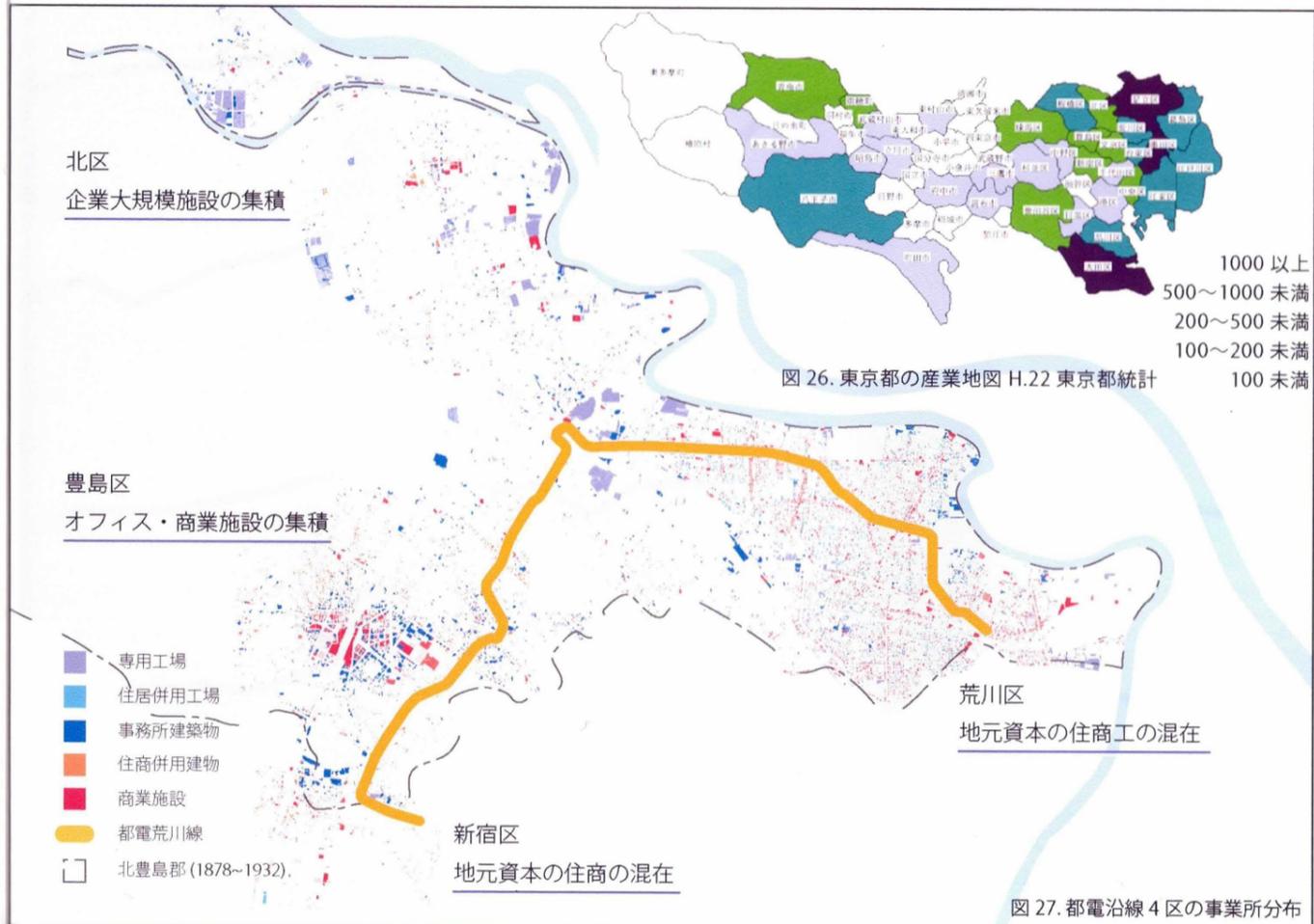


図 25. 都電沿線4区の住居分布

02-2-2. 都電沿線地域と産業

都電沿線地域の産業が顕著な地域は、大別すると商業地域であるまちと住工混在の準工業地域であるまちに分ける事が出来る。前者は池袋や大塚を有する豊島区、王子を有する北区、町屋や三ノ輪を有する荒川区である。また後者は比較的大きな企業の流通施設や研究所が集まる北区の沿線のまち、町工場をはじめとする中小・零細企業が集まる北区から荒川区にかけての沿線のまちである。ここでは本計画で扱う都電沿線の地場産業行く末、その性質や現状が最も強く現れると考えられる荒川区について取り扱う。

荒川区の総面積は 10.20km² で、23 区中 21 位であるが、23 区で第 7 位となる約 3600 以上の工場が集積している。特に 1km² あたりの工場数では 23 区で第 2 位の密度になる。しかし、それらの規模は非常に小さく、従業員 1~3 人の工場が全体の約 60% を占め、100 人以上の従業員を持つ工場は僅か数件である。下図を見ると、小規模な住商・住工併用建物や商業施設が細かく、細い線で結ばれていることが分かる。このように規模の小さな中小・零細企業が多数存在するのが荒川区の産業の最大の特徴であり、この産業の有りこそが、いわゆる下町と呼ばれる地域性を育んできた大きな要因であることは間違いない。



一方で、日本における一様の成長が終わり、大規模工場が移転していくとともにその体質上、影響が顕著であったのがこの地域の産業である。製品出荷額などの工業に関する景況は東京都や全国平均を大きく下回って減少傾向にある。しかし、大工場による大量需要の後も依然として規模の小さな事業所によって荒川区の産業は支えられている。また革や毛皮、衣服、家具や特殊な工業部品など生活用品に係る産業が他地域に比べて発達している。

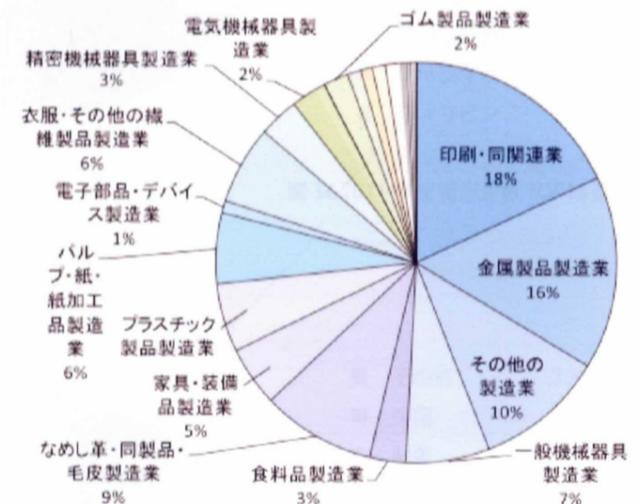
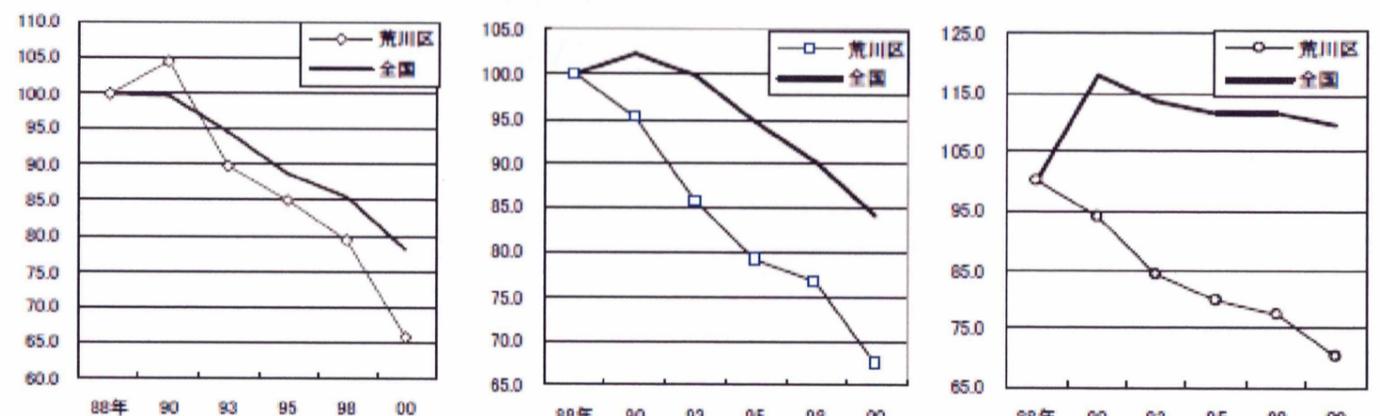


表 1. 事業所数・従業者数・製品出荷額の推移 H.20 荒川区統計



02-3. 国際化社会の成熟・多様化におけるニーズ

02-3-1. 日本を訪れる留学生の概況

「ものづくりの日本」ではいまだに留学生が増加している。留学生の総数はこの20数年で約14倍に膨れ上がっている。労働力に関する国の施策の影響もあるかもしれないが、1990年代から急激にその数が増えていることから、海外における企業活動の影響がある為と考えられる。留学生全体、あるいは長期の留学生をみるとアジアが圧倒的な数をほこるが、短期の留学生をみると欧州・豪州からの留学生が目立つ。また留学生の専攻分野をみると工学や理学の状況からものづくりの技術的な面がまだまだ海外からは魅力に映っていることが考えられるが、芸術や社会・人文科学分野の留学生の伸びを見ると、留学生の日本での学びの目的がハードな傾向からソフトな傾向に確実にシフトしてきていることが明らかである。そして近年の企業の外国人材の採用についても、当たり前のことではあるが、成績の優秀な人材の確保以上にその国のマナー、習慣や文化への理解が重視されており、留学生にはそういった面においても国際社会を牽引していくことへの期待が寄せられている。

留学生にはそういった面においても国際社会を牽引していくことへの期待が寄せられている。

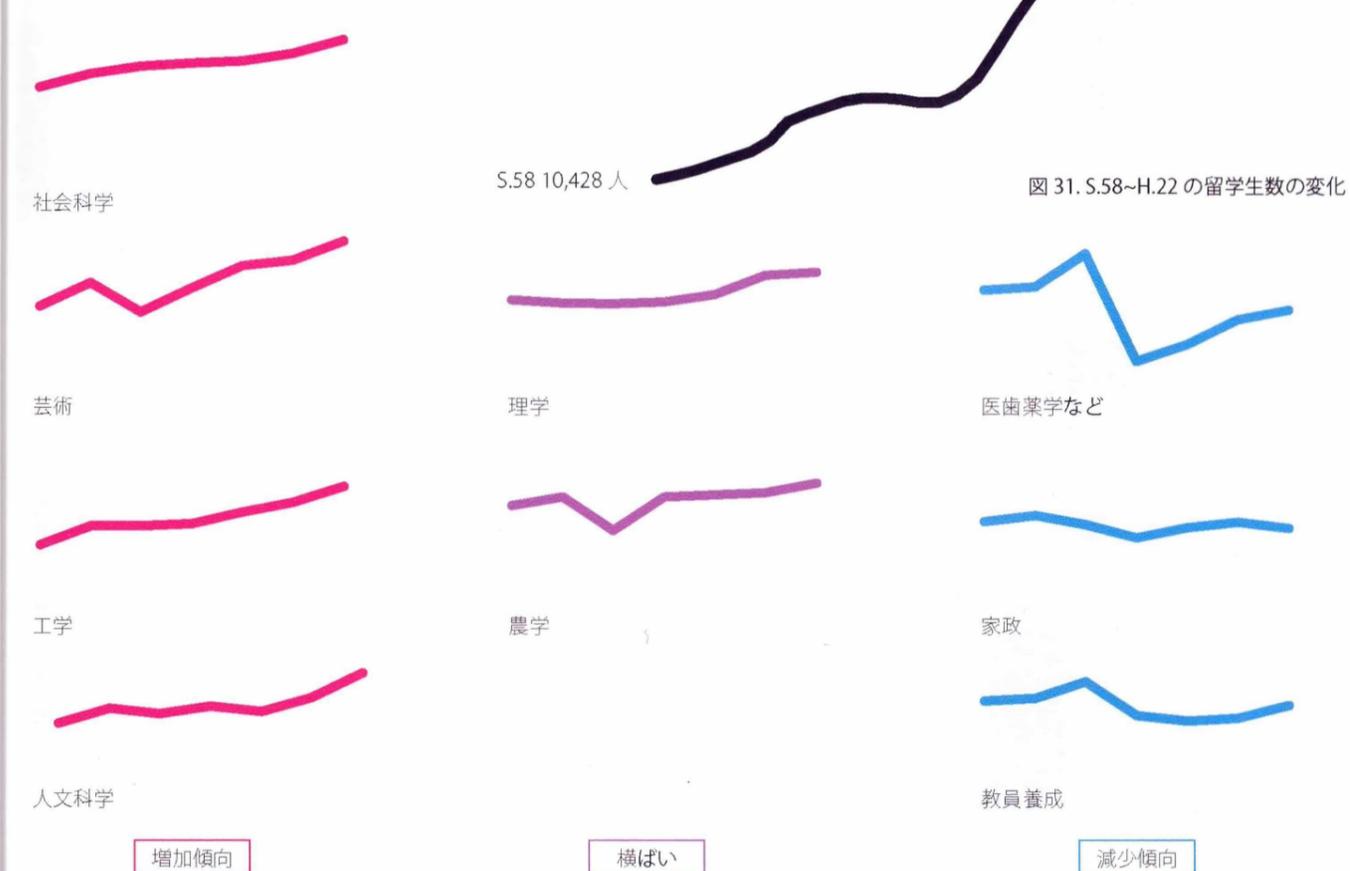


図 31. S.58~H.22 の留学生数の変化

図 32. H.16~H.22 留学生の専攻分野

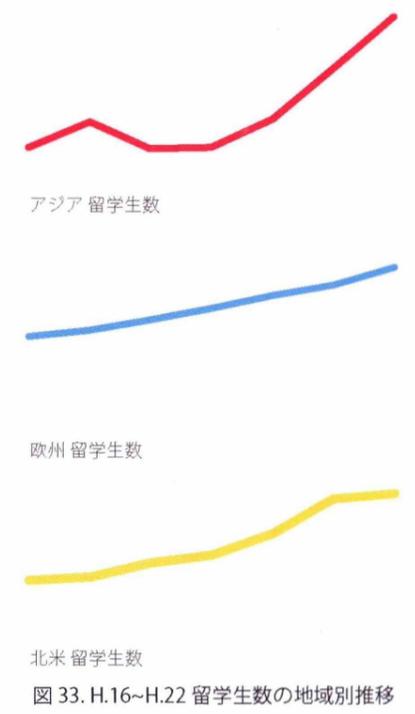


図 33. H.16~H.22 留学生数の地域別推移

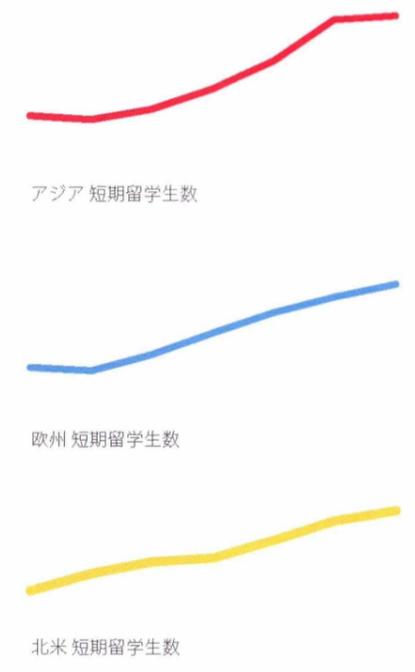


図 35. H.16~H.22 短期留学生数の地域別推移

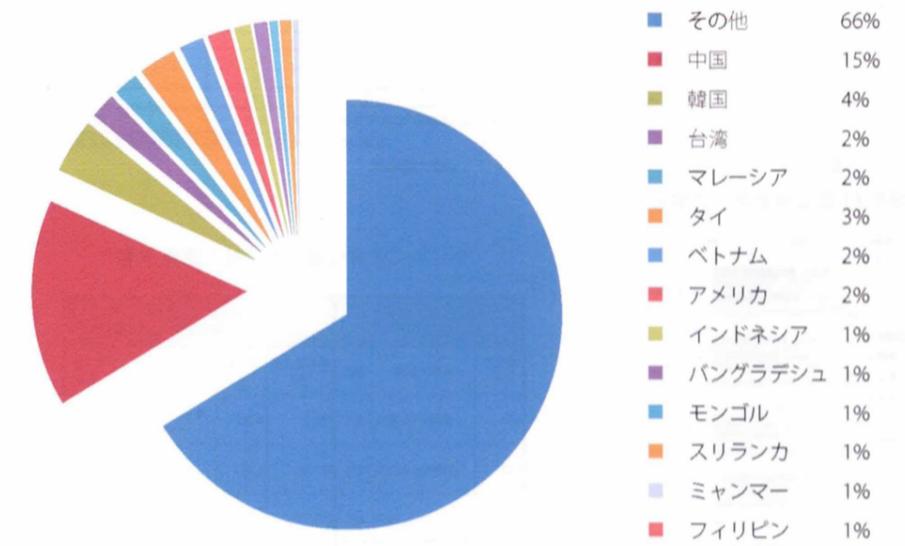


図 34. 2011 年度 留学生数 TOP15 国籍

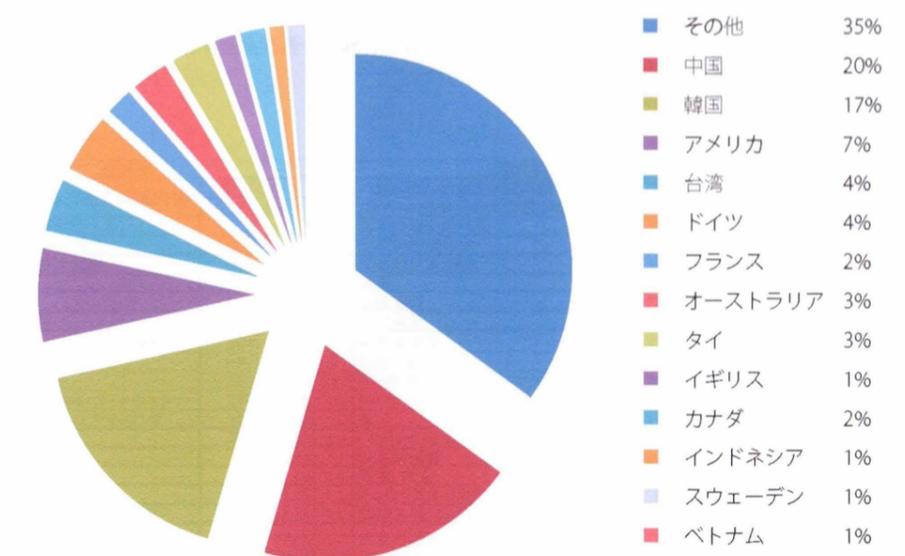


図 36. 2011 年度 短期留学生数 TOP15 国籍

02-3-2. 国際化社会の指向と傾向

一部の地域を除いてかつての世界的な右肩上がりの成長は既に終わり、地球規模で限りある資源や自然環境と向き合いながら持続的な発展を目指す以上、ますます成熟した国際感覚を有し異文化理解のできる人材が望まれていくことはいうまでもない。また人々の情報の取得や伝達の手段は日進月歩で進むITCの技術革新に乗り、国や人種の境はますます薄まっていく実感を多くの人々がもち始めており、例え国外の事柄であっても、個人単位で簡単に情報を公開したりアクセスできるようになっている。そこでひとつの例えとして旅行を例にとってみると、これまでのパックやツアー旅行のような外国や外国人を理解したような気持ちになる観光的・表層的なものから、単独旅行、ホームステイ、企業インターンや留学などのより深い異文化理解・新たな発見をしようとする傾向が目立ち始めている。また国際社会の嗜好は、世界中のどこにでもあるようなヒトやモノよりも、そこにしか存在しない固有のヒトやモノへとシフトしてきており、今後は国や都市といった以上に街や地域・界隈への深い興味や理解を通して身につけるであろう鋭敏な国際感覚を自国の豊かな発展への足掛かりとして、ますます成熟・多様化していくものと考えられる。



図 37. 書道体験の例



図 40. 茶道体験の例



図 43. 食文化の相互理解



図 38. 生け花体験の例



図 41. お座敷体験の例



図 44. ホームステイの例



図 39. 伝統的衣裳体験の例



図 42. 座禅体験の例



図 45. 異文化理解を強める外交

表 2. 日本で最も購入したい品目

順位	2009年			2008年			2007年		
	日本での購入希望品目 (複数回答: 5個まで選択)	件数	構成比	日本での購入希望品目 (複数回答: 5個まで選択)	件数	構成比	購入希望品目 (20年度の分類に準じ調整後)	件数	構成比
1	日本茶	141	32.8%	1 着物、ゆかた	260	30.8%	1 洋服	207	28.5%
2	カメラ、デジタルカメラ	134	30.9%	2 カメラ、デジタルカメラ	245	29.0%	2 カメラ、デジタルカメラ	198	27.3%
3	着物、ゆかた	133	30.7%	3 日本茶	220	26.0%	3 着物、ゆかた	150	20.7%
4	日本の菓子(和菓子含む)	126	29.1%	4 洋服	198	23.4%	4 履物、バッグ	146	20.1%
5	洋服	120	27.7%	5 玩具、キャラクターグッズ	160	18.9%	5 玩具・キャラクターグッズ	124	17.1%
6	玩具、キャラクターグッズ	106	24.5%	6 履物、バッグ	143	16.9%	6 日本茶	121	16.7%
7	履物、バッグ	104	24.0%	7 漫画本(新規設定項目)	137	16.2%	7 日本酒	112	15.4%
8	和風室内装飾品	100	23.1%	8 百貨ショップの小物	136	16.1%	8 日本の菓子(和菓子含む)	99	13.6%
9	日本酒	94	21.7%	9 日本の菓子(和菓子含む)	135	16.0%	9 日本の室内装飾品	93	12.8%
10	音響製品 (MP3 player, i-pod等)	89	20.6%	10 音響製品 (MP3 player, i-pod等)	132	15.6%	10 書籍	85	11.7%
11	陶磁器	77	17.8%	11 日本酒	125	14.8%	11 百貨ショップの小物	82	11.3%
12	漫画本	66	15.2%	12 和風室内装飾品	95	11.2%	12 陶磁器	79	10.9%
13	宝石・アクセサリー	64	14.8%	13 陶磁器	87	10.3%	13 音響製品 (i-pod等)	69	9.5%
14	百貨ショップの小物	54	12.5%	14 ゲーム機 (Wii等)	83	9.8%	14 DVD、CD(音楽、映画)	59	8.1%
15	DVD、CD (音楽、映画)	49	11.3%	15 宝石・アクセサリー	74	8.8%	15 宝石・アクセサリー	46	6.3%
16	ゲーム機 (Wii等)	48	11.1%	16 キッチン用具、テーブルウェア	69	8.2%	16 ゲーム機(ハード・ソフト・Wii等)	46	6.3%
17	その他	46	10.6%	17 DVD、CD (音楽、映画)	68	8.0%	17 キッチン用具、テーブルウェア	40	5.5%
18	文具	44	10.2%	18 書籍	64	7.8%	18 文具	35	4.8%
19	書籍	43	9.9%	19 文具	46	5.4%	19 その他	157	21.6%
20	キッチン用具、テーブルウェア	42	9.7%	20 その他	52	6.2%	計	1,948	268.3%
	計	1,680	388.0%	計	2,529	299.3%			

標本数433人

標本数845件

標本数726件

表 3. 中国人訪日者の買い物ランキング

購入率 順位	◆購入した費目◆ (複数回答)			◆満足した購入商品◆ (単一回答)		
	費目	購入率 (%)	購入者単価 (円)	商品小区分	順位	回答率 (%)
1位	化粧品・医薬品・トイレットリー	64.5	36,127	1位 化粧品	20.8	
2位	菓子類	58.2	11,611	2位 ファッション雑貨	14.8	
3位	その他食料品・飲料・酒・たばこ	40.1	16,831	3位 カメラ	13.8	
4位	服(和服以外)・かばん・靴	29.6	50,832	◆買物場所◆ (複数回答)		
5位	カメラ・ビデオカメラ・時計	29.2	67,229	順位	商品小区分	回答率 (%)
6位	電気製品(パソコン・音響機器など)	21.1	55,652	1位	空港の免税店	78.4
7位	和服(着物)・民芸品	11.6	14,901	2位	百貨店・デパート	65.2
8位	マンガ・DVD・アニメ関連商品	6.4	11,225	3位	スーパー・ショッピングセンター	65.2

表 4. 英国人訪日者の買い物ランキング

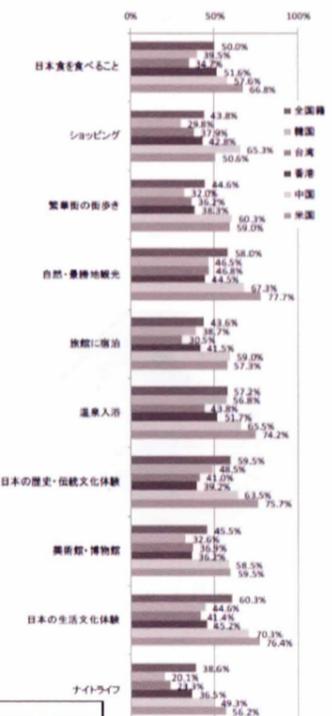
購入率 順位	◆購入した費目◆ (複数回答)			◆満足した購入商品◆ (単一回答)		
	費目	購入率 (%)	購入者単価 (円)	商品小区分	順位	回答率 (%)
1位	その他食料品・飲料・酒・たばこ	41.8	17,823	1位 民芸品・工芸品	19.2	
2位	菓子類	28.4	6,742	2位 ファッション雑貨	10.0	
3位	和服(着物)・民芸品	20.0	17,525	3位 衣類	9.7	
4位	服(和服以外)・かばん・靴	15.2	18,579	◆買物場所◆ (複数回答)		
5位	マンガ・DVD・アニメ関連商品	9.9	8,769	順位	商品小区分	回答率 (%)
6位	化粧品・医薬品・トイレットリー	8.3	7,434	1位	百貨店・デパート	49.1
7位	カメラ・ビデオカメラ・時計	6.9	54,218	2位	コンビニエンスストア	47.4
8位	電気製品(パソコン・音響機器など)	4.8	20,433	3位	スーパー・ショッピングセンター	46.3

成熟・未成熟国の国民の意識の差が、興味を持つ品目、購買場所や商品流通への関心に如実に現れる

表 6. 日本で最も関心のある体験

順位	2009年		2008年		2007年	
	最も関心のある体験内容	標本数433 件数 構成比	最も関心のある体験内容	標本数845 件数 構成比	最も関心のある体験内容 (2008年の選択項目に準じて調整後)	標本数726 件数 構成比
1	日本料理を食べる	304 70.2%	1 日本料理を食べる	553 65.4%	1 日本料理を食べる	517 71.2%
2	伝統的建築様式	278 64.2%	2 伝統的建築様式	451 53.4%	2 伝統的建築様式	357 49.2%
3	伝統的日本庭園	218 50.3%	3 伝統的日本庭園	383 45.3%	3 伝統的日本庭園	336 46.3%
4	旅館滞在	155 35.8%	4 温泉	312 36.9%	4 温泉	258 35.5%
5	温泉	147 33.9%	5 買物	248 29.3%	5 旅館滞在	208 28.7%
6	買物	138 31.9%	6 旅館滞在	226 26.7%	6 現代建築	172 23.7%
7	ポップカルチャー(アニメ、漫画etc.)	103 23.8%	7 ポップカルチャー(アニメ、漫画etc.)	204 24.1%	7 魚市場見学	161 22.2%
8	ハイキング・登山・サイクリング	102 23.6%	8 現代建築	197 23.3%	8 相撲、武道	152 20.9%
9	美術館・博物館・アートギャラリー	97 22.4%	9 魚市場見学	189 22.4%	9 美術館・博物館・アートギャラリー	145 20.0%
10	魚市場見学	83 19.2%	10 美術館・博物館・アートギャラリー	180 21.3%	10 ポップカルチャー(アニメ、漫画etc.)	132 18.2%
11	現代建築	78 18.0%	11 ハイキング・登山・サイクリング	157 18.6%	11 祭	127 17.5%
12	相撲、武道	77 17.8%	12 相撲、武道	156 18.5%	12 ハイキング・登山・サイクリング	109 15.0%
13	祭	62 14.3%	13 祭	134 15.9%	13 日本語学習	94 12.9%
14	日本語学習	44 10.2%	14 茶道、華道	97 11.5%	14 茶道、華道	74 10.2%
15	伝統工芸・美術品、陶芸	41 9.5%	15 日本語学習	93 11.0%	15 日本舞台芸術(歌舞伎、能、文楽)	65 9.0%
16	茶道、華道	34 7.9%	16 伝統工芸・美術品、陶芸	72 8.5%	16 伝統工芸・美術品、陶芸	65 9.0%
17	日本の伝統的舞臺芸術(歌舞伎、能、文楽)	34 7.9%	17 伝統的舞臺芸術(歌舞伎、能、文楽)	59 7.0%	17 日本の映画、現代劇、音楽	40 5.5%
18	その他	30 6.9%	18 書道	52 6.2%	18 書道	36 5.0%
19	書道	21 4.8%	19 その他	42 5.0%	19 その他	331 45.6%
20	日本の映画、現代劇、音楽	11 2.5%	20 日本の映画、現代劇、音楽	24 2.8%	*2007年は「買物」を選択肢として設定せず	
	計	2,057	計	3,829	計	3,379

表 5. 期待以上だった活動 (主国籍別、実施率上位 11 活動)



02-4. 都電沿線の伝統的工芸による産業クラスターの可能性

02-4-1. 地域産業とクラスター形成

荒川区は、印刷・金属加工・皮革などを中心に、区内の全事業所のおよそ 25% を製造業が占めており、ものづくりの盛んな地域である。これに対し東京都では 9.9%、全国で 9.6% となっている。近年事業所数が減少しているが、区内にまだまだ数多く存在する中小・零細企業が存在しているので、小規模・柔軟で多様な企業が集積した地域ならではのポテンシャルを活かした地域産業提携プログラムである MACC プロジェクトを H.18 より推進しており、2009 年時点で 90 社近くの企業が参加している。

また、区内高齢者の声を広く集め情報に精通し主に高齢者向けの健康福祉関連製品を開発することに大きな効果を上げている。



【参加団体】

荒川区、区内大学の健康福祉学部・他県大学・技術高専、
独立法人研究所、その他研究機関・支援機関

【事業の特徴】

国の産業クラスター計画の一環として他区・他県との広域的な連携体制を敷き、各プロジェクトに専門知識・経験・ネットワークが豊富なコーディネーターが外部機能的にアドバイスを行う。

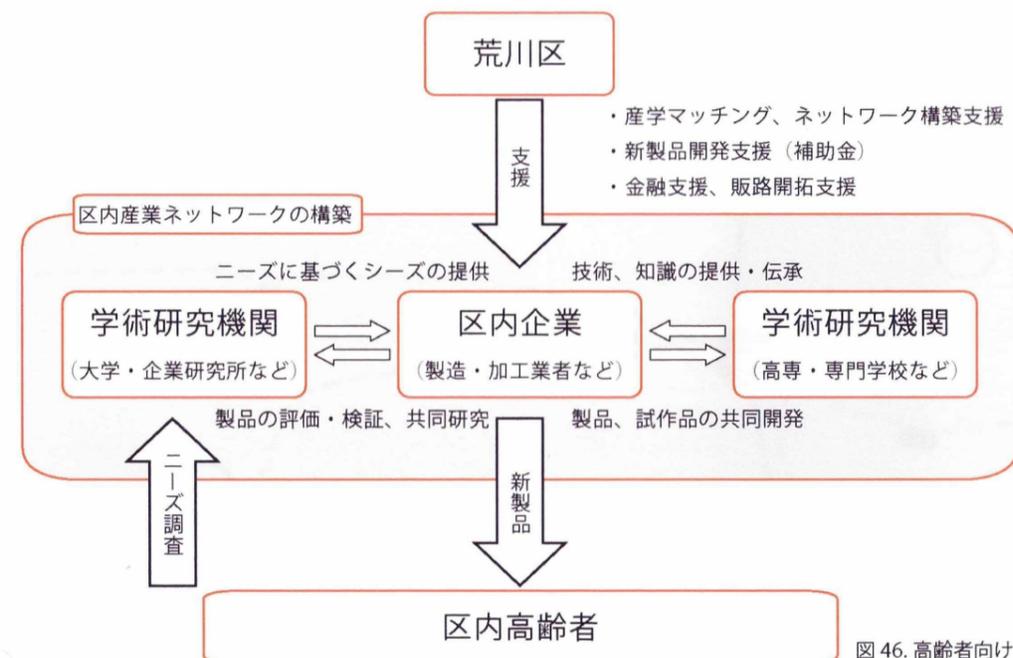


図 46. 高齢者向け製品開発のスキーム例

民・産・学の協働で生み出された製品の例

ここでは、実際に MACC プロジェクトで生み出された製品を取り上げる。企業のセミナーや教育機関での一般講座での民間アイデアが元になり開発に至ったケース、企業と学術機関が直接に顧客のニーズを汲み取り開発に至ったケースなど多様である。また実際に区内をはじめ多くの施設や生活者に利用されている。その強みはやはり小規模に集積する荒川区内の産業ネットワークであり、同時に直接生活者と顔を合わせて行うコミュニケーションを通じた確かな既存製品に関する分析、研究・実験、製作による迅速なフィードバックがなされる地域ぐるみの連携である。

ここには民(生活感)+産(生産技術・流通)+学(研究)=新製品の図式がある。



図 47 自立する杖



図 48 整体療法の補助具



図 50 整体療法の補助具



図 51 (小児)介護補助器具



図 52 お掃除スリッパ



図 53 癒し系玩具



図 54 新素材の万年筆



東京都に存在する伝統工芸品

東京都知事が認定する、東京都が指定する全41品目の伝統工芸品のうち、島嶼地域を除く38品目である。

また同様の指定を受け製造に従事する技術者のうち、特に高度な卓越した伝統技術・技法を有する190名の工芸士で構成される東京都伝統工芸士会が組織されている。

これらの担い手としては、無形文化遺産のような作家、企業として多くの職人を抱えての生産体制とる工芸士、自前のアトリエの無い個人作家まで多岐にわたる。



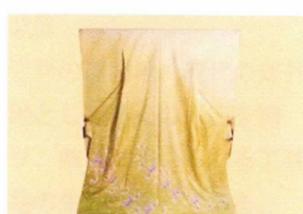
01. 東京染小紋



02. 江戸木目込人形



03. 東京銀器



04. 東京手描友禅



05. 東京くみひも



06. 江戸漆器



07. 江戸籠甲



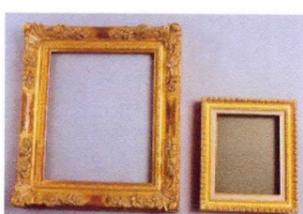
08. 江戸刷毛



09. 東京仏壇



10. 江戸つまみ簪



11. 東京額縁



12. 江戸象牙



13. 江戸指物



14. 江戸簾



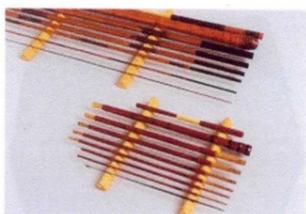
15. 江戸更紗



16. 東京本染ゆかた



17. 江戸切子



18. 江戸和竿



19. 江戸衣装着人形



20. 江戸押絵羽子板



21. 江戸甲冑



22. 東京藤工芸



23. 東京桐箆箆



24. 江戸刺繍



25. 江戸木彫刻



26. 東京彫金



27. 東京打刃物



28. 江戸表具



29. 東京三味線



30. 江戸筆



31. 東京無地染



32. 東京琴



33. 江戸唐紙



34. 江戸木版画



35. 江戸七宝



36. 東京手植ブラシ



37. 江戸ガラス



38. 江戸手描提灯

島しょ地域を除いた

全38品目

4区に存在する伝統的工芸品

都電沿線の新宿・豊島・北・荒川区には東京都で認定されているもの以外にも多彩な伝統的工芸が存在する。

その土地風土に根ざした祭事の道具、日用の道具・衣服や観光客の為の土産物などそれぞれに特色ある工芸品から、

高い技術力による加工品までが存在し、まさに地域に根ざした生活の技術・知恵が蓄積している。

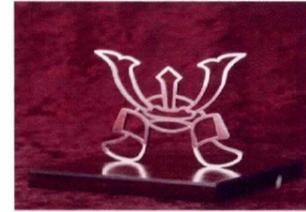
新宿区

清流であった神田川に沿って、染めの技術が発達してきた。またそれに伴い、模様に関する工芸品も多い。



北区

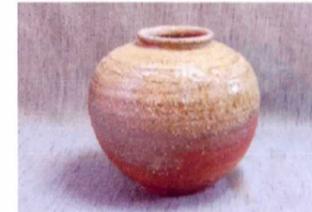
江戸の景勝地、現代の郊外地として多くの人口を誇り、祭事に用いられる工芸品の生産が盛んである。



銀細工



鍛金



陶芸



のれん染



半纏手拭



模様・糊画



とんぼ玉



縁起福熊手



蒔絵



建具



鋳金



鋳造



紋章



貴金属加工



浮世絵



江戸扇子



勘亭流文字



金箔押



テーラー



毛抜き製造

豊島区

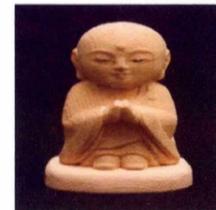
すすきみみずくに代表される寺町の風情を醸し、祭事や縁日に用いる工芸品がつくられている。



角兵衛獅子



犬張子



仏像彫刻



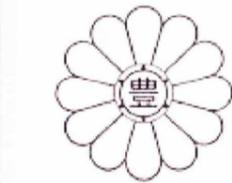
和服製作



竹芸



印章製造



すすきみみずく



風車



荒川区

下谷・日暮里地域にかけて東京の伝統工芸品の一大生産地となっている。江戸風情ある品が豊富に存在する



人形頭



唐木細工



御宮・神具



鉛筆製造

02-4-2. 都電沿線の伝統的工芸

現在の都電沿線の伝統的工芸の生産地をみると、「東京」が置かれる前に存在した、旧北豊島郡に多く分布していることが分かる。新宿区のある南側では神田河流域の染めの発達から、文様や絵柄に関する伝統的工芸が多く、北区や荒川区のある北側では旧くから皮革や布などの盛んな生産から日常用いられる比較的小さな生活品に関する伝統的工芸が多い。また、本調査での東京における伝統的工芸品 71 品目のうちの約 7 割の 52 品目がおおよそ都電沿線 1km 程の範囲で生み出されている。(子細に分類すればさらに多い)



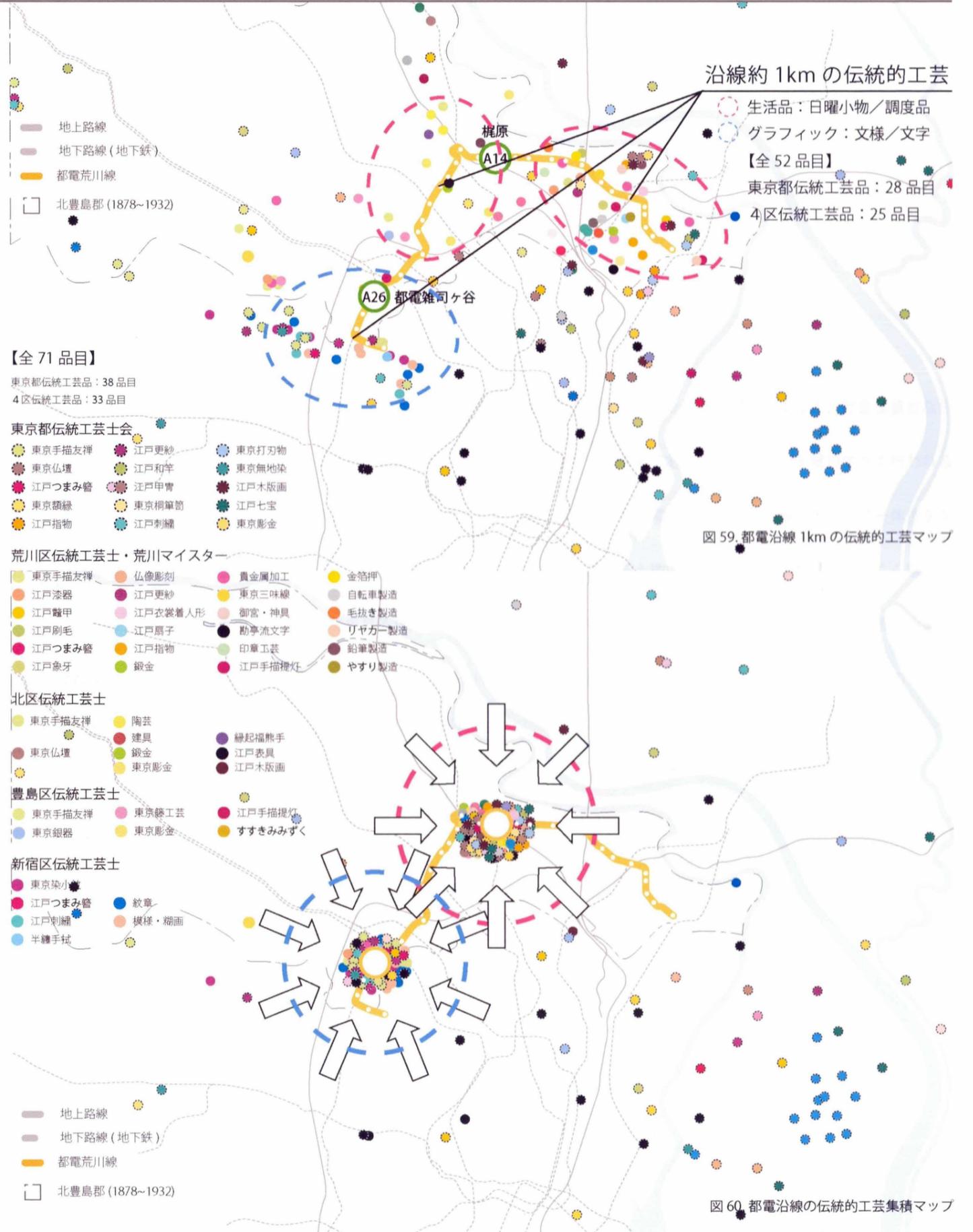
図 56. 荒川ショッピングモール(Eコマースサイト)

図 57. 伝統工芸展示イベント

図 58. 表出しない作家の作業場

現在の伝統的工芸について一概していえば、特に小規模なものであればなおのこと、その家内制工業的な生産の性格・経済的な面からもなかなかその活動が表出されないということが指摘できる。折角の居職という街並に対するポジティブな要素を持ち得ているのにも関わらず、ある種まちとの関係を遮断して生産が行われている面もある。また荒川区の産業と同様に、この伝統工芸の世界の大部分を支えている小規模な事業所にとっての受注・生産・流通体制をみると、(公的な)Eコマースによる販売が現在主流になりつつあり、直接の受注をしながら生産を行っているのは特に秀でた個人作家や、何代も続いている企業や法人を組織している比較的大規模な団体である。そして時に行われる催事に出展する機会などがあるが、まだまだ多くの才能や技が埋もれてしまっていることが推測される上、見込みによる生産ばかりでは現実の事業としてもなかなか立ち行かないことが多いのではないだろうか。

そこで、荒川区 MACC プロジェクトや全国での産業クラスター施策にならい、都電沿線に存在する伝統的工芸が集積する場をつくり、さらに都電を介したネットワークを利用してひとつの産業クラスターが形成できる可能性があると考えられる。そうすることで荒川区 MACC プロジェクトという先例の様な、生産者側と生活者との直接のコミュニケーションや技術者と研究者間の交流が幅に期待する。そして最終的にはまちの中へ居職を再び出現させることで、豊かな街並みの創出に貢献することが出来るのではないかと考える。



03. 計画の目的

03-1 小規模で段階的な街並みの構築

03-2 交通インフラでつながる職・研・住・遊の複合建築

いわゆる密集地域は様々な危険を孕んでいることは事実であるが、既存不適格などのレッテル・規制によって、社会は豊かな生活づくりに対して、自らを身動きのとりづらい状況に追いやっていることもまた事実である。また、それを解決すべく行われる大規模なまちの整備は地域の様々なポテンシャルを向上させるが、結局はどこかで日常の生活や土地に線引きをして一体性を欠いてしまうことになるだろう。そこで、大規模整備の影響により空白となっている土地にて、地域との乖離が起きにくく親しみやすい住宅規模の地域や境界での交流が生まれる施設をつくる。また、それを都電荒川線という地域バンドとも言えるインフラで複数結びつけることにより、ともすればエゴイスティックになりかねない拠点型の計画理念の介在を避け、かつ地域の日常に溶け込み、豊かな街並みを築ける様なものとしたい。

03-1. 小規模で段階的な街並みの構築

03-1-1. 都電沿線のまちの界索性

土地との結びつき、界索性に盲目的になりがちで大掛かりな開発が、都電沿線のまちに最適なものではないことは既に指摘した。馬車の代わりに登場した東京市電にはじまる路面電車、またかつての都電も一部で宅地を切り開き開通した歴史があることは否めない。しかし、路面電車（都電も含めて）がまちなかを走るようになってから100年余が経過し、様々な時代を経て現在の街が成り立っている以上、さらにその構成を急激に変えてしまうことは何よりもそこで生活をする者の依り処を破壊してしまいかねないのである。近郊農村時代からの細かく複雑な地割りの継承に基づく、密接な住・職・商の介在する沿線地域特有の地域的なつながりが沿線のまちの構成原理の根底にあり、それによる「向こう三軒両隣り」に代表されるこの地域の下町的な性質がこの地域における生活景の最大の特徴である。様々な種類の商店、製造業の作業場やそれに従事する人々の共同住宅、まちの分断をし過ぎることの無い交通インフラが中心になって人々が生活するまちに対し、本計画を通して地域に根ざした小規模で段階的な街並みの構築のあり方を模索する。



図 61. 鬼子母神の祭り (鬼子母神駅)

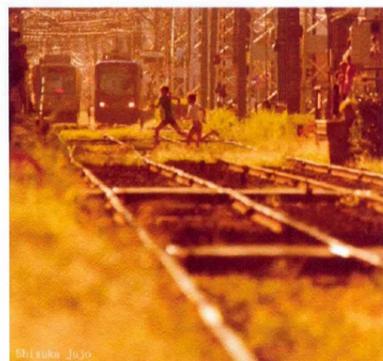


図 62. 遊び場としての軌道敷 (荒川遊園地前)



図 63. 東池袋の祭り (東池袋4丁目駅)



図 64. 線路脇の光景 (三ノ輪橋駅)



図 65. 歩行者を優先させる電車 (大塚駅)



図 66. 駐車場の光景 (東池袋4丁目駅)



図 67. 路地から続く商店 (三ノ輪橋駅)



図 68. 停留所と直結する商店街 (三ノ輪橋駅)



図 69. 路地から続く商店 (大塚駅)



図 70. 停車場と直結する商店街 (三ノ輪橋駅)



図 71. 軌道からつづく路地 (荒川7丁目駅)



図 72. 路地から続く商店 (町屋2丁目駅)

この生活景の特徴を生み出している建築的な要素は、低層な密集地の路地空間と、住まいや仕事場と公共交通インフラとの距離感であると考えられる。これによって引き起こされるものが、何気なくとも起こりうる日常的な住民間のコミュニケーションであろう。

こうしたヒューマンスケール、アイレベルで空間を把握できる平面的な構成の要素を本計画の中にも活かすことで、施設の利用の際に生まれる利用者同士、あるいは地域住民の偶発的なコミュニケーションを促すものとした。

03-1-2. 都電沿線の路地空間

都電沿線に存在する路地空間は右に示すような複数のタイプに分類できる。それぞれのタイプの路地の出現には主にその路地が通る道路空間に面する土地の権利者、あるいは道路空間自体の権利者によるところが大きい。しかし、タイプごとに路地の入り口、路地の途中の直線、路地の途中のクランク、中程に広がる溜まり、路地の中にある住居の生け垣、植栽、窓や戸の配置に意味がありそれぞれに歩行中、歩行後に受けるそれぞれの路地空間に対する印象は異なるものである。例えば、視線の向こうに見え隠れしているものには無意識に注意を向けたり、先の見えない曲がり角の続きはそれまで来た道と異なる度合いが大きければ大きい程さらなる先への関心を抱かせられる。そして道の途中にある住民の物的な痕跡を見て、隣同士、あるいはその路地の住民の一連の関係にまで想いを馳せるものである。このようにタイプは異なるが土地に馴染みのあるような路地空間の構成を利用して本計画中の室構成や内部での活動に一層の豊かさを与えたい。下の写真は私が上記の様な歩行印象を受けた都電庚申塚駅付近の通り抜けタイプの路地のシーケンスである。



図 74. 庚申塚駅付近のある路地のシーケンス



路地タイプ1
通り抜け



路地と路地をつないだり、主に生活者のみが使用する抜け道としての構成。

→ 外部と内部の人を会わせる辻をつくる

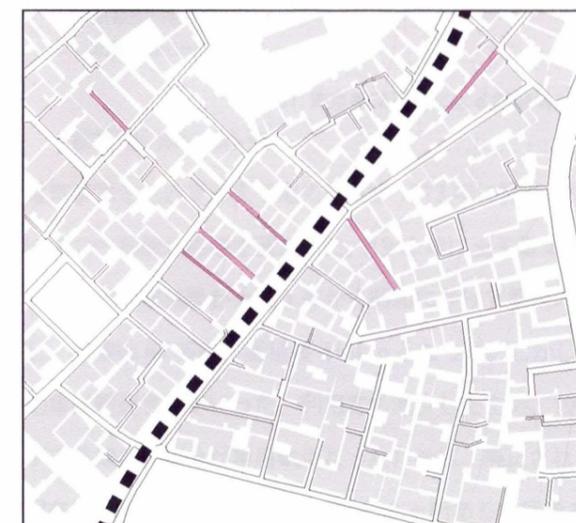


路地タイプ2
袋小路

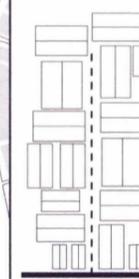


旧道からの路地の引込みや、回遊性のある行き止まりとしての構成。

→ 思案の出来る安らぎのある場所をつくる



路地タイプ3
引き込み



奥の旧家へと路地を引込み、その路地に沿って家屋が並ぶ。

→ 利用者を限定するが共同利用できる 場所をつくる

図 75. 路地のタイプ別の機能分析

03-2. 交通インフラでつながる住・職・研・遊の複合建築

都電沿線の土地との結びつきのある伝統的工芸という地域産業にスポットを当て、さらにそれらが日常的に集約する拠点をつくり、住・職(商)・研・遊の要素が日々人々によってかたちづくられていくようなものを、都電という公共交通インフラのネットワーク上に点在させる。これによって、地域に新しい産業のあり方の可能性と異文化理解への貢献の役割を同時に果たすかもしれないひとつの例を示す。また考え方ひとつでは大げさなものになる、人々の自由な活動による街並みの構築にブレーキをかけてしまいかねない密集地や既存不適格などのレッテルが蔓延し、クリーンでコンパクトな街が新たに生み出されようとしている状況に対し、かつてはもっと混沌とした人々の活動に対しておおらかであったこの地域の様子、匂いともいえるような界限性を少しでも再び揺すり起こすことを本計画の目的としたい。



図 75. 都電停留所の様子 (昭和と平成の比較)

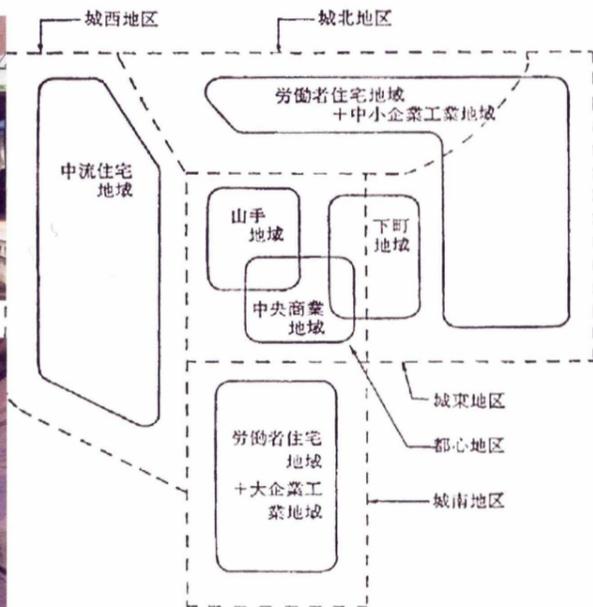


図 76. 東京 23 区内の地域構造 (菊池美代志 大都市地域の諸相 1985)

都市社会学的に東京 23 区を分けた場合、荒川区は「城東六区」(菊池美代志 大都市地域の諸相 1985)に含まれ、台東・墨田・江東・江戸川・葛飾と同じ区分にされており、「工場を中心とした古い馴染みの人々からなる、一体的で、流動性の低い、伝統的な都市型の町工場コミュニティ」と表現されている。ここでいう低い流動性とは、馴染みの住民間で醸し出される安心感のある安定した生活の風景が荒川区のような住工混在の地域ぐるみで否応無くとも担保されていたからと考えられる。このように地域に通底する誰もが関わりを持てる地域資源ともいえるコミュニケーションの種が、今後更なる新規の人口流入が見込まれる地域にこそ望まれている気がしてならない。



図 77 東京都電気局による路線網 (1903~1972)



図 78. 昭和初期の荒川線の様子



図 79. 王子電気軌道による路線網 (1911~1943)



図 80. 東京の路面電車最盛期 (1943 頃)



図 81. 東京都交通局による路線網 (1974~)



図 82. 自動車により狭くなる都電の軌道

* 都電荒川線について

電気事業を主とする王子電気軌道が 1913 年に開通させた私営の路面電車であり自社の電力供給エリアにかかる範囲を中心に最終的に 2 つの系統の路線を運営した。1942 年に王子電気軌道が解散すると京都市電気局 (東京都交通局) がこの路線事業を引き継ぐ。そして京都市電気局が大正 4 件から昭和にかけて都民の足としての路線を拡大、最盛期の 1943 (昭和 18) 年には、1 日 193 万人が利用し、路線は 41 系統・総延長 213km となった。しかし、戦後の発展に伴い、自動車の洪水の中で身動ができなくなり次第に都電は自動車に駆逐されていった。利用客も減少したため、1967 年から 1972 年にかけて、184km もの路線が廃止された。そのような状況下で路線の大部分が専用軌道だったために、廃止されずに残っていた 2 つの系統が 1974 年に統合されて都電荒川線の運営が始まり、現在でも約 5 万数千人の利用者が 30 ヶ所ある停留所を往来しており、住民とともに沿線地域の歴史を築いてきた。

04. 計画地とプログラム

04-1 「梶原停留所」そば

04-2 「都電雑司ヶ谷停留所」そば

04-3 計画施設のプログラム

都電雑司ヶ谷・梶原という2つの停留所の直近に立地し、どちらも都の都市計画道路の整備方針である「第三次事業化計画」中の優先整備路線の範疇にある。これらの整備の主な目的は、防災や物流面の円滑化を図る道路網の構築である。本計画では、一方の敷地では日本有数の移動交通・商圈を抱える池袋の交通混雑緩和の為に必要な道路であり、もう一方の敷地では都電の歴史とともに形成されてきたともいえる非常にローカルな商店街中にある生活密着型の道路であるという考えに立脚する。その上で、職・商・住という土地の性格をにらみ、沿線地域の個性豊かな産業を巻き込む為にもこの2つの計画地を選定した。

04-1. 「梶原停留所」そば

「梶原停留所」は正確には北区上中里と堀船にまたがる隅田川まで約 500m 程の土地に存在する。また停留所はこのまちの中心である梶原銀座商店街の入り口すぐの所に位置する。明治・大正・昭和にかけて隅田川流域に展開した軍需工場をはじめ、紡績工場、ビール工場、印刷工場など多く工員を必要とする産業エリアの三業地として活況を呈していた。現在でも隅田川へと至る途中には国営の国立印刷局や大手新聞数社による合同の印刷工場があり、また幹線道路である明治通りを跨ぐと下請け企業を含む小規模の印刷工場が集積する住工混在地域の中心地である。このような歴史から現在でも小ぶりながらもひと通りのものが揃う利便性から、地元民や都電沿線民の愛着が強い商店街が残っている。

またこの停留所から明治通りへ抜ける手前で都の優先整備路線の整備の手が止まっており、停留所と同様に、付近の整備範囲にかかっている開発予定の大きな空き地も建築計画表示のみを残して数年間放置されており、住民の何かしらの抵抗を感じる。ここでの都の整備方針は防災・インフラ面での円滑化を図る為の車道の開通であるが、停留所を含む範囲での整備が予定されている為、本計画では歩行者のみの生活道路としての利用を促進する空地として整備してその後の利用に耐えうるものとする。

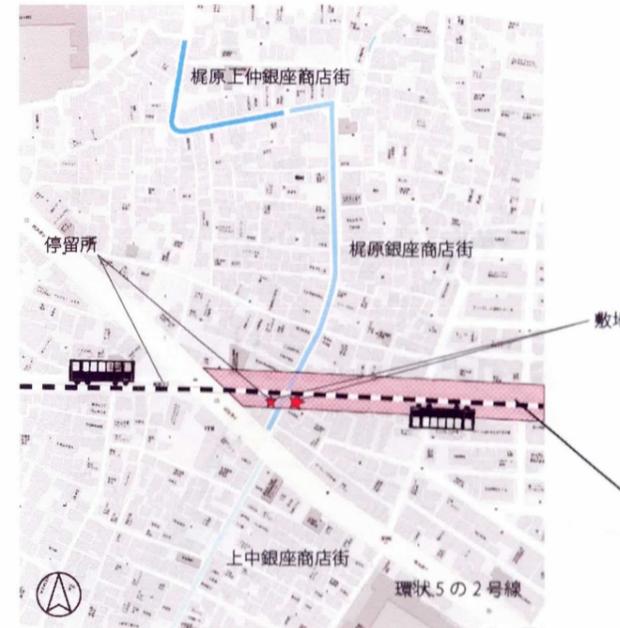


図 86. 敷地と都市計画道路整備範囲の略図



図 87. 敷地周辺地図 (Google map)

軌道式を中心から両脇幅 30m の都市計画道路優先整備範囲 (東京都第三次事業化計画 優先整備路線)



図 83. 梶原銀座商店街



図 84. 梶原銀座商店街



図 88. 軌道脇の角地に位置する敷地



図 85. 道路を挟んで正対する二つの敷地



図 89. 道路を挟んで正対する二つの敷地



04-2. 「都電雑司ヶ谷停留所」そば

雑司ヶ谷霊園がその大半を占める南池袋の地にある。南池袋は、かつては寺町・花街として栄えていた雑司ヶ谷のまちの一部であり、また南池袋からサンシャインシティがある東池袋にかけては付近の雑司ヶ谷や鬼子母神のまち同様にいまだに寺社が多く、商業の街の池袋のイメージとは少し異なる落ち着いた雰囲気を見せる土地でもある。また付近の雑司ヶ谷や鬼子母神の古い商店街では近年の集合住宅による人口の増加が起きているが、居職による居ながらの商いや住民の活動がまちなかに表出することが望まれている。

池袋東口の通過交通解消の為、梶原停留所と同じく幹線道路である明治通りの拡幅整備による道路用地確保の為の住居の立退きが行われ、現在住居の立退きは全て完了している。また付近に、東京都の「しゃれた街並みづくり推進条例」に基づき指定された街並み再生地区中に、老朽化した豊島区役所の代わりとなる新庁舎が計画・着工されており、池袋の生活圏が雑司ヶ谷霊園の方角、つまり南東の方へ拡大してくることが想像に容易い。敷地は拡幅されたこの道路の沿道にあり、この沿道地区では街並み再生地区につづく豊かな街並みづくりが望まれている。



図 94. 沿道整備地区の略図

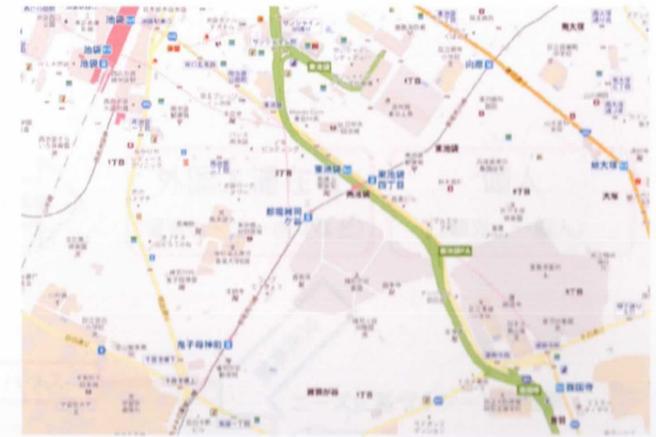


図 95. 敷地周辺地図 (Google map)

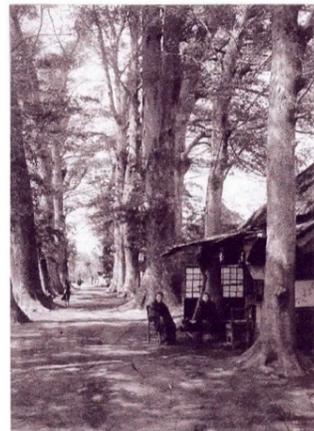


図 90. 明治期の雑司ヶ谷



図 91. 鬼子母神から雑司ヶ谷方面をみる

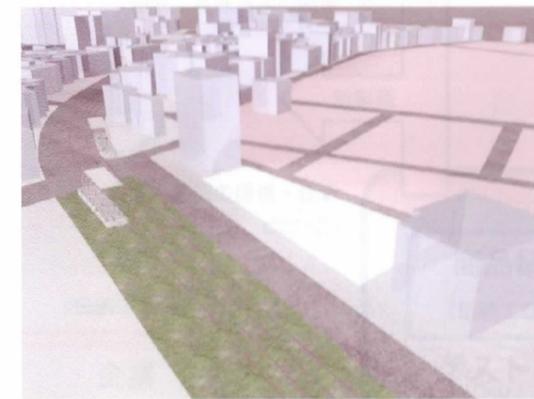


図 96. 道路整備により削り整形された敷地

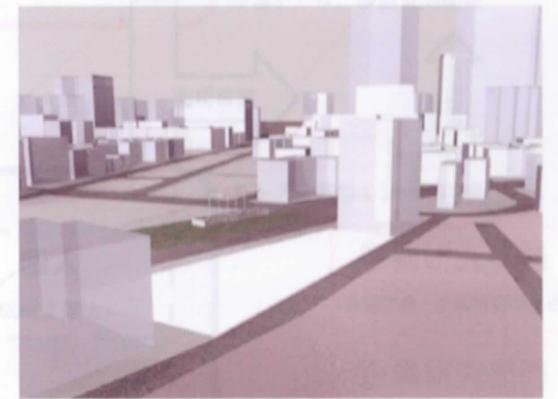


図 92. 南池袋 (街並み再生地区)



図 93. 雑司ヶ谷霊園を背景にする計画敷地



図 97. 池袋とは思えない静けさをたたえる敷地の環境



04-3. 計画施設のプログラム

伝統工芸の世界を支える小規模な事業所や個人作家を取り囲む状況や、地域や界隈へと進むであろう国際社会における異文化理解のニーズについては既に指摘したとおりである。

そこで本計画では、仮に伝統工芸士の組合に属する商品研究所をつくり、同時にその団体が伝統的工芸体験型のゲストハウスを運営することで、高まる日本及び江戸・東京の深い文化理解を促す。沿線地域に散在する個人作家から伝統工芸企業、研究機関までを巻き込み、誰もが利用できる伝統的工芸の体験講座を開き、蓄積された知識や技術を多方面に共有しながら市場ニーズを把握する。また地域に根ざしている伝統的工芸にはその性格上、地勢的・歴史的な文脈が豊富に含まれている為、外国人のみならず、東京で暮らす住民や地域の住民に対する発信力も十分に秘めていると考えられる。

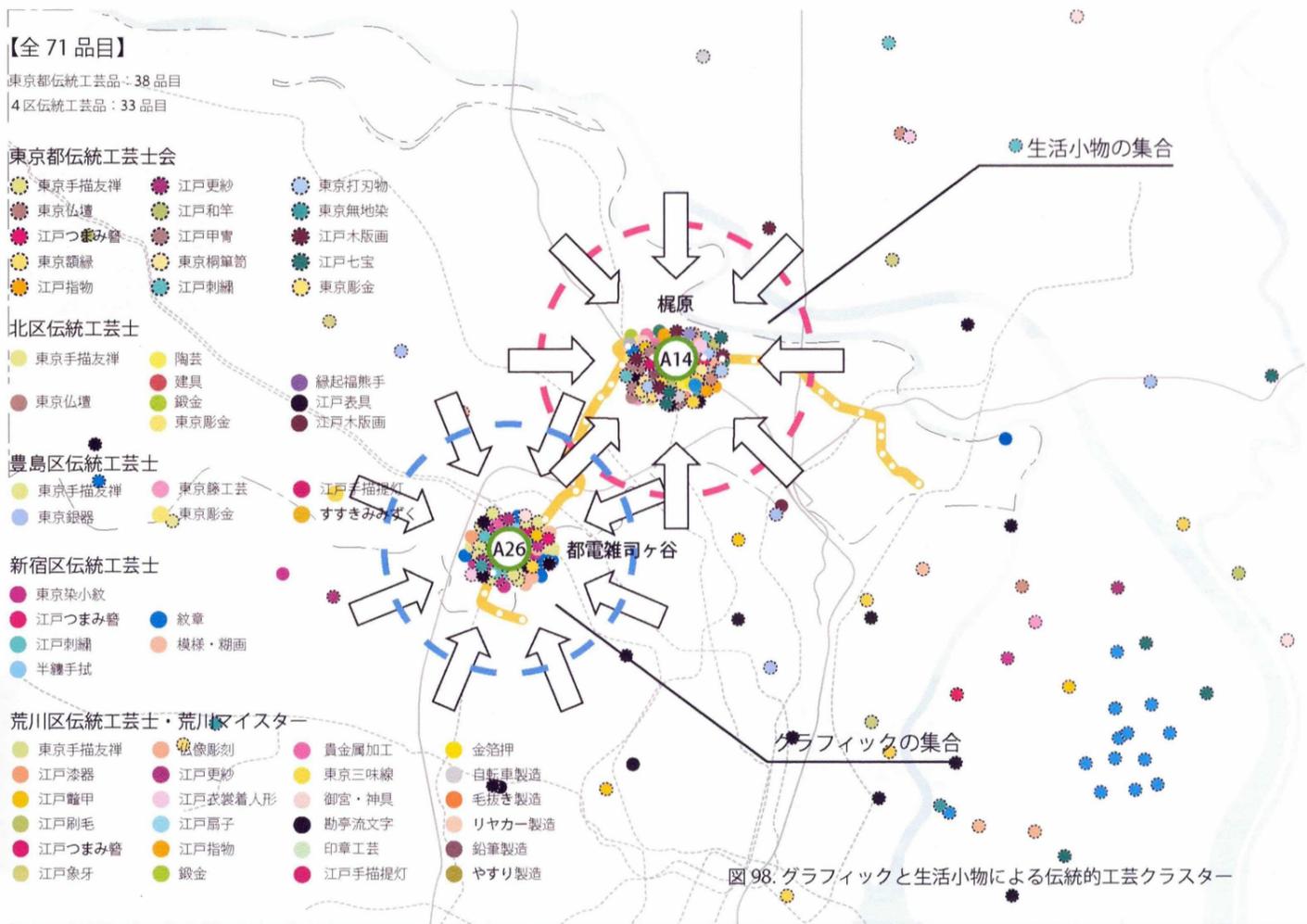


図 98. グラフィックと生活小物による伝統的工芸クラスター

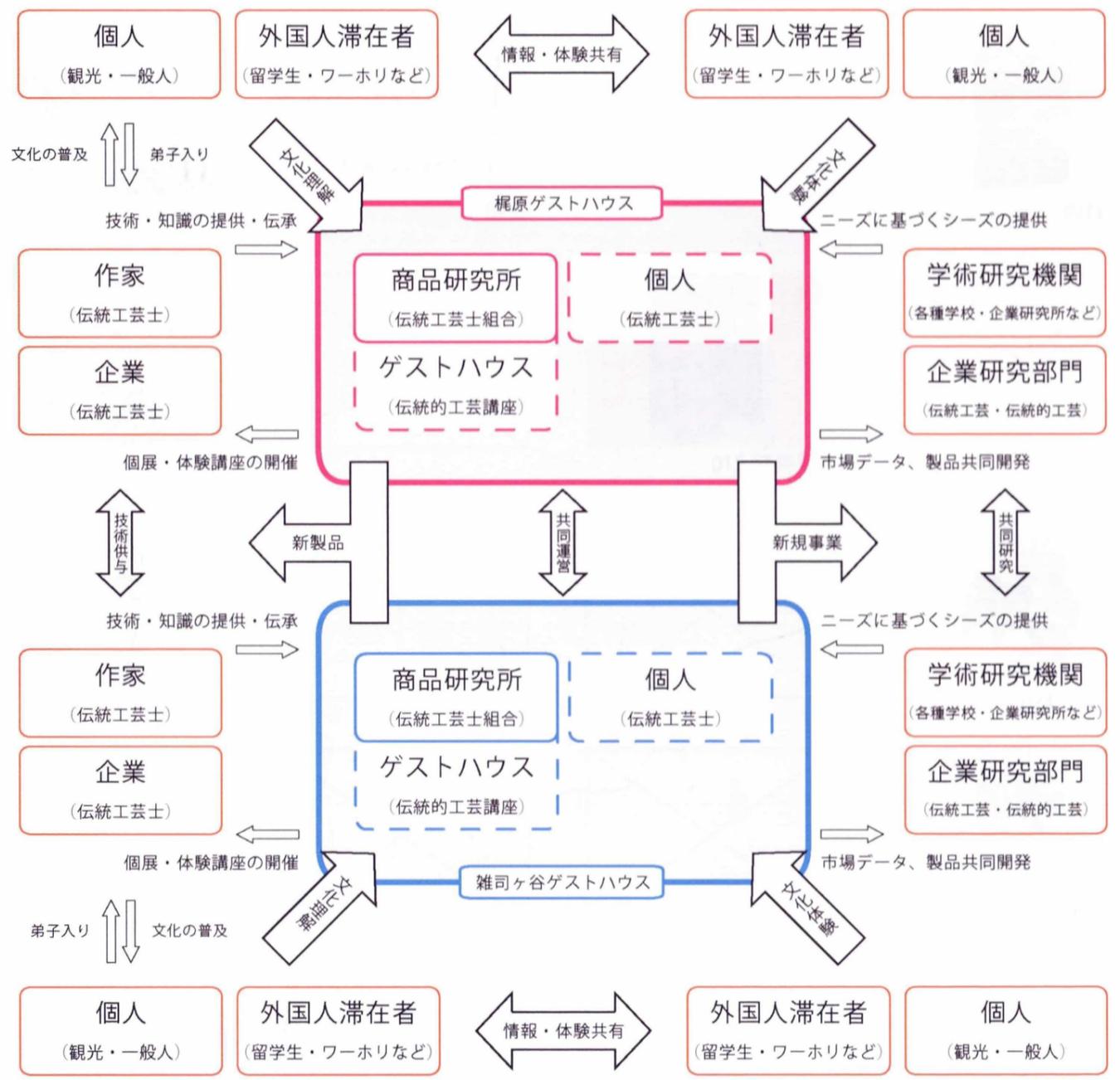


図 99. 計画施設の事業スキーム

グラフィック・アートとしての伝統的工芸品

型紙や金型を用いて、文様や絵柄などを描く都電沿線に存在する 21 種の伝統工芸品。

これらに用いられる模様を伝統的なグラフィックととらえて、加工・一部の製作工程をシェア・体験できる工房を、
神田川流域をはじめとする模様・グラフィックに関連する伝統的工芸の集積を都電雑司ヶ谷停留所そばのゲストハウスで行う。
異文化の新たな感性に刺激を受けながら、地域的なつながりをもった交流・開発を押し進めるひとつの手立てとする。



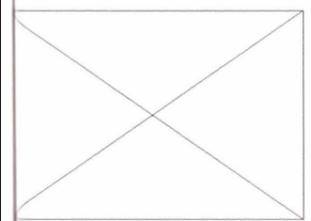
01. 東京染小紋



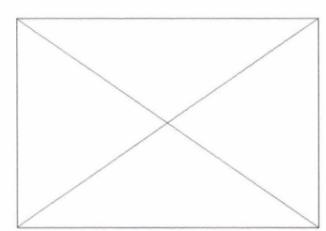
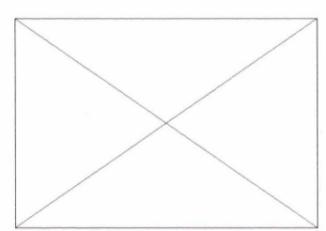
半纏手拭



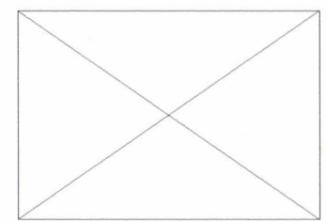
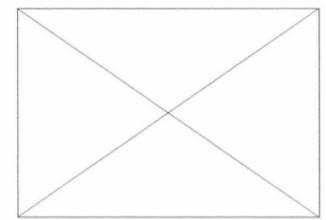
紋章



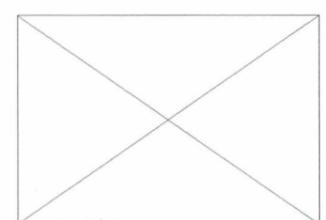
033. 江戸唐紙



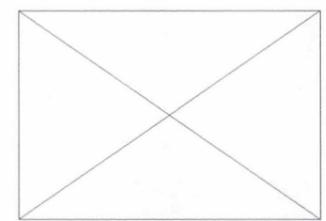
模様・糊画



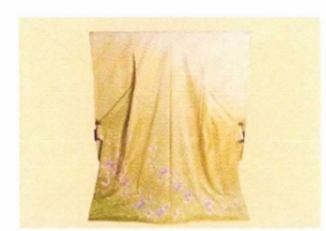
034. 江戸木版画



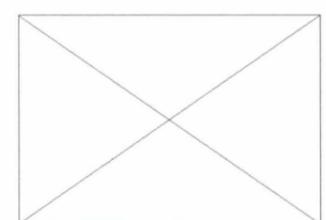
風絵



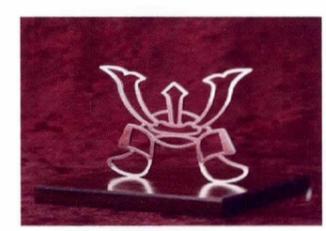
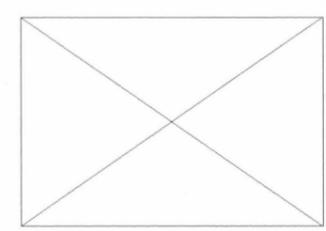
035. 江戸七宝



04. 東京手描友禅



江戸扇子



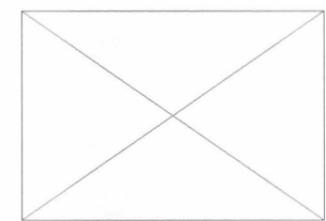
銀細工



時絵



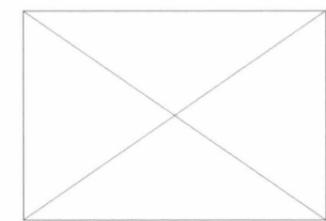
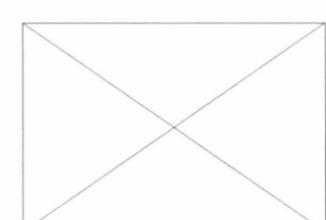
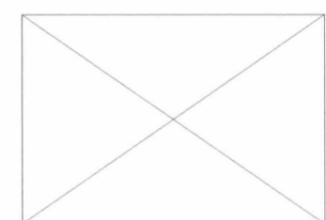
勘亭流文字



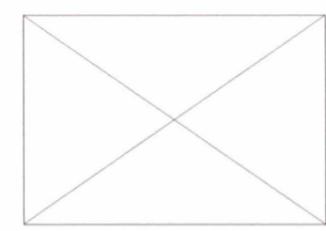
人形頭



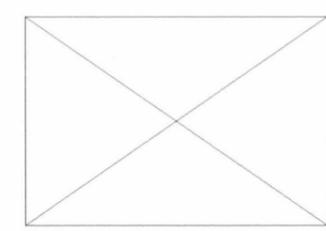
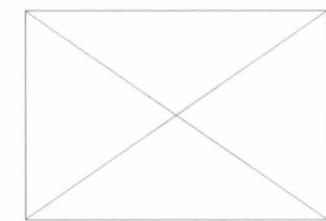
鍛金



038. 江戸手描提灯



015. 江戸更紗



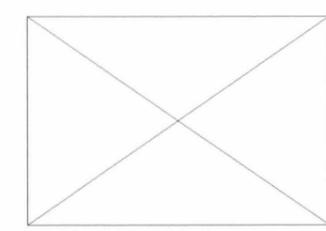
のれん染



024. 江戸刺繍



印章製造



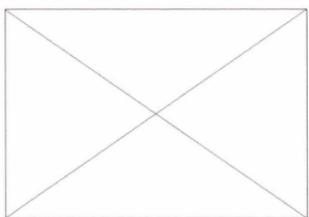
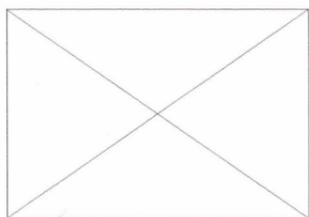
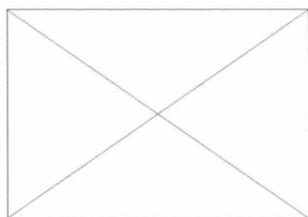
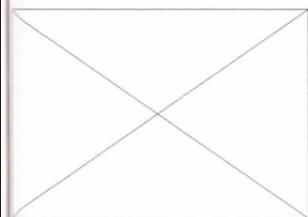
生活小物・雑貨としての伝統工芸品

比較的小規模な材料・使用道具で制作できる都電沿線に存在する 21 種の伝統的工芸品。

祭事や日用の道具、土産物などをつくるいわば生活小物に関連する伝統的工芸の集積を梶原停留所そばのゲストハウスで行う。

オリジナリティある加工・一部の製作工程をシェア・体験できる工房での日々の活動を通して

異文化の新たな感性に刺激を受けながら、地域的なつながりをもった交流・開発を押し進めるひとつの手立てとする。



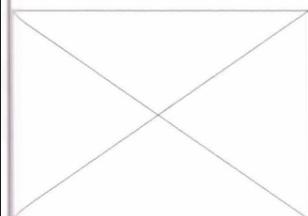
05. 東京くみひも



06. 江戸漆器



07. 江戸籠甲



010. 江戸つまみ簪



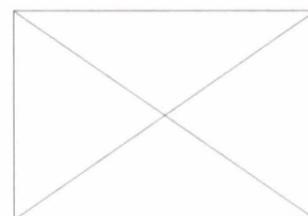
とんぼ玉



縁起福熊手



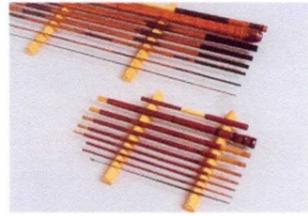
時絵



鍍金



貴金属加工



018. 江戸和竿



凧絵



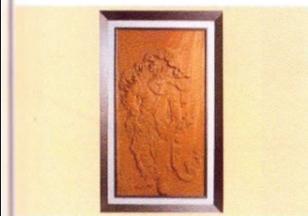
020. 江戸押絵羽子板



江戸扇子



勘亭流文字



025. 江戸木彫刻



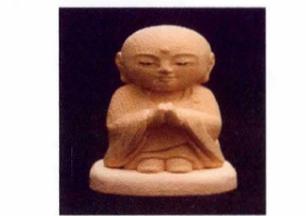
026. 東京彫金



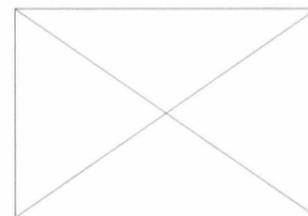
角兵衛獅子



犬張子



仏像彫刻



竹工芸



印章製造



すすきみみずく



034. 江戸木版画



風車



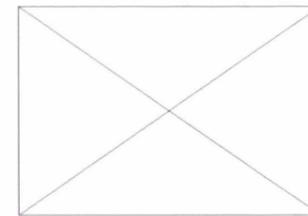
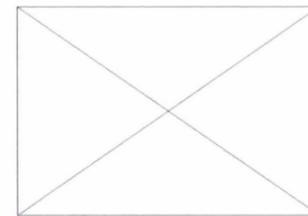
035. 江戸七宝



人形頭



038. 江戸手描提灯



沿線上に分散配置させる可能性(補足)

それぞれの場所に特色のある伝統的工芸が日常的に集積することを期待できる。
 伝統的工芸の品目にも道具・材料・加工法など似通うものがあり、それらをゲストハウスの工房でシェアしたり、あるいは工程の一部をシェアしたりすることで、異なる発想や技法に出会いながら創作を行うことができるだろう。

例をとっていえば、蒔絵、七宝、彫金や木版画などの模様を彫る際に使われる型紙や金型のパターンを全く種類の異なる染めに用いられる型紙などとリンク・融合させてそれまでにない印象の工芸品をつくるなど、品目が多数あるだけにそのコラボレーションの裾野は広く多くの可能性に満ちていると思われる。

なお、本計画では土地が複数に渡ってしまっは自身で扱いきれる情報量を超越する畏れがあったため仮に「都電雑司ヶ谷停留所」と「梶原停留所」のそばのたつの敷地にて、機能やプログラムは同様であるがタイプの異なる伝統工芸体験型のゲストハウスを計画する。

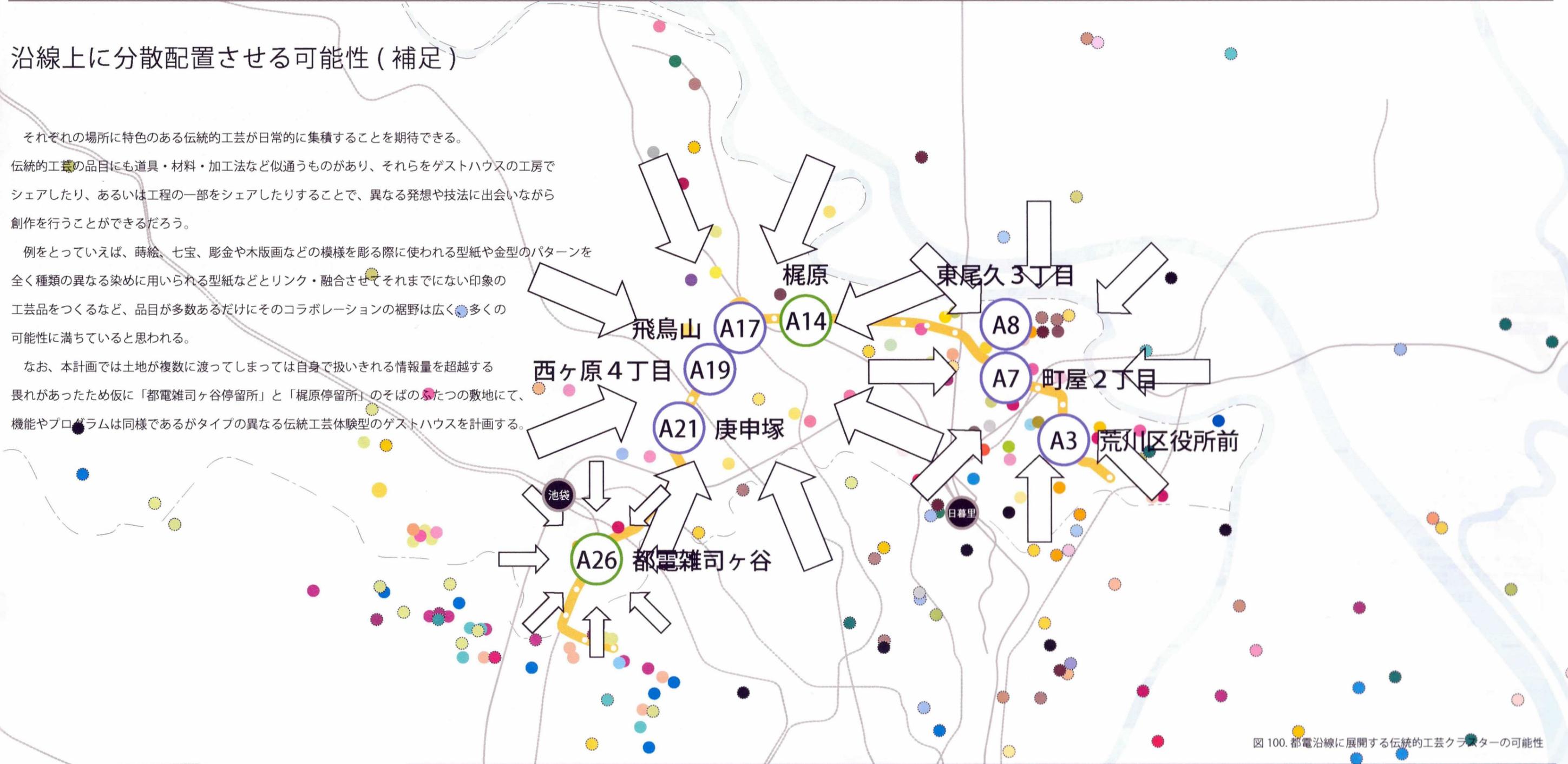


図 100. 都電沿線に展開する伝統的工芸クラスタの可能性

停留所名	沿線用途地域	乗降客数(人/日)	停留所名	沿線用途地域	乗降客数(人/日)
A27 鬼子母神	第1種・第2種住居地域	2723	A15 栄町	近隣商業地域 第1種住居地域・準工業地域	3695
A26 都電雑司ヶ谷		1107	A14 梶原		4012
A24 向原	第1種住居地域・商業地域	2145	A11 小台		4677
A23 大塚駅前		13215	A10 宮ノ前	近隣商業地域・準工業地域	4154
A17 飛鳥山	商業地域・第2種中高層住居地域	1446	A09 熊野前		4720
A16 王子駅前		13766			

-TODEN HOUSE MAP-

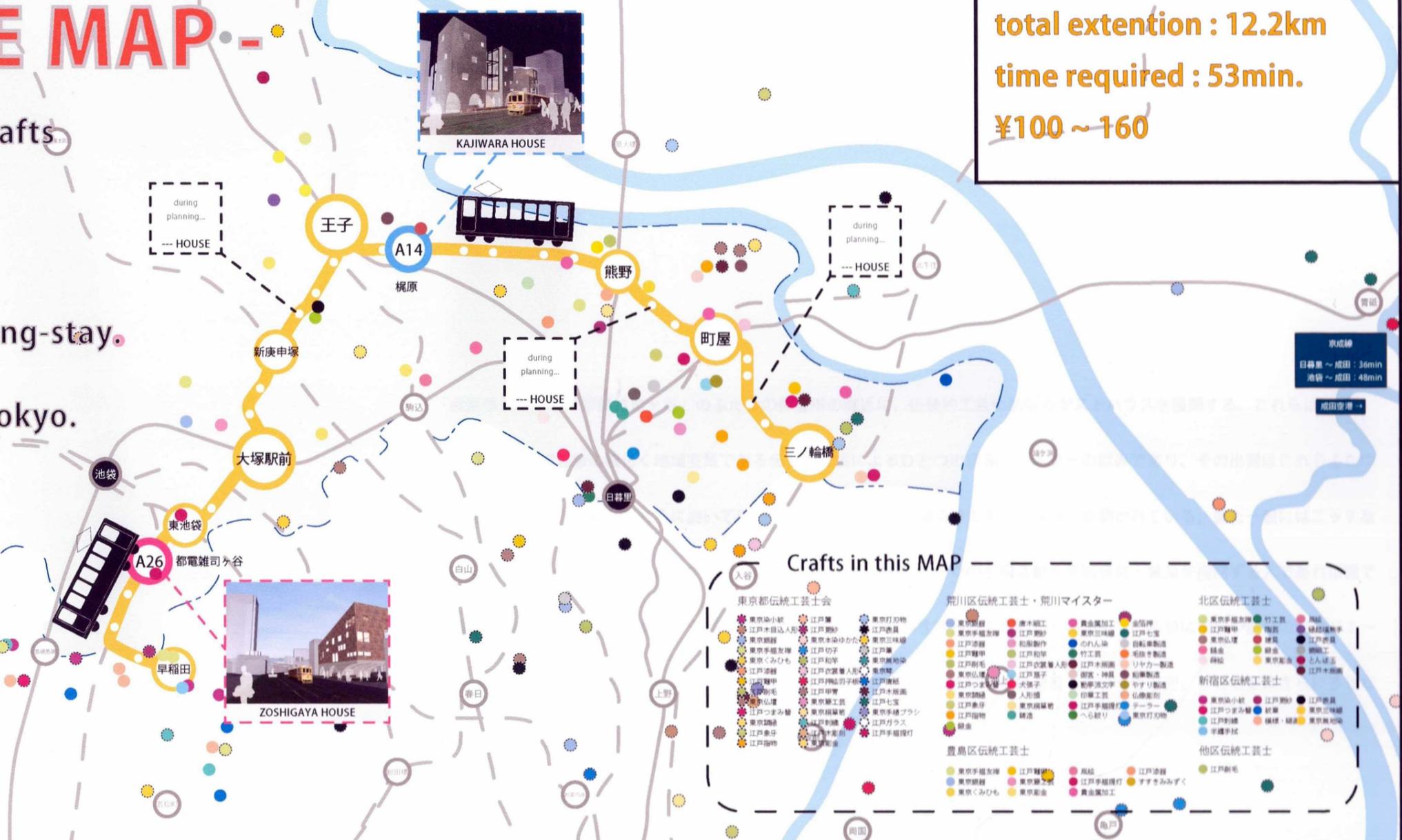
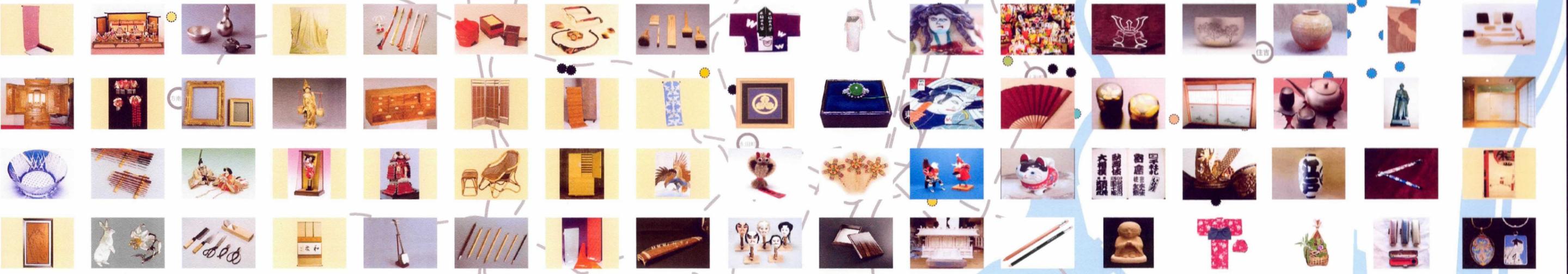
industrial clusters of traditional crafts

You can enjoy a variety of crafts,
the moment of your sightseeing or long-stay.

You can learn what is Japan, Edo or Tokyo.

Please feel our living culture!!

[Toden Arakawa line]
section : Minowa ~ Waseda
total extention : 12.2km
time required : 53min.
¥100 ~ 160



- ### Crafts in this MAP
- 東京都伝統工芸士会**
 - 東京小紋
 - 江戸木目込人形
 - 東京網目
 - 東京手組友禅
 - 東京くみこ
 - 江戸籠甲
 - 江戸籠中
 - 江戸つみみ
 - 江戸象形
 - 江戸指物
 - 荒川区伝統工芸士・荒川マイスター**
 - 漆工
 - 江戸漆器
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 北区伝統工芸士**
 - 漆工
 - 江戸漆器
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 新宿区伝統工芸士**
 - 漆工
 - 江戸漆器
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 豊島区伝統工芸士**
 - 漆工
 - 江戸漆器
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 他区伝統工芸士**
 - 漆工
 - 江戸漆器
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝
 - 江戸七宝

京急線
 東京 ~ 羽田 : 30min
 池袋 ~ 羽田 : 45min

京成線
 日暮里 ~ 成田 : 30min
 池袋 ~ 成田 : 48min

羽田空港

05. 建築計画

05-1 KAJIWARA HOUSE

05-2 ZOSHIGAYA HOUSE

「梶原停留所」と「都電雑司ヶ谷」のふたつの停留所の直近に、伝統的工芸体験型のゲストハウスを展開する。これらは前述したとおり、都電沿線に根付く地域産業である伝統的工芸によるひとつの産業クラスターの試みであり、その出発はこれらふたつの集積拠点からである。どちらにおいてもいつも何かしらの体験講座やエキシビションが開かれている。また一般にはニッチなニーズではあるが伝統的工芸の有する確かな文化的価値を認めて、日々の余暇活動や学術研究・普及を指向する人であれば誰でも気軽に利用できるものである。そして、これらの住・職・商の性格が強く認められる場所で、多分に学びや遊びのレクリエーション要素ももちうる活動がその場で根付き、いずれクラスターのように地域に波及していくことで、この活動はさらに多様な担い手によって豊かに彩られていくことになるだろう。

05-1.KAJIWARA HOUSE



生活小物・雑貨としての伝統工芸が集積するゲストハウス

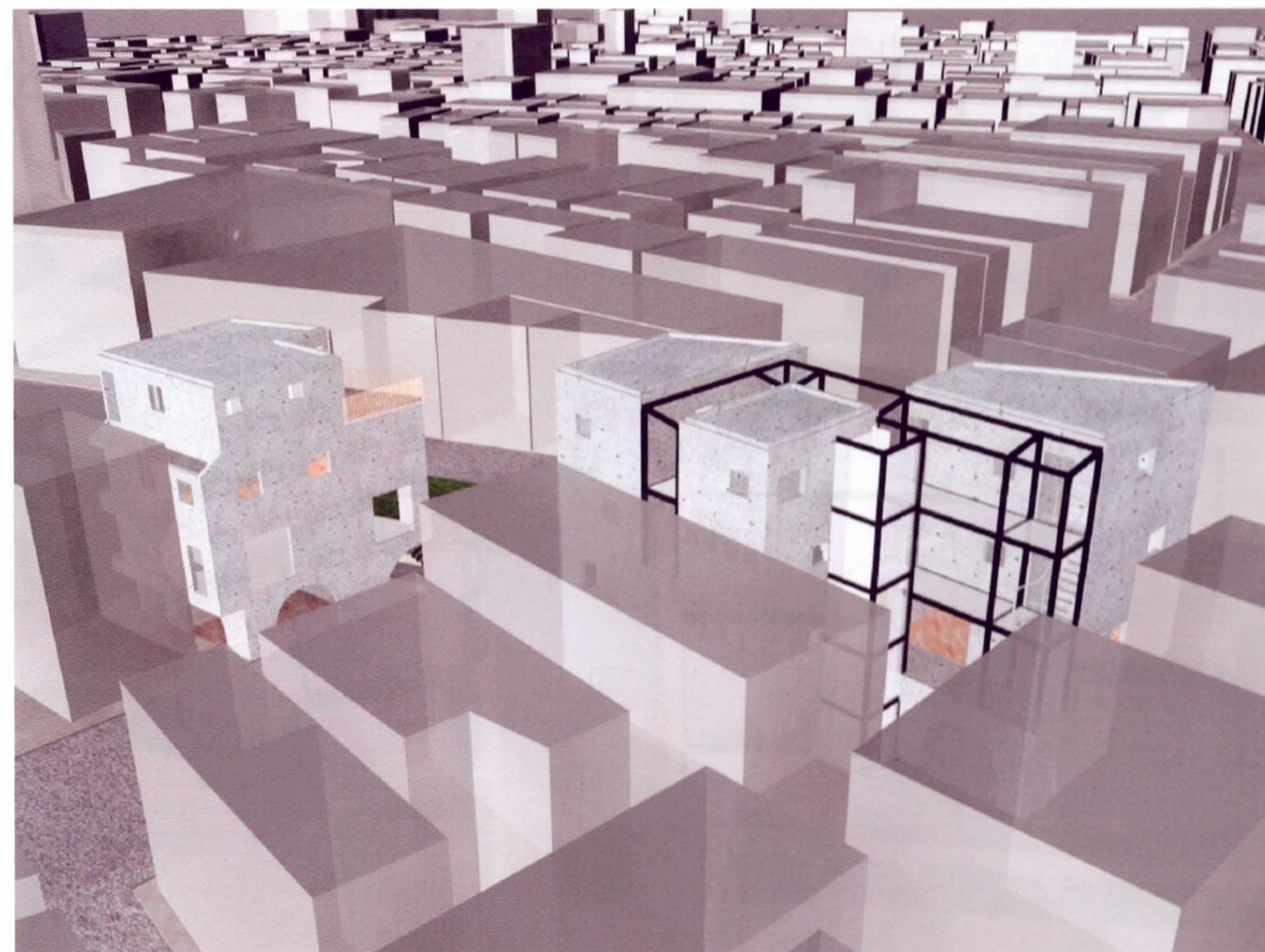
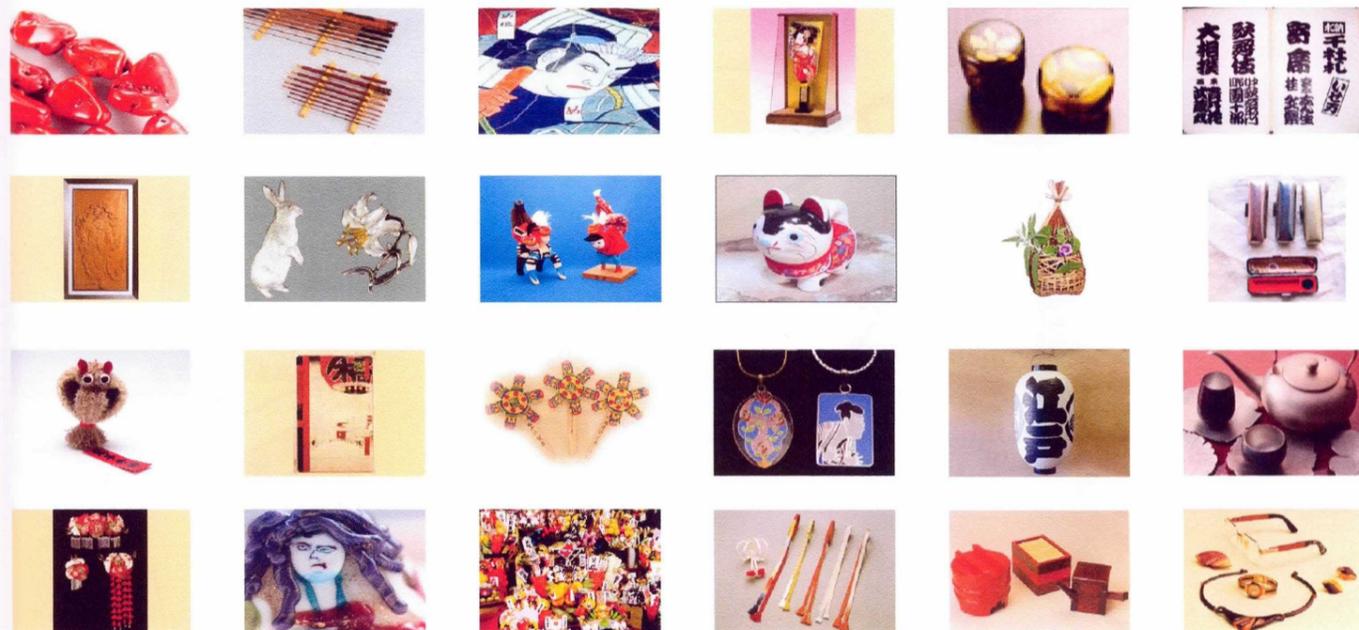


図 101. 高密度な商店街の入り口に位置する KAJIWARA HOUSE

【建築データ】

所在地：北区堀船3丁目、上中里3丁目
 用途地域：商業地域
 敷地面積：70㎡、166㎡
 建築面積：56㎡、132㎡
 延べ床面積：224㎡、528㎡
 建蔽率：80%
 容積率：500%
 道路車線制限：なし
 高度地域：なし
 高さの最高限度：なし

05-1-1.KAJIWARA HOUSE 平面計画

敷地内にまでかかる都市計画道路の整備範囲（都電軌道中心から両側に幅30m）が存在する。強い地元コミュニティが作用するこの土地に置いて、自動車が通る道が整備されてしまつては、必要以上の地元住民の生活動線の遮断、更には商店街の分断が危惧され、また極端にいうとずれ別の町会や別の町として異なる方向を向いた住民たちの生活の場が形成されてしまいかねない。

ここでは敷地の前面における、停留所の奥行き分だけ空いた幅2.5mほどの土地を生活に密着した生活道路として確保することにした。また小さな地割りによる低層密集の構成原理に従い、内部にオープンスペースを設け、分棟を思わせる配置により建物外部と建物内部が通り抜けの路地でつながる様な平面計画としている。

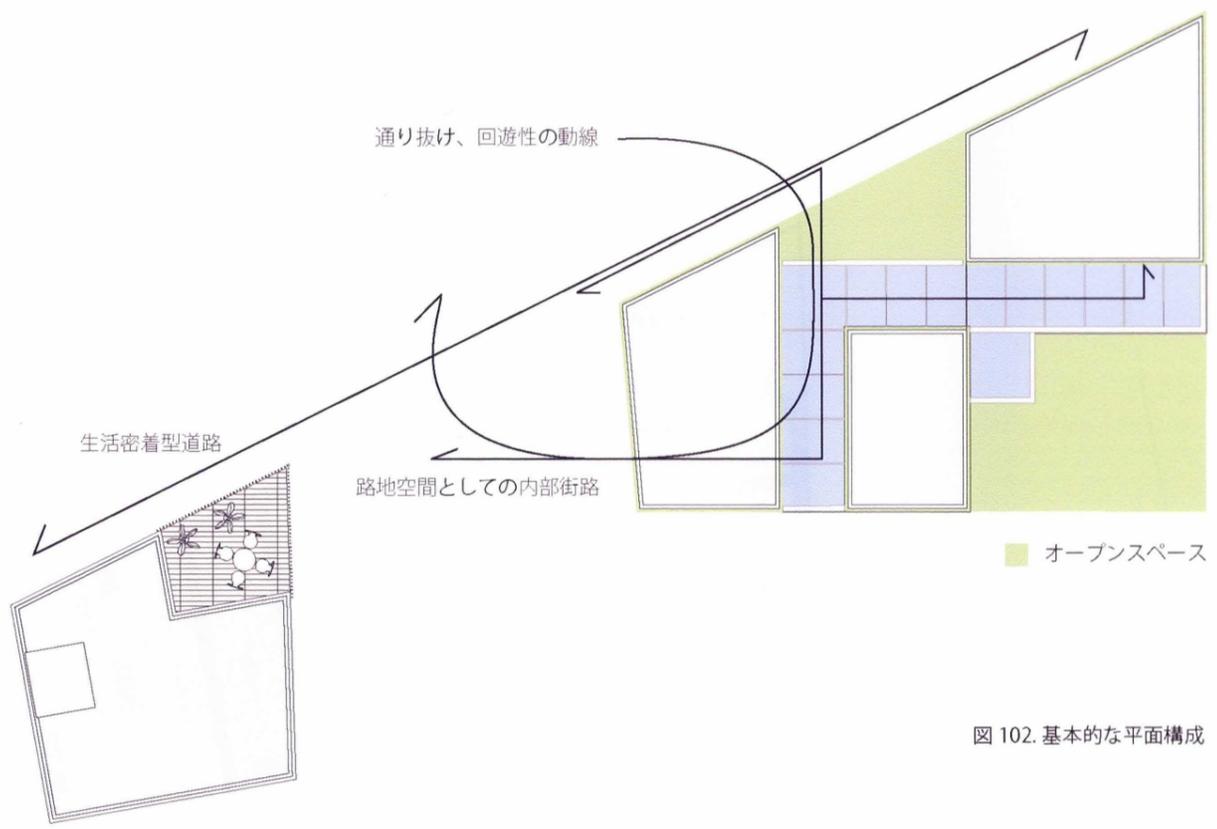


図 102. 基本的な平面構成

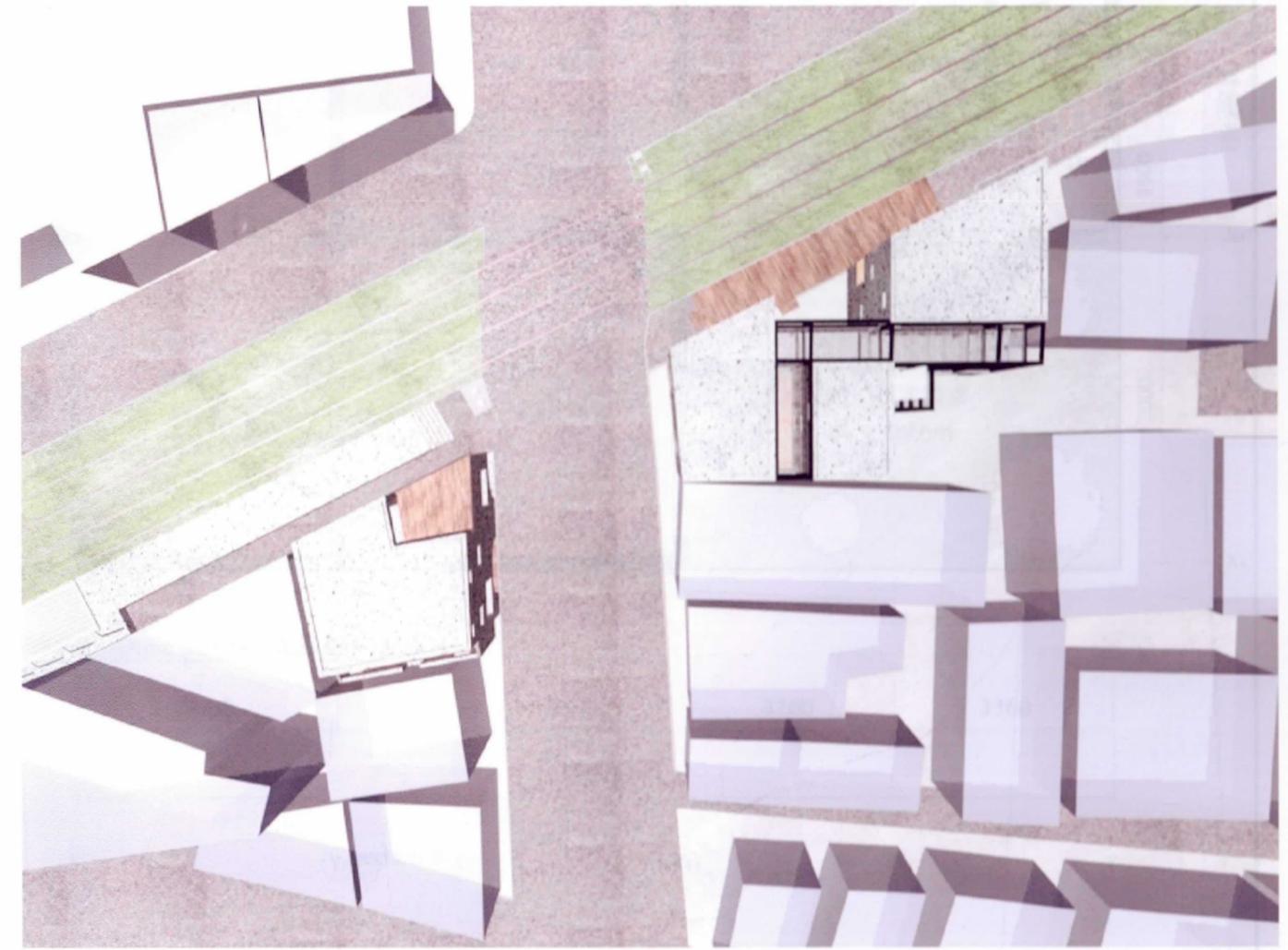


図 103. 俯瞰図



△至 梶原銀座商店街

三ノ輪橋至▽

remarks

date
2012.02.15

△至 王子

A14梶原停留所

X1
X2
X3
X4

Y1

Y2

Y3

Y4

Y5

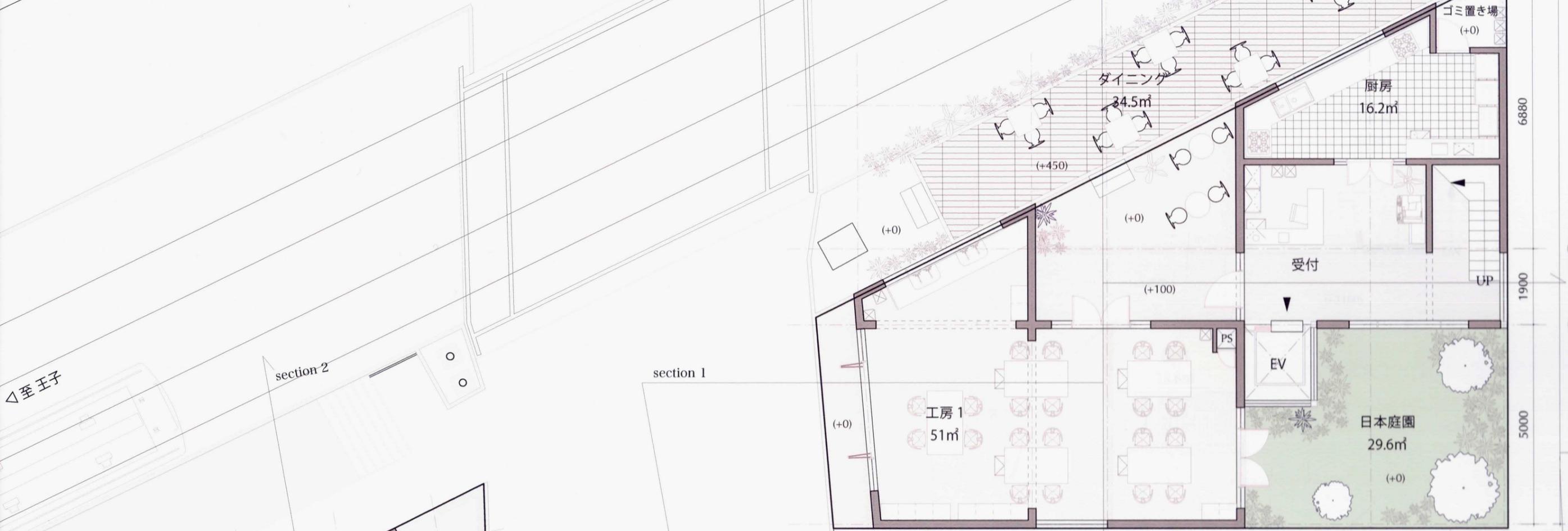
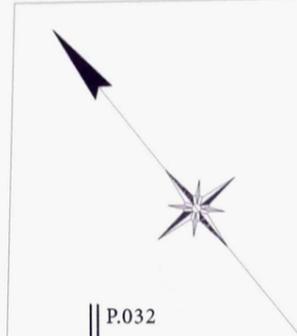
section 2

▽至 明治通り

drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
KAJIWARA HOUSE

P.032



B KAJIWARA HOUSE 工房棟平面図 GL+1,000
Scale:1/100

4000	1890	3360	3280	3360	
15890					
Y1	Y2 section 2	Y3	Y4	Y5	Y6

A KAJIWARA HOUSE ギャラリー棟平面図 GL+1,000
Scale / 1:100



1140

1845

2500

2500

7990

Y1

Y2

Y3

Y4

Y5

section 2



△至 梶原銀座商店街

三ノ輪橋至▽

remarks

date
2012.02.15

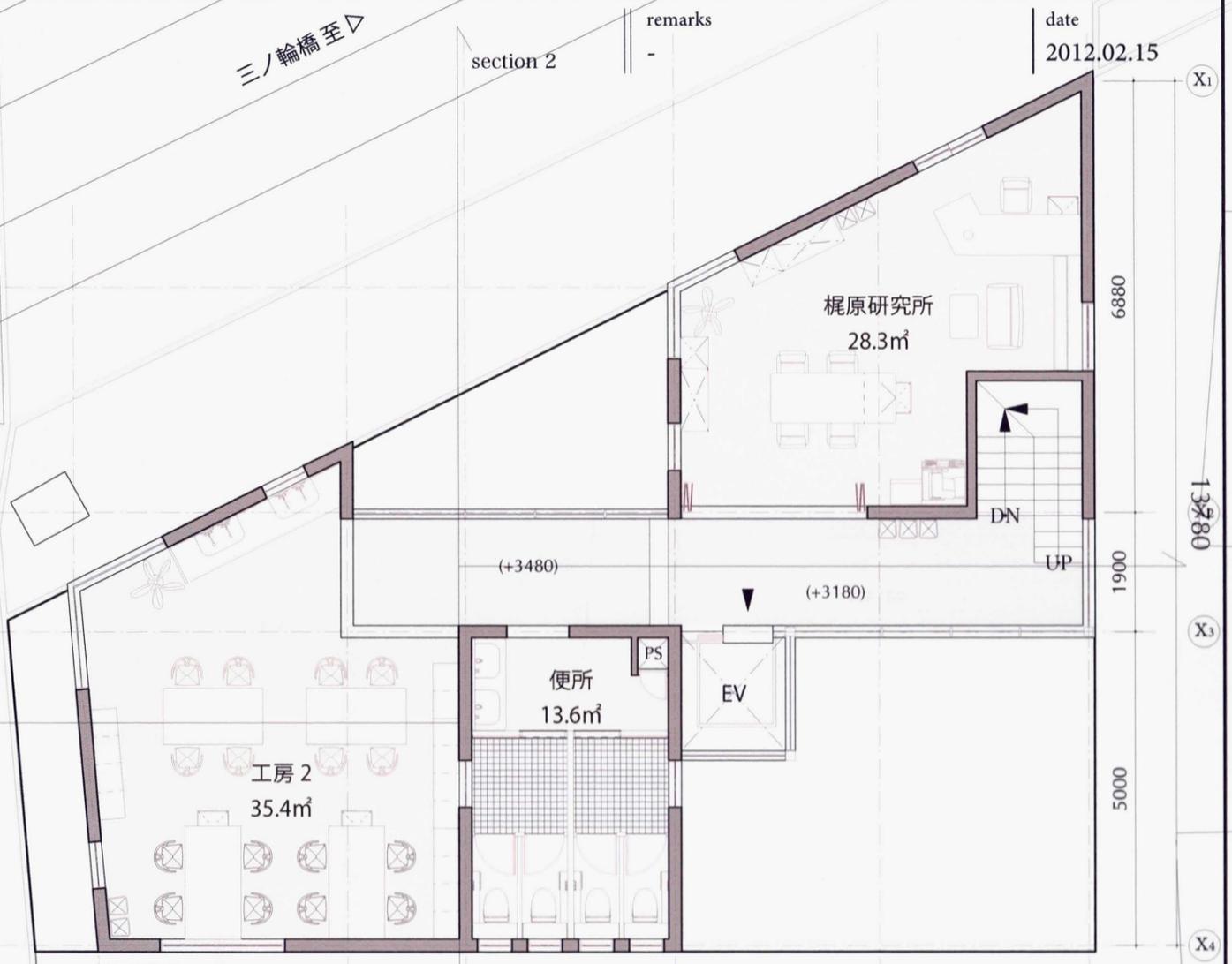
△至 王子

A14梶原停留所



A KAJIWARA HOUSE ギャラリー棟平面図 GL+3,700
Scale / 1:100

▽至 明治通り

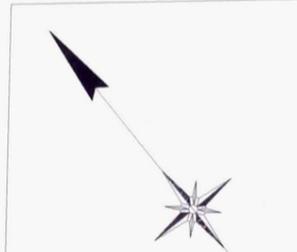


B KAJIWARA HOUSE 工房棟平面図 GL+3,700
Scale:1/100

drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
KAJIWARA HOUSE

P.033





△至 梶原銀座商店街

三ノ輪橋至▽

remarks
-

date
2012.02.15

▽至 王子

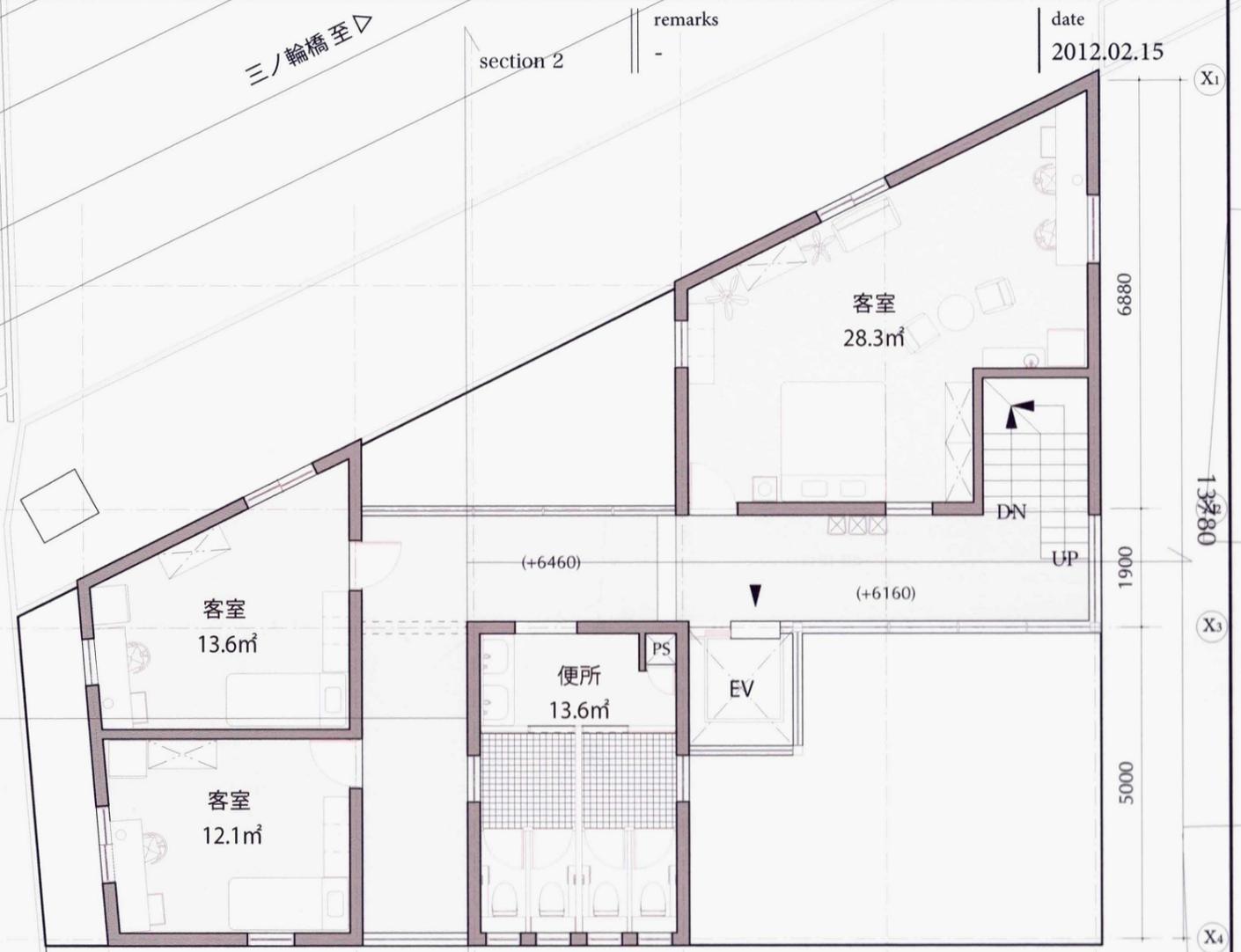
A14梶原停留所



A KAJIWARA HOUSE ギャラリー棟平面図 GL+6,700
Scale / 1:100

▽至 明治通り

section 1

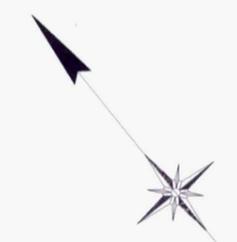


B KAJIWARA HOUSE 工房棟平面図 GL+6,700
Scale:1/100

drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
KAJIWARA HOUSE

P.034





10 (m)

△至 梶原銀座商店街

三ノ輪橋至▽

remarks

date
2012.02.15

△至 王子

section 2

section 1

section 2

-

X1

13780

X3

X4

客室
28.3㎡

DN
UP

(+9140)

客室
13.6㎡

客室
12.1㎡

客室
15.3㎡

EV

6880

1961

5000

A14梶原停留所

テラス
8.6㎡

(+8,400)

シャワールーム
(女性用)
7.1㎡

ラウンジ

シャワールーム
(男性用)
6.3㎡

EV

PS

UP

DN

UP

section 1

B KAJIWARA HOUSE 工房棟平面図 GL+9,400
Scale:1/100

4000 1890 3360 3280 3360

15890

Y1

Y2 section 2 Y3

Y4

Y5

Y6

A KAJIWARA HOUSE ギャラリー棟平面図 GL+9,400
Scale / 1:100

1140 1850 2500 2500

7990

Y1

Y2

Y3

Y4

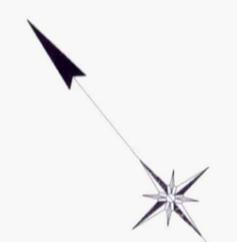
section 2

▽至 明治通り

drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
KAJIWARA HOUSE

P.035





△至 梶原銀座商店街

三ノ輪橋至▽

remarks

-

date

2012.02.15

▽至 王子

section 2

section 1

section 1

section 2

6880

13780

19001

5000

A14梶原停留所

X1

X2

X3

X4

Y1

Y2

Y3

Y4

Y5

section 2

section 1

B

KAJIWARA HOUSE 工房棟配置図
Scale:1/100

4000 1890 3360 3280 3360
15890

Y1

Y2

Y3

Y4

Y5

Y6

A

KAJIWARA HOUSE ギャラリー棟配置図
Scale / 1:100

1140

1850

2500

2500

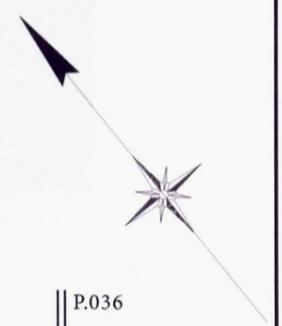
7990

▽至 明治通り

drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
KAJIWARA HOUSE

P.036



05-1-2.KAJIWARA HOUSE 構造・断面計画

計画地から約 500m ほどの距離に隅田川が流れ、さらに隅田川からほどなく荒川が流れている。どちらの河川も急な蛇行をしている箇所であり、増水による氾濫の被害が警告されている地域でもある。特に荒川が氾濫した場合には 2 階の床上までの浸水が予測されている。このためまずは余計な防災上の問題に悩まされぬ様、また耐火の意も含めて RC 造を採用した。

土地が狭いため、ラーメン構造による無用な太い柱の出現を避けるために壁式構造とし、単純な RC 壁式構造と一部で鉄骨の軸組による覆いをしている。これは内部に引き込んだ路地の様な空間に直接自然光を落とす為である。また内部が暗く、外部からの透過性が低くなりがちな壁にアーチ状の開口を穿った。これにより 1,2 階のアイレベルで認識できる内部空間と、外部空間の関係を見え隠れさせ、加えて平面の路地的な構成によってその効果が増幅でき、これにより多彩なコミュニケーションを生む出会いの辻をあらゆる場所に出現させることが出来るのではないかと考えた。

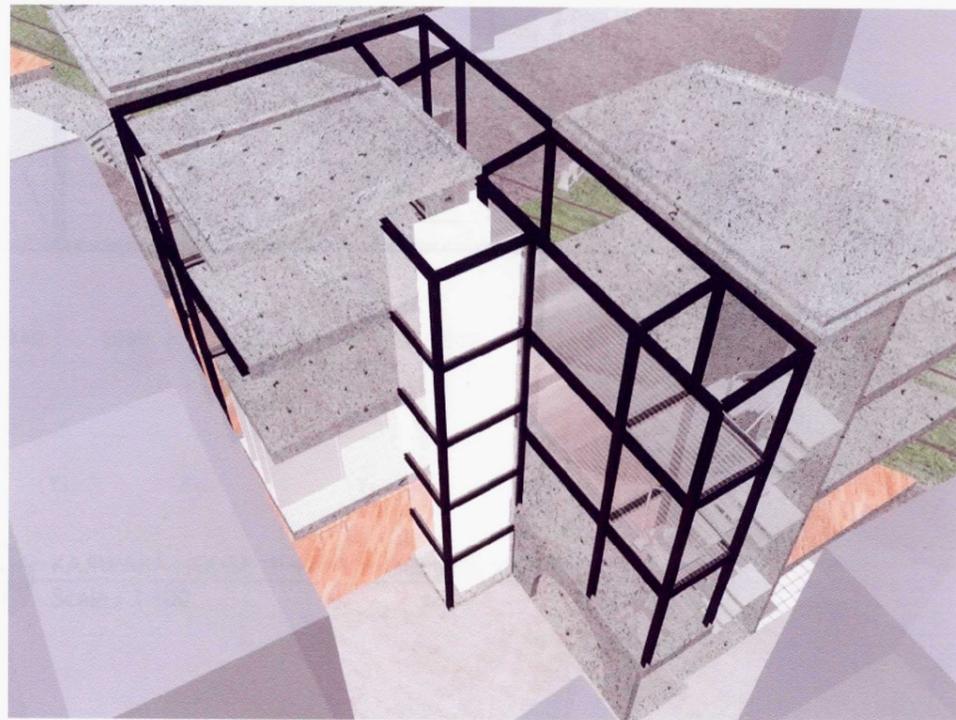


図 104. 内部に開いたオープンスペースと分棟をつなぐ街路空間



図 105. アーチは停留所との関係も軽やかにする

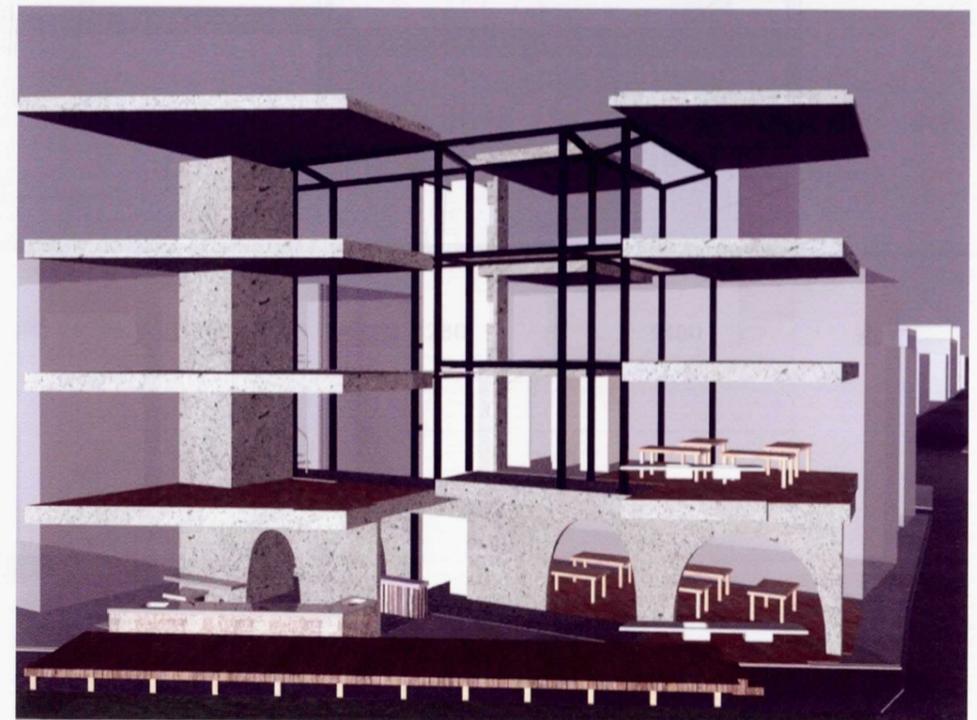
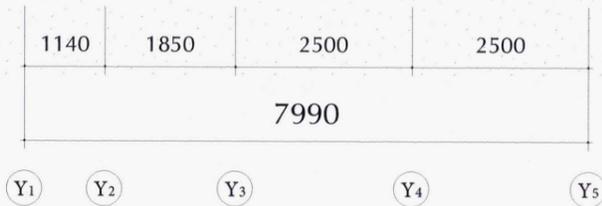
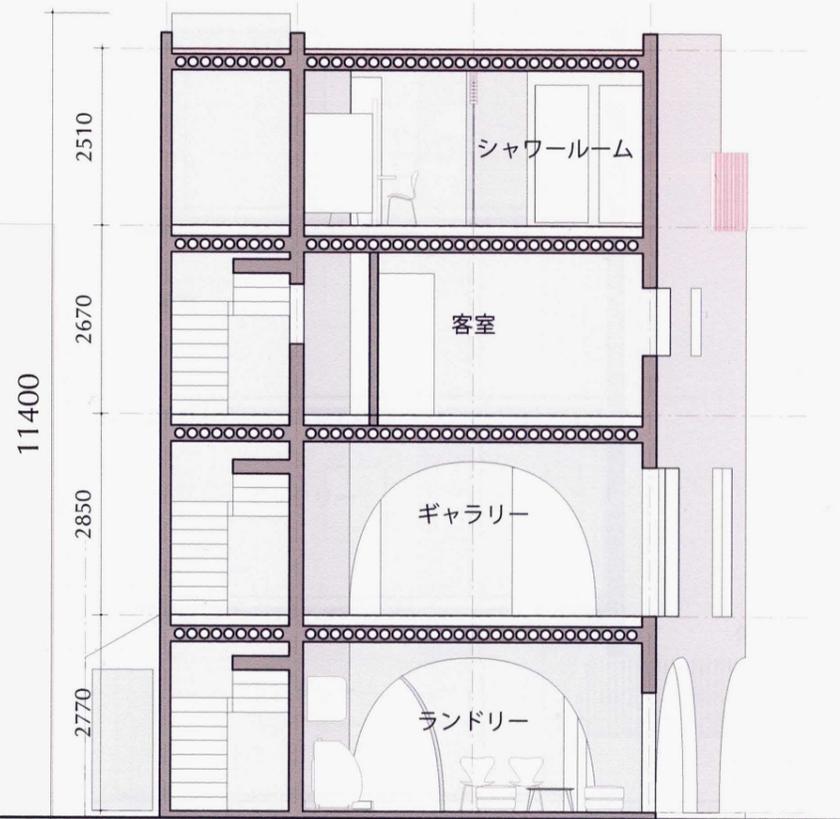
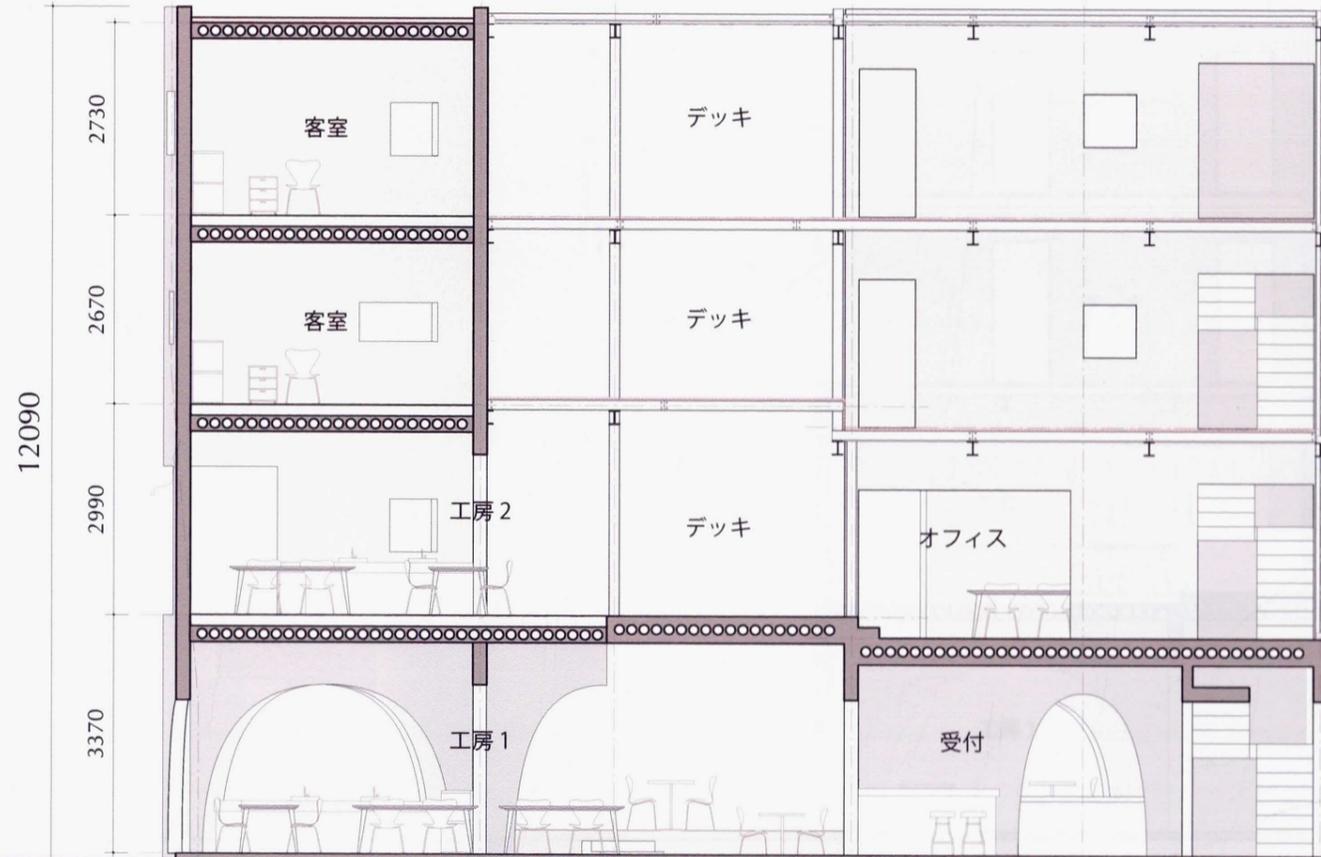


図 106. 上部に行くほどプライバシーが高まるが、どこからでもオープンスペースに顔が出せる



A KAJIWARA HOUSE ギャラリー棟断面図 SECTION 1
 Scale / 1:100

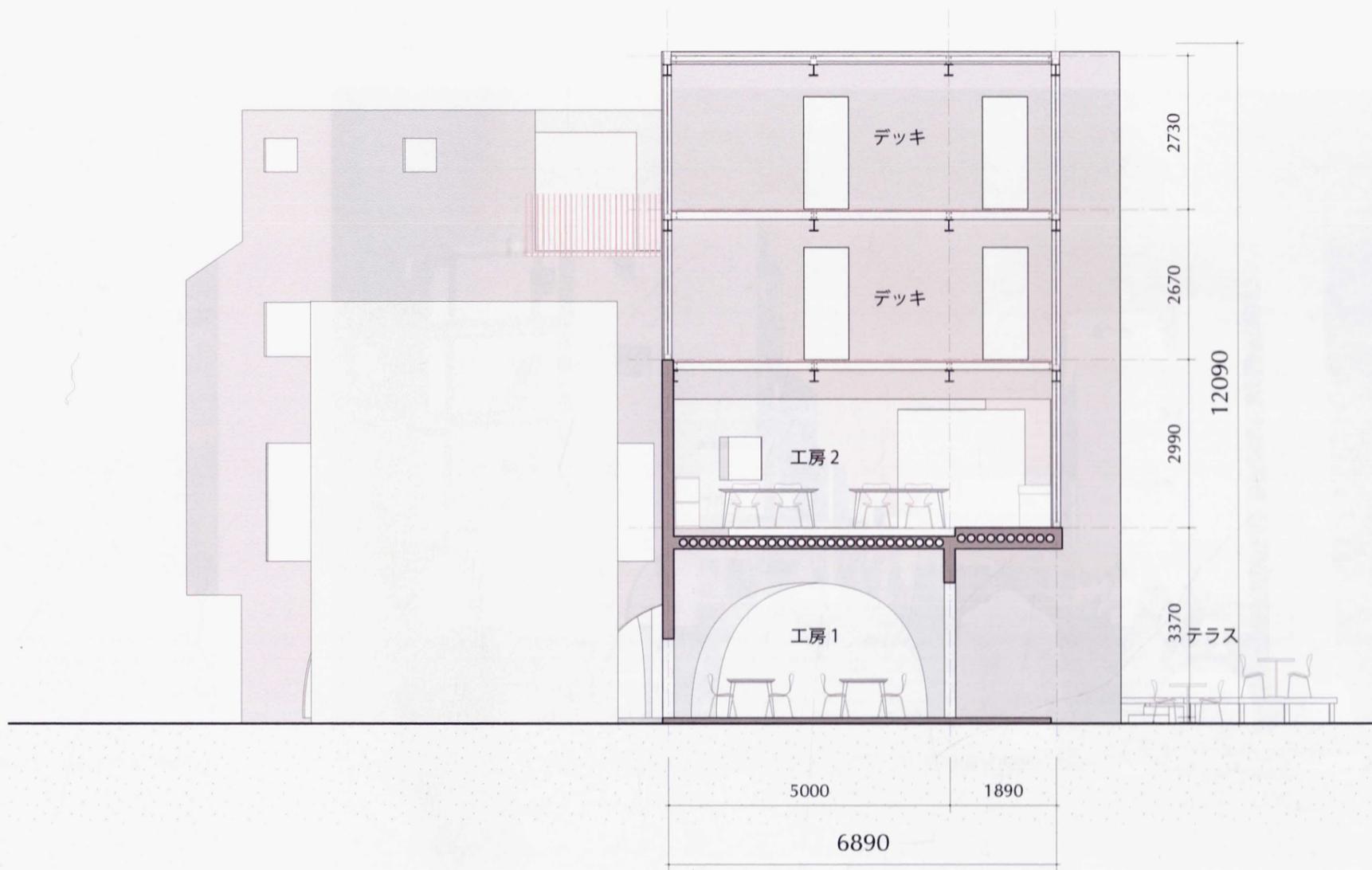
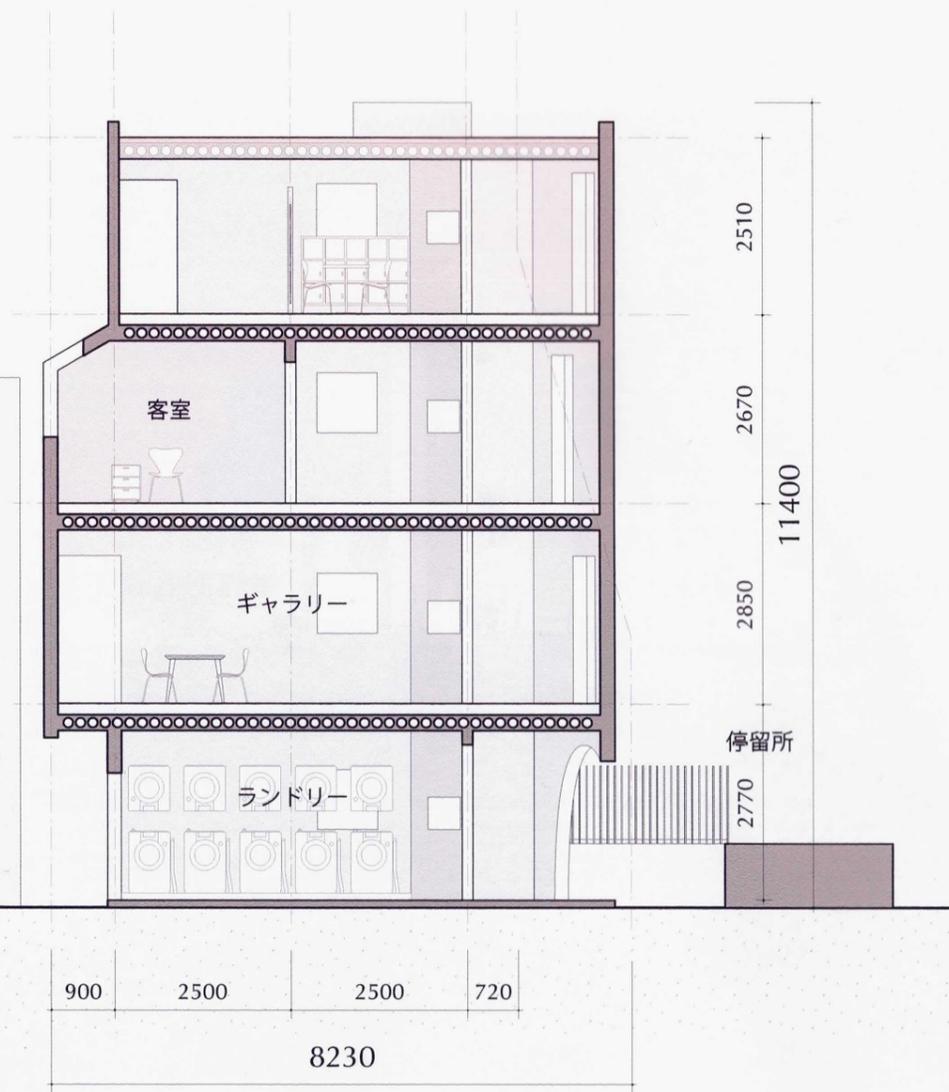


B KAJIWARA HOUSE 工房棟断面図 SECTION 1
 Scale:1/100



remarks
 -高さの寸法は床の仕上げ面間の距離とする
 -居室の床はポイドスラブの上に床暖房+仕上げ材

date
 2012.02.15



X5 X4 X3 X2 X1

A KAJIWARA HOUSE ギャラリー棟断面図 SECTION 2
 Scale / 1:100

X4 X3 X2

B KAJIWARA HOUSE 工房棟断面図 SECTION 2
 Scale:1/100



drawn by
 Akihito KUNIMOTO

name
 KAJIWARA HOUSE

P.039

05-1-3. 利用イメージ

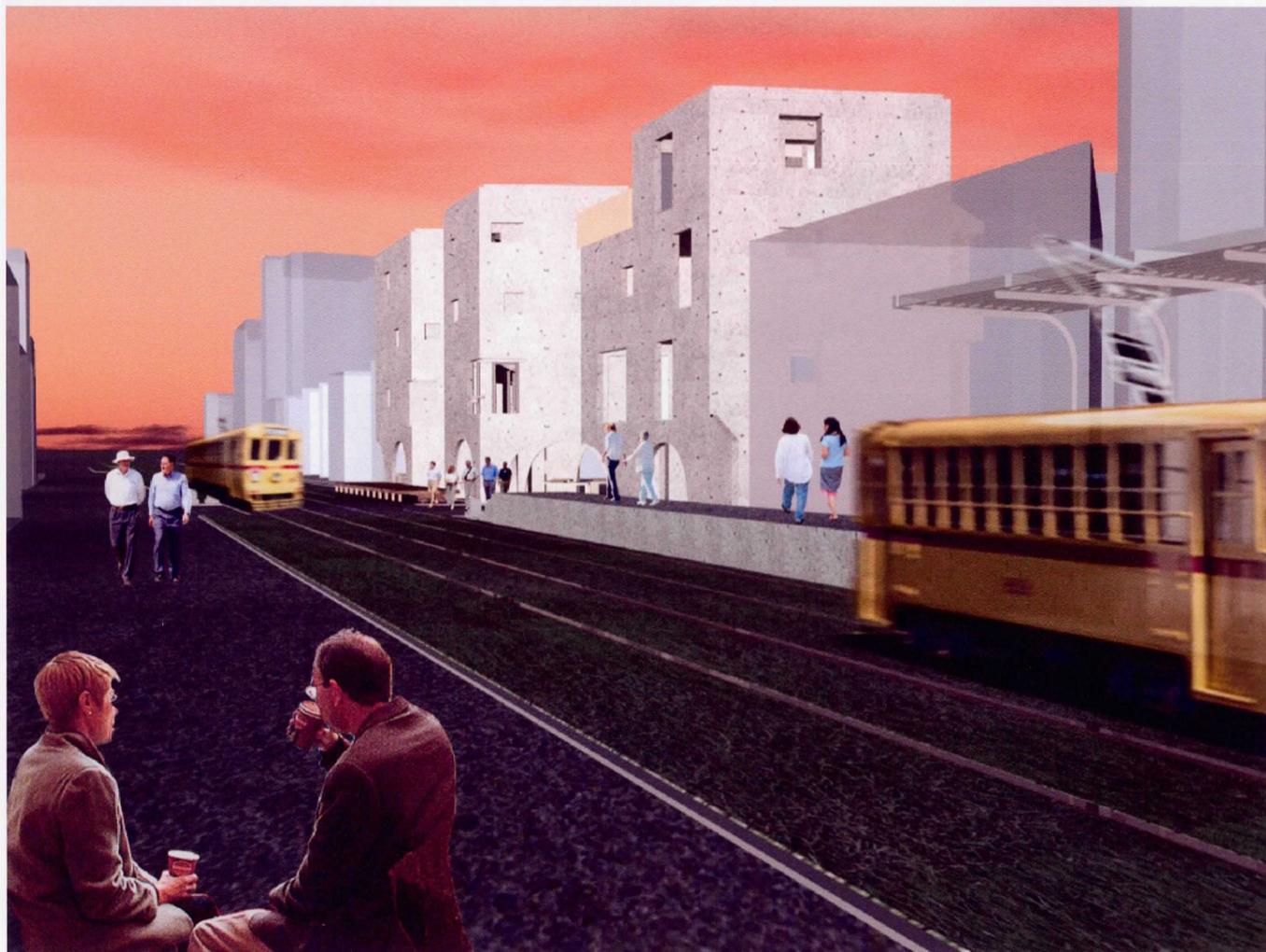


図 107. 連続するアーチが連続壁面の硬直感を緩和する



図 108. 下町らしい雑多であるが豊かな生活風景



図 109.1 階の工房の利用イメージ



図 110. ギャラリー棟の1階は多様な人々の待ち合い場所となる



図 111. ゲストハウスの飲食サービス



図 112. 宿泊客を中心に夜間講座も開講する



図 113. 客室をつなぐ街路的空間



図 114. 小規模の催しがなされるギャラリー

05-2.ZOSHIGAYA HOUSE



グラフィック・アートとしての伝統工芸が集積するゲストハウス



図 115. 拠点的オープンスペースをもつ ZOSHIGAYA HOUSE

【建築データ】

所在地：豊島区南池袋4丁目10番

用途地域：第1種住居地域

敷地面積：450㎡

建築面積：250㎡

延べ床面積：830㎡

建蔽率：60%

容積率：300% → 400% (沿道整備による緩和)

道路車線制限：1.25 → 1.5 (沿道整備による緩和)

高度地域：3種高度地区

高さの最高限度：20m

05-2-1.ZOSHIGAYA HOUSE の平面計画

幹線道路の開通の為に宅地の整理を既に終えた今、公では自ら削り取った沿道の地区に対して街並み創造の促進をしている。この敷地では池袋東口の交通緩和の為に片側1車線の車道とその沿道整備がなされる。道路の拡幅前には建て込んでいた街路が消えてしまった為に、この場所のコンテキストを読み取りにくくなっている。そこで、緑豊かな雑司ヶ谷霊園という都心の中でも希有な環境を背景に土地が開けているので、敷地の回りにオープンスペースを取り、また建物内部に同じく路地を引き込んだ様な通路や部屋の構成をつくり出し、多様な動線を選択できることで多様なコミュニケーションの場を生み出したいと考えた。

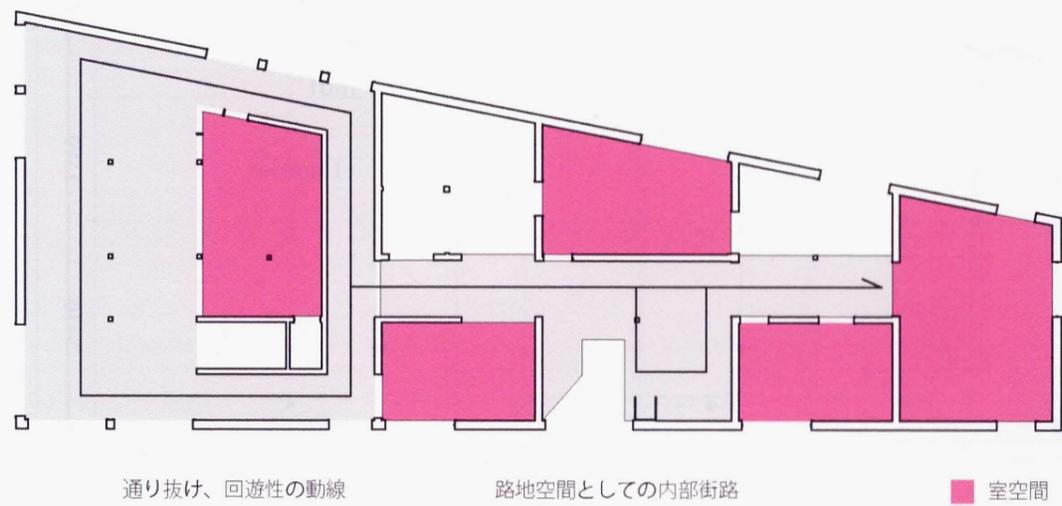


図 116. 基本的な平面構成

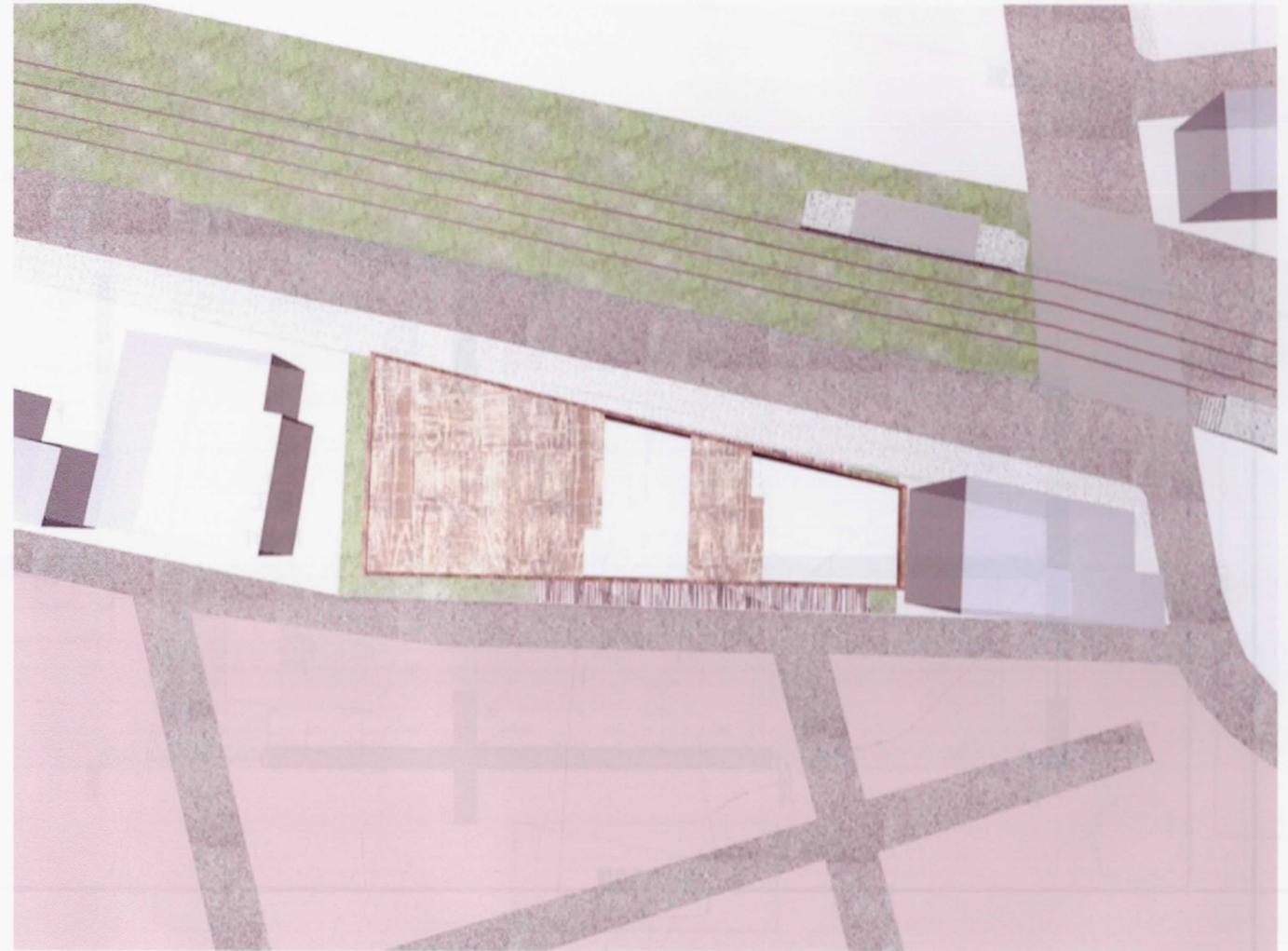


図 117. 俯瞰図

remarks

-

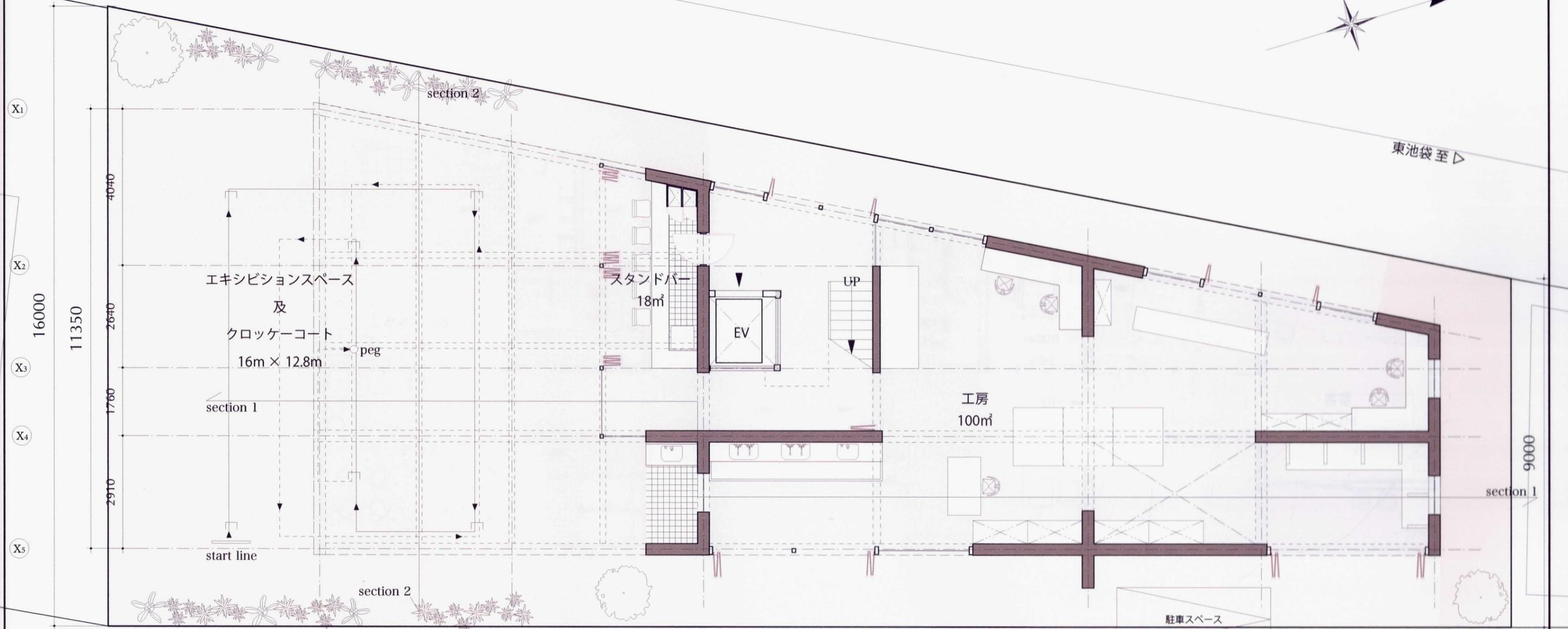
date

2012.02.15

◁ 至 鬼子母神 ▷

◁ 環状5の1号線 ▷

東池袋 至 ▷



X1
X2
X3
X4
X5

16000
11350
4040
2640
1760
2910

9000

5000 5000 4500 5500 4500 4500

29000

36500

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7

◁ 雑司ヶ谷霊園 ▷

A ZOSHIGAYA HOUSE 平面図 GL+1,000
Scale / 1:100



drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
ZOSHIGAYA HOUSE

P.046

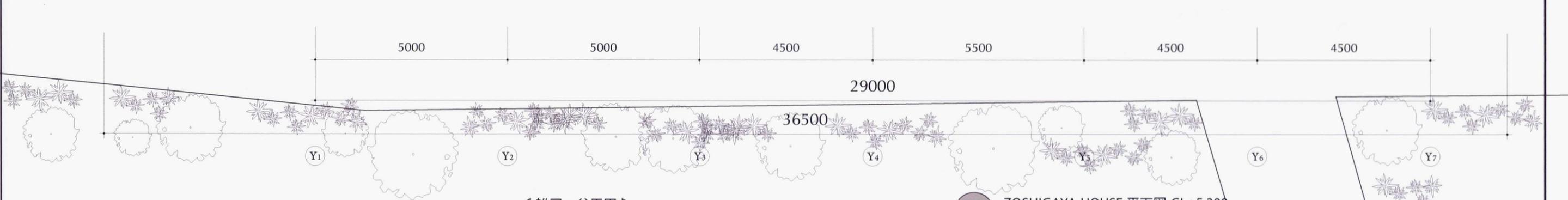
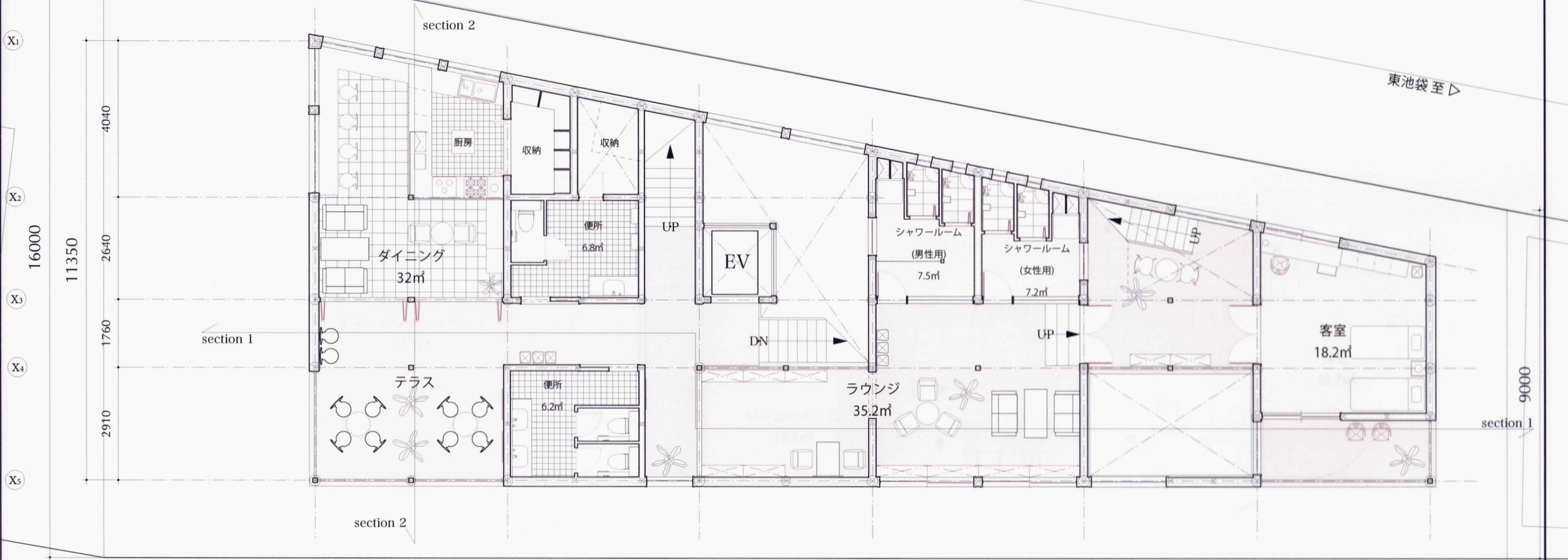
remarks
-

date
2012.02.15

◁ 至 鬼子母神 ▷

◁ 環状5の1号線 ▷

東池袋 至 ▷



◁ 雑司ヶ谷霊園 ▷

A ZOSHIGAYA HOUSE 平面図 GL+5,300
Scale / 1:100



drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
ZOSHIGAYA HOUSE

P.047

remarks

-

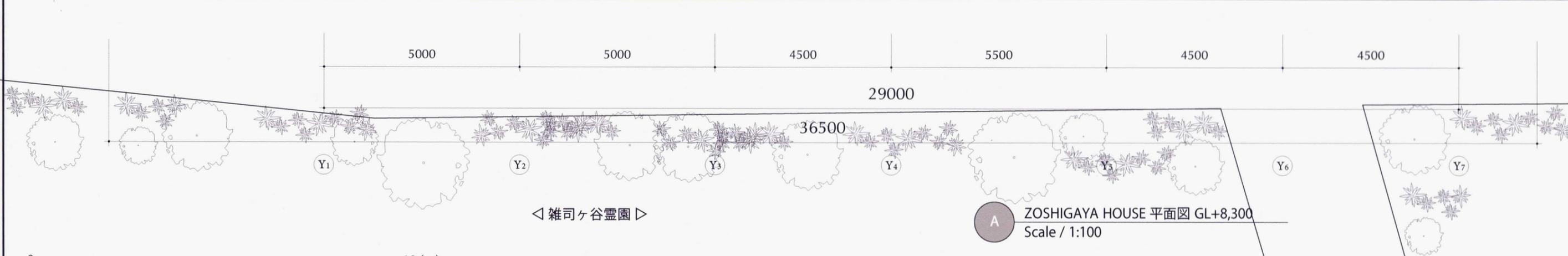
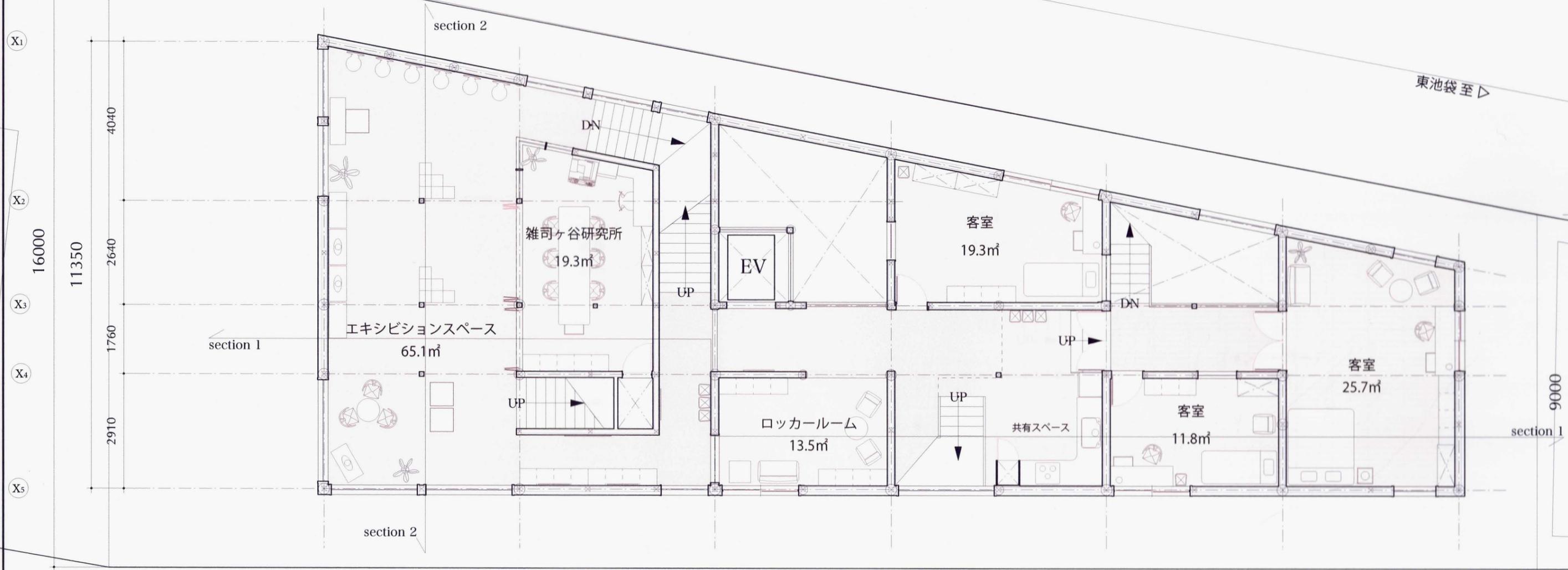
date

2012.02.15

◁ 至 鬼子母神 ▷

◁ 環状5の1号線 ▷

東池袋 至 ▷



◁ 雑司ヶ谷霊園 ▷

A ZOSHIGAYA HOUSE 平面図 GL+8,300
Scale / 1:100



drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
ZOSHIGAYA HOUSE

P.048

remarks

-

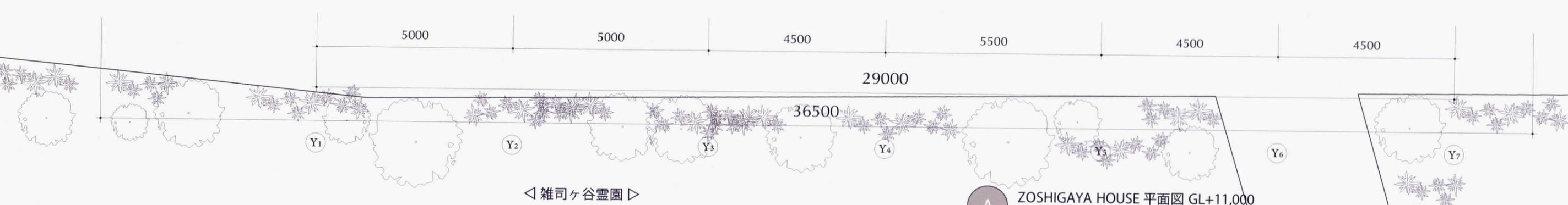
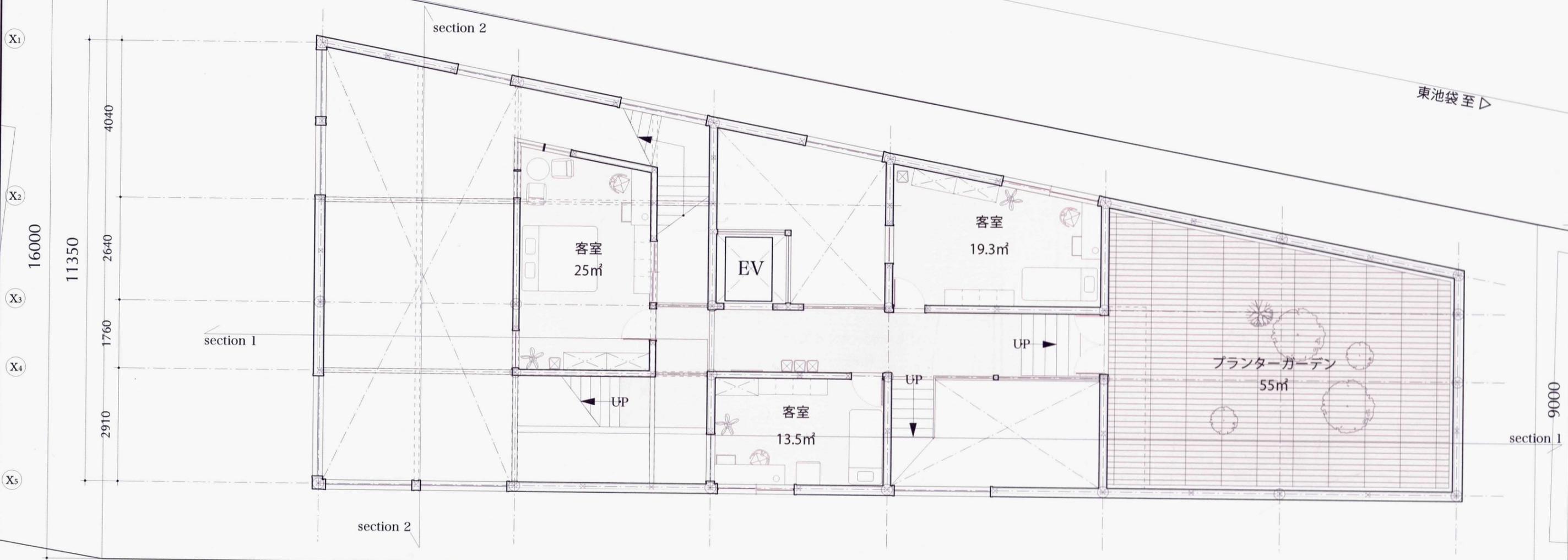
date

2012.02.15

◁ 至 鬼子母神 ▷

◁ 環状5の1号線 ▷

東池袋 至 ▷



◁ 雑司ヶ谷霊園 ▷

A ZOSHIGAYA HOUSE 平面図 GL+11,000
Scale / 1:100

drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
ZOSHIGAYA HOUSE

P.049

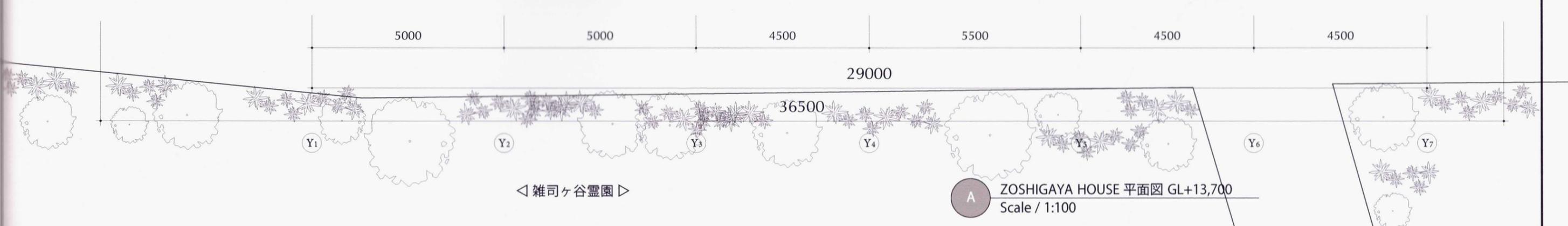
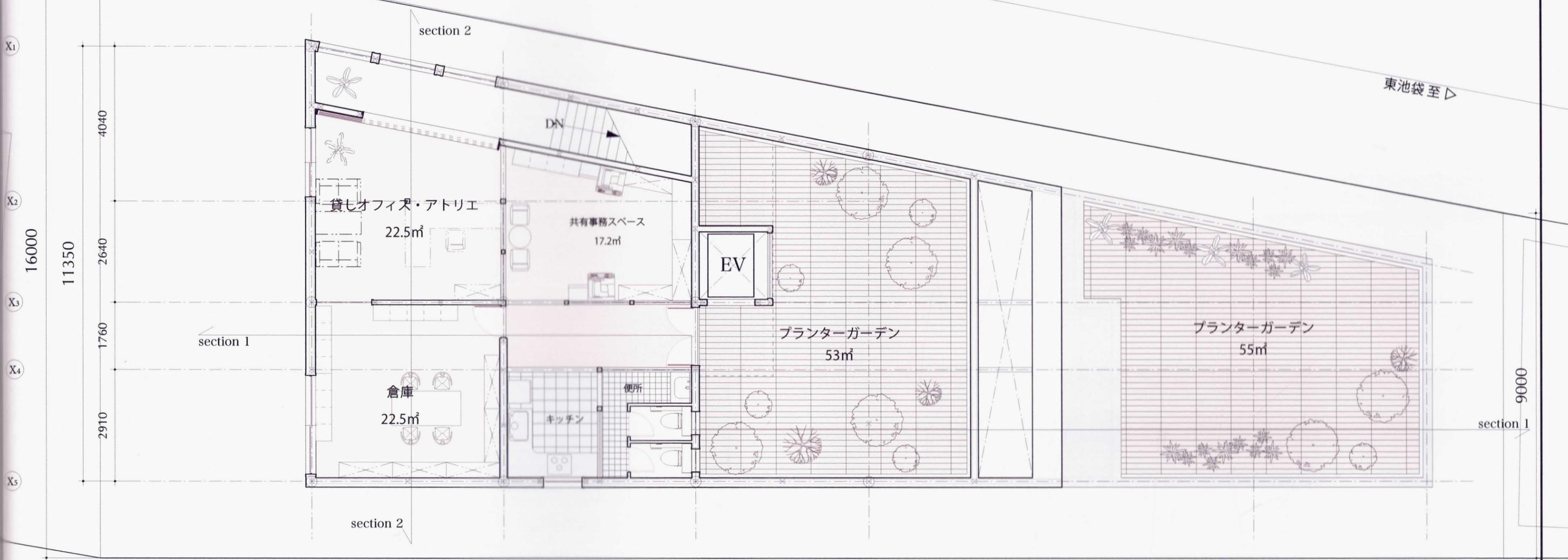
remarks
-

date
2012.02.15

◁ 至 鬼子母神 ▷

◁ 環状5の1号線 ▷

東池袋 至 ▷



◁ 雑司ヶ谷霊園 ▷

A ZOSHIGAYA HOUSE 平面図 GL+13,700
Scale / 1:100



drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
ZOSHIGAYA HOUSE

P.050

remarks

-

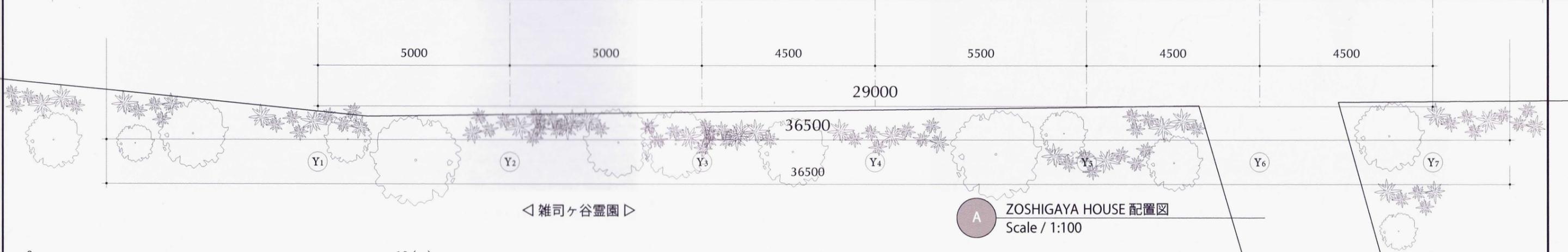
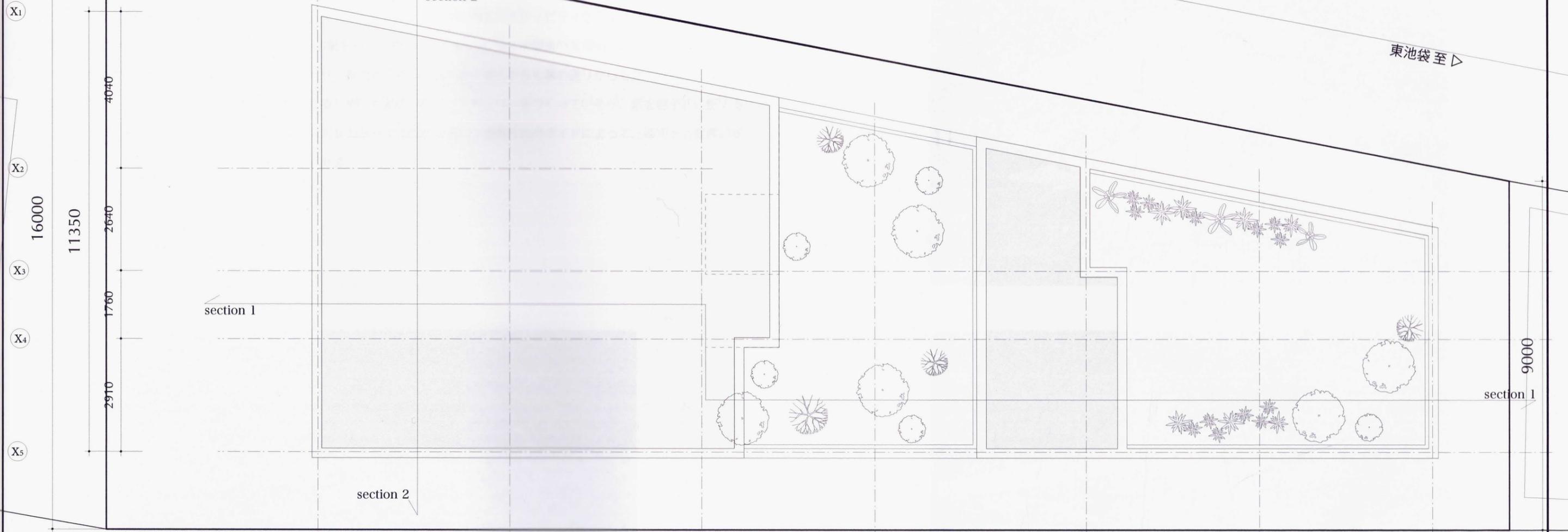
date

2012.02.15

◁ 至 鬼子母神 ▷

◁ 環状5の1号線 ▷

東池袋 至 ▷



◁ 雑司ヶ谷霊園 ▷

A ZOSHIGAYA HOUSE 配置図
Scale / 1:100



drawn by
Akihito KUNIMOTO

name
ZOSHIGAYA HOUSE

P.051

05-2-2.ZOSHIGAYA HOUSE 構造・断面計画

周囲の恵まれた環境を鑑みて、広いオープンスペースをつくることで、開放感のあるアクティビティを表出させようと考えた。その結果、オープンスペースを支える方法と建物上部の加重を小さく抑えることからRC造と木構造の混構造を採用した。1階にはオープンスペースとの活動にリンクできる大きな工房をつくり、またそこでの活動が表の通りからも裏の通りからも見え隠れする様に、アーチ状の開口を穿った。またオープンスペースを支えるために大掛かりなキャンチレバーをつくっているが、梁を組子状に配することで少しでも剛性を保つことを考えた。また平面的な凹凸や吹き抜けを通じた垂直方向のボイドによって、雑司ヶ谷霊園の緑で発生すると考えられる微気候を利用した自然換気を試みる。

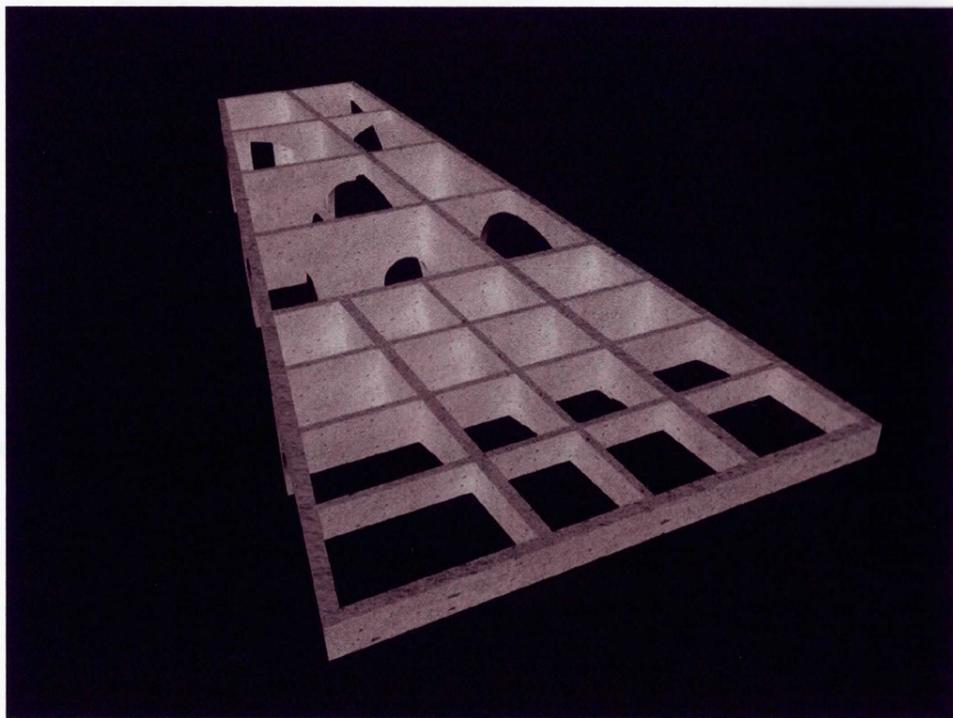


図 118. キャンチレバーを支える組子状の梁

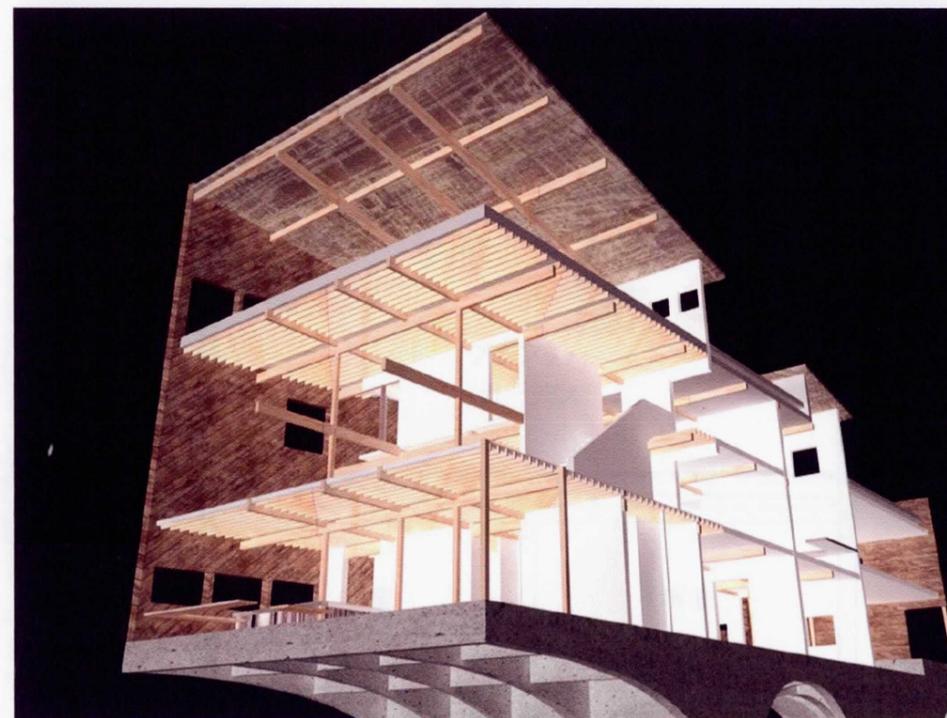


図 120. 南側の主な共用部は構造が現しになり開放感を演出する

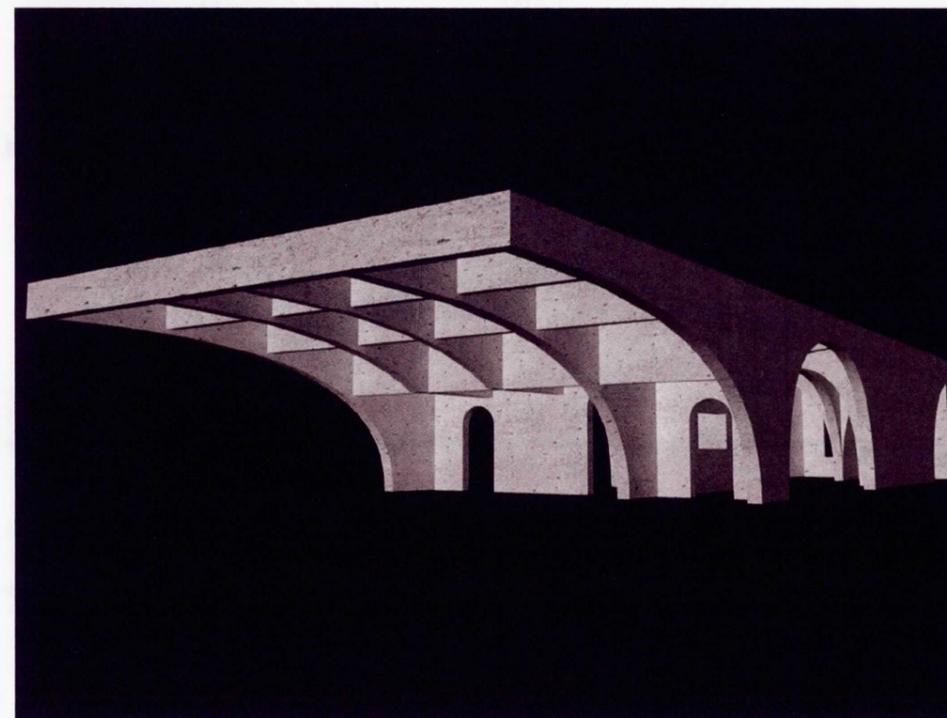
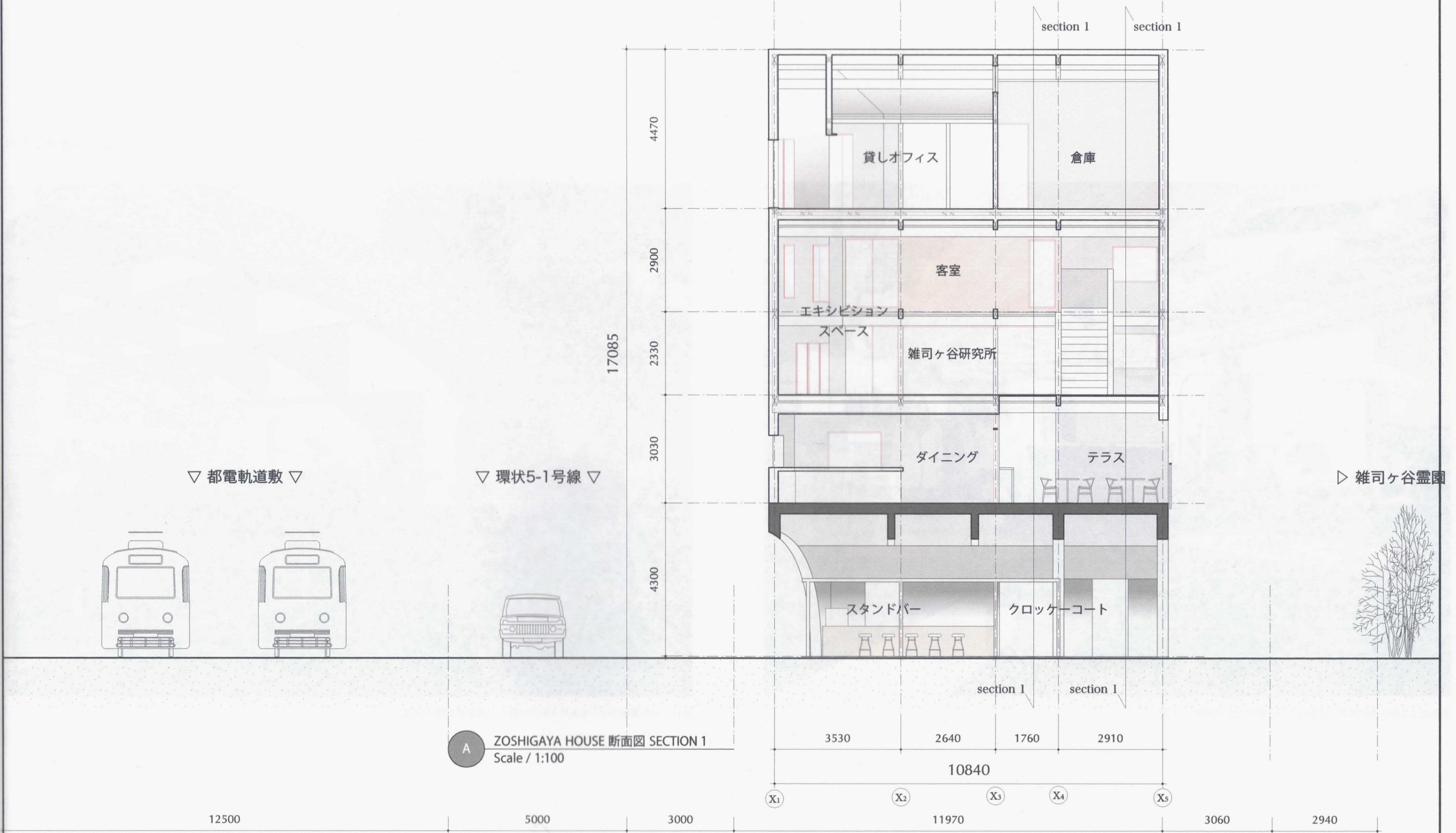


図 119. 広いオープンスペースをつくる為のキャンチレバー



A ZOSHIGAYA HOUSE 断面図 SECTION 1
 Scale / 1:100



05-1-3. 利用イメージ



図 121. 様々な生活品を通したライフスタイルの提案が行われる

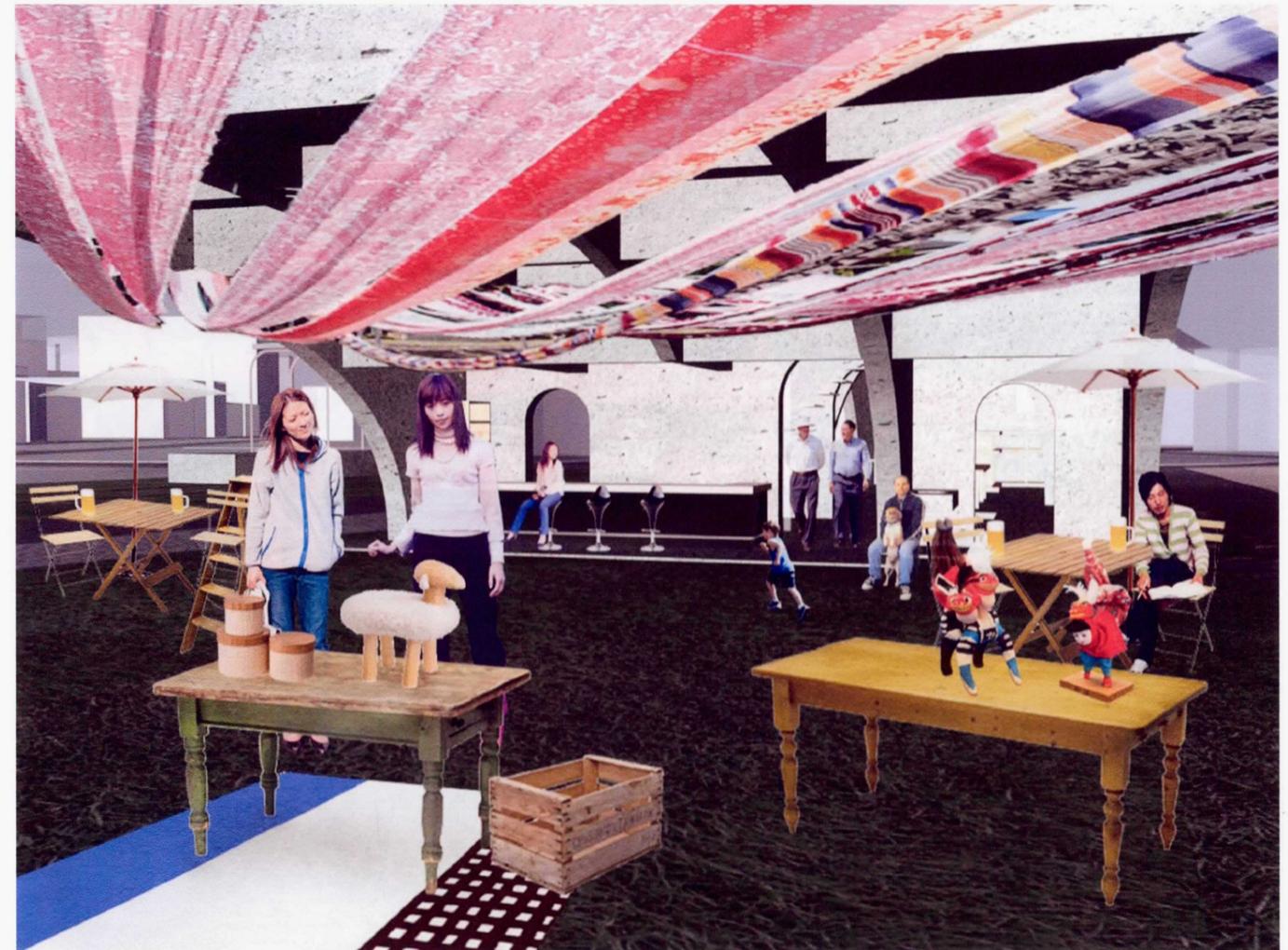


図 122. 休日などには催し物の会場として利用されることもある



図 123. ギャラリー+オフィス+客室



図 124.3 階のギャラリーではいつも個展や研究成果の展示などが行われる



図 125.2F エレベーターホールと凹凸のある通路

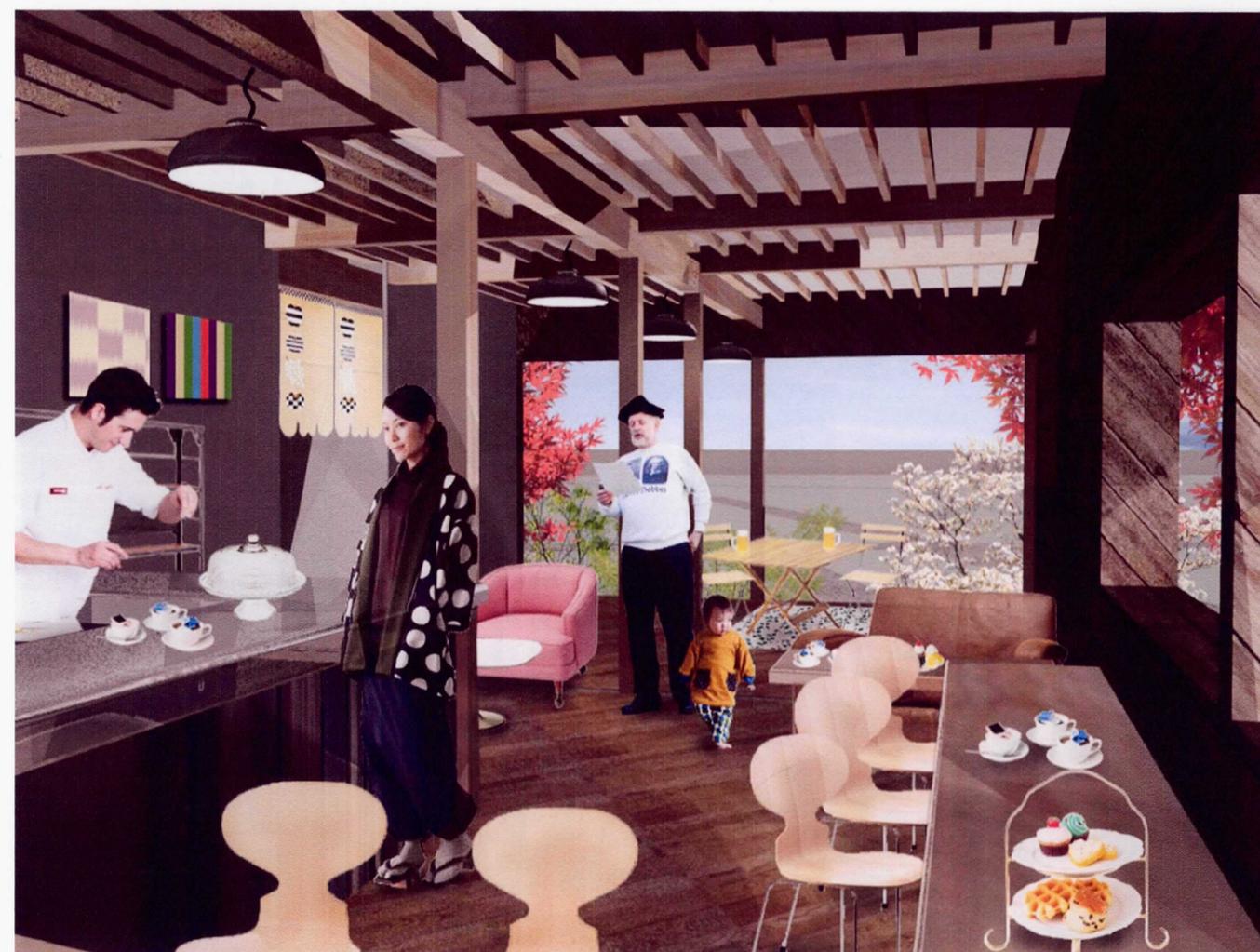


図 126.2F ダイニング (深い緑を背景に)



図 127. 共有部と客室を緩やかにつなげる吹き抜け



図 128. 滞在者の溜まり場となる 2F ラウンジ

06. おわりに

本計画で密集地などの土地にかかる問題に対して具体的な解答を示した訳ではない。しかし、まちの中に停滞・膠着した状況を生み出しやすい空白を利用し、さらにそこへ地域産業という固有の土着・文化的、人的かつ物的な資源を注入することでヒトやモノが動き、さらにそれらをネットワーク化することでまちが動き出すような展開の一端を示すことはできたと思う。

誰にとっても便利で有難い画一的な大量生産・大量消費はもはや求心力を失っている。また個の発信力が高まるにつれて、地域や界限といったような、これまで誰もが盲目的になっていた小さな枠組みの中に新しい価値を見出そうとする機運は高まりつつある。

【参考文献】

- 「都電型都市空間のすすめ」 伊藤滋 編 彰国社 1994.10
- 「都電荒川線に乗って」 荒川区教育委員会 荒川区ふるさと文化館 編 2011.11
- 「大都市地域の諸相」 菊池美代志 学文社 1985
- 「都電荒川線と沿線商店街の特性に関する研究」 古田五波 (早稲田大学大学院修士論文) 1998
- 「都電荒川線における停留場を中心としたまちの構成」 中井邦夫 (神奈川大学大学院准教授) 2010
- 「雑司ヶ谷研究その1- 道路の構成と住宅更新 -」 皆川智子 (日本女子大学卒業論文) 2011
- 「東京下町の地域課題とコミュニティの可能性」 柿崎康 (早稲田大学卒業論文) 2004
- 「産業クラスターと地方経済」 立花伸一
- 「東京都交通局経営計画」 東京都交通局 2010.2
- 「池袋副都心整備ガイドプラン」 豊島区都市整備部 2010.6
- 「豊島区都市計画マスタープラン」 豊島区 2000.3
- 「区部における都市計画道路の整備方針 概要板」 東京都 特別区 2004.3
- 「荒川地域ブランド」 荒川区産業経済部観光振興課 2010.11
- 「北区産業活性化ビジョン」 北区 2008.1
- 「荒川区低炭素地域づくり計画」 荒川区 2010.10
- 「訪日外国人の消費動向平成 22 年年次報告書」 国土交通省観光庁
- 「TIC 利用外国人旅行者訪日旅行実態調査報告書」 日本政府観光局 (JNTO) 2010.11
- 「在日外国人の日本滞在中の旅行に関する意識調査報告書」 日本ツーリズム産業団体連合会 2005.3
- 「外国人留学生在籍状況調査結果」 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) 2004~2010 年度分
- 「2011 年卒マイコミ新卒内定状況調査」 2010.9

【出典】

- p.009 図 28,29,30 「荒川区低炭素地域づくり計画」 第 2 章 p.11,p.12 より
- p.011 表 2,5,6 「TIC 利用外国人旅行者訪日旅行実態調査報告書」 より
- p.011 表 3,4 「訪日外国人の消費動向平成 22 年年次報告書」 より

【参考ホームページ】

- 荒川区ホームページ <http://www.city.arakawa.tokyo.jp/>
- 北区ホームページ <http://www.city.kita.tokyo.jp/>
- 豊島区ホームページ <http://www.city.toshima.lg.jp/>
- 新宿区ホームページ <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>
- 東京都総務局ホームページ <http://www.soumu.metro.tokyo.jp/index.htm>
- 総務省統計局ホームページ <http://www.stat.go.jp/>
- 日本政府観光局ホームページ http://www.jnto.go.jp/jpn/tourism_data/index.html
- 観光庁ホームページ <http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/index.html>
- 日本学生支援機構ホームページ <http://www.jasso.go.jp/statistics/index.html>
- 東京都交通局ホームページ <http://www.kotsu.metro.tokyo.jp/index.html>
- 東京都都市整備局ホームページ <http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/index.html>
- 東京都伝統工芸司会ホームページ <http://www.dentoukougei.jp/>
- 新宿区染色協議会ホームページ <http://www.tokyo-somemono.com/some/index.html>
- 北区伝統工芸保存会ホームページ http://kita-dentoukougei.jp/hozonkai_top.html
- MACC プロジェクトホームページ <http://sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/>
- 東京手描き友禅工房協美ホームページ <http://www.yu-zen.net/yuzen/>